大阪府

新学習指導要領の趣旨を踏まえた

「観点別学習状況の評価」実施の手引き

～育成すべき資質・能力をバランスよく確実に育むために～

各教科事例集

令和３年１月

大阪府教育委員会

目　　次

本事例集の読み方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
１　国語 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
２　地理歴史 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
３　公民 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
４　数学 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
５　理科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
６　保健体育 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
７　芸術（音楽） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
８　芸術（美術・工芸） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50
９　芸術（書道） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・56
10　外国語 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・62
11　家庭 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・68
12　情報 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・74
13　農業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・80
14　工業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・86
15　商業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・92
16　福祉 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・98

本事例集の各教科ページの構成

1　科目の観点及びその趣旨の作成について

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

学習指導要領の「教科の目標」と改善等通知別紙５の「評価の観点及びその趣旨」との関係性を踏まえ、学習指導要領の「科目の目標」を基に、科目における「評価の観点の趣旨」の設定例を記載しています。

2　指導と評価の年間計画（シラバス）について

学期	題材	学習内容	題材の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
○学期	『大人』として自立した経済生活を営むことは	・18歳で大人? ・契約で成り立つ消費生活 ・契約を解除できる条件 ・家計とその特徴、家計管理 ・キャッシュレス決済の仕組み、使い方	a：家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理、消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定の重要性、消費者保護の仕組みなどについて理解するとともに、生活情報の収集・整理が適切にできる。	ペーパーテスト	ワークシート パフォーマンス課題	授業観察 ワークシート ポートフォリオ

１で設定した科目における「評価の観点の趣旨」及び学習指導要領の科目の内容を参考に単元（題材）の評価規準を記載しています。

学習内容及び評価規準を基に、記録に残す評価の方法を、観点ごとに記載します。

3　題材における観点別学習状況の評価の進め方

（１）題材における指導と評価の計画

ア）科　目　名：「家庭基礎」

イ）題　材　名：『大人』として自立した経済生活を営むこととは［全９時間］

ウ）学習指導要領との関連：内容Ｃ持続可能な消費生活・環境

（1）生活における経済の計画アイ　　動と意思決定アイ

エ）題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理、消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定の重要性、消	生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動すること	生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動すること

２で設定した単元（題材）の評価規準を改めて記載しています。

オ）指導と評価の計画（全９時間）　　●…形成的評価、○…総括的評価

時	主な学習活動	評価の観点 知	思	主	評価規準・評価方法
1	成年年齢引下げに伴う生活事象の変化を総合的に捉え、学習の見通しをもつ。		●		〔思①〕（ワークシート、観察） ・生活における経済の管理や計画の重要　自立した消費者として、適切な意思決定に基づき行動す　ことなどについて、問題を見いだして課題を設定している。
	【題材を貫く課題】 成人として、健康・快適・安全かつ持続可能な自立した消費生活を営むためには、何をどのようにできるようになればよいのだろうか。				
2	若者に多い契約トラブル事例を基に、契約とは何か、また消費者保護の仕組みについて理解する。	○ ○			〔知①〕（ペーパーテスト） ・契約するときの注意点、契約における未成年と成年の法律上の責任の違いについて理解している。 〔知②〕（ペーパーテスト） ・クーリング・オフ　の他、契約がキャンセルできる場合を理解している。

シラバスに記載している単元（題材）の評価方法について詳細に記載しています。

（2）具体的な評価方法（評価課題や判断基準）について

ア）「思考・判断・表現」の評価

本事例は、第１時に「題材を貫く課題」を設定して、本題材を学習する動機付けを行い、見通しをもたせた上で、各自の課題解決に向けて「１カ月の家計シミュレーション」「キャッシュレス決済のロールプレイング」「若者に多い様々な消費者問題（事例研究）」の３つの学習課題を設定して、問題解決の学習過程のステップを丁寧に押さえ、生徒が自分事として考え続けながら学習し、「主体的・対話的で深い

「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の具体的な評価例を記載しています。

（3）家庭科における観点別学習状況評価の留意事項

ア）問題解決のプロセスを踏まえた指導と評価の充実

実生活との関連を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れて、家庭科で育成をめざす　つの資質・能力をバランスよく育む。生活の課題発見→解決方法の検討・計画→課題解決に向けた実践活動→評価・改善という一連の学習活動の中で、家庭生活や地域の生活の中で活用できる知識及び技能の習得、生涯を見通して生活の課題を解決する力や生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を評価する場面や頻度を精選し、位置付ける。

観点別学習状況の評価を進める上で、各教科の特質を踏まえた留意事項を記載しています。

国語科における観点別学習状況の評価の進め方について

ここでは、教科「国語」の科目「言語文化」を例に、「指導と評価の一体化」を実現するための観点別学習状況評価の進め方について説明する。

1　科目の「評価の観点の趣旨」の作成について

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領に示された教科・科目の目標や内容、「改善等通知」に示された教科の「評価の観点及びその趣旨」に基づき、科目の「評価の観点の趣旨」を設定することにより、その科目の学習を通して育成をめざすべき資質・能力と評価の基本的な枠組みを捉えることが大切である。

以下は、教科の目標と「評価の観点及びその趣旨」との関係性を踏まえた、「言語文化」の目標に対する「評価の観点の趣旨」の例である。

【「第２款 第２ 言語文化」の「評価の観点の趣旨」（例）】

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

2　指導と評価の年間計画（シラバス）について

指導と評価の年間計画（シラバス）の作成にあたっては、１の「言語文化」の「評価の観点の趣旨」に基づき、単元ごとの評価規準を設定する。指導と評価の年間計画（シラバス）は教材の配列ではなく、年間を通して教科・科目の目標の実現をめざすためのものである。学校教育目標、生徒の発達段階や学習状況を考慮するとともに、他教科との関連も見通して、年間の学習内容を計画する必要がある。

※「言語文化」指導と評価の年間計画（シラバス）＜記入例＞

学期	単元名	学習内容	単元の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
○学期	作品の主題について考え、述べる	小説「羅生門」と、その原作と言われる「今昔物語集」を比較し、それらの違いから分かる「羅生門」の主題や作者の意図について考え、文章でまとめる。	a：文章の意味は、文脈の中で形成されていることを理解している。 b：[読]「読むこと」において、内容や構成、展開などについて叙述を基に適切に捉えるとともに、文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 c：進んで文章全体を整え、今までの学習を生かして自分の考えを述べ、他者の意見を踏まえながらよりよいものにしようとしている。	定期考査 ワークシート	ワークシート 観察	ワークシート 振り返りシート

・基本的には、当該「内容のまとまり」で育成をめざす資質・能力に該当する〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕で示された内容をもとに、**その文末を「～している」「～することができる」などとして評価規準を作成する。**

・「思考・判断・表現」の冒頭には、**当該単元で指導する一つの領域について、「～において」と明記する。**

基本的には、「改善等通知　別紙5　各教科等の評価の観点及びその趣旨＜国語＞」における「主体的に学習に取り組む態度」をもとに、当該の「内容のまとまり」で育成をめざす**「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の指導事項等を踏まえ、その文末を「～しようとしている」として評価規準を作成する。**

＜学習指導要領　国語科　科目「言語文化」

２　内容　〔知識及び技能〕(1) エ、　〔思考力・判断力・表現力等〕B 読むこと (1)ア、エ、(2)イ、ウより＞

〔知識及び技能〕
(1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
エ 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解すること。

〔思考力、判断力、表現力等〕
B　読むこと
(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア　文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えること。
エ　作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めること。
(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものする。
イ　作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動。
ウ　異なる時代に成立した随筆や小説、物語などを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動。

３　単元における観点別学習状況の評価の進め方

ここでは、上の「言語文化」単元名「作品の主題について考え、述べる」を取り上げ、国語科における観点別学習状況の評価の進め方について紹介する。

（１）単元における指導と評価の計画

ア）科目名：言語文化

イ）単元名：作品の主題について考え、述べる［全９時間］

ウ）学習指導要領との関連：〔知識及び技能〕(1) エ
〔思考力・判断力・表現力等〕B　読むこと (1) ア、エ　、(2) イ、ウ

エ）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文章の意味は、文脈の中で形成されていることを理解している。	「読むこと」において、内容や構成、展開などについて叙述を基に適切に捉えるとともに、他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができている。	進んで文章全体を整え、今までの学習を生かして問いに対する自分の考えを客観的に述べ、他者の意見を踏まえながらよりよいものにしようとしている。

オ）指導と評価の計画（全９時間）　　●…形成的評価、○…総括的評価

次	主な学習活動	評価の観点			評価規準・評価方法
		知	思	主	
1（1、2時限）	・「羅生門」を音読する。 ・「羅生門」を読解し、作品の主題について、自分の考えをワークシートに書き込む。	● 例１	●		〔知①〕（**ワークシート①**） ・文章構成やその特徴を把握し、文章表現から登場人物の心情を把握するなど文章を理解している。 〔思①〕（**ワークシート①**） ・読解を通じて得た知識を基に、「羅生門」の主題について考えることができている。
2（3～5時限）	・「今昔物語集」と読み比べを行い、「羅生門」との違いをまとめる。 ・なぜ違いを設けたと考えられるか、主題設定を軸として意見をまとめる。 **＊グループ活動**	● 例２	●	●	〔知②〕（**ワークシート②**） ・「今昔物語集」を読み、表現や構成の違いから、解釈が変わる点などをまとめることができている。 〔思②〕（**ワークシート②**、観察） ・表現や構成の違いから解釈が変わる点に基づき、主題に対する自分の意見をまとめることができている。 〔主①〕（観察） ・主題に対する自分の考えを述べ、他者の意見を踏まえ、自分の意見を考えようとしている。

3 （6、7時限）	・スピーチ及び質疑応答を行う。		●	●	〔思③〕（観察） ・文章の構成や展開の適切さを吟味して、自分の考えを述べることができている。 〔主②〕（観察） ・文章の構成や展開の適切さを吟味して、自分の考えを述べようとしている。
4 （8、9時限）	・スピーチを聞いて、表現や構成について参考になったことや、他者の指摘について納得したことなどを振り返り、自分の意見を再考する。		○ 例３	○ 例４	〔思④〕（**ワークシート③**） ・「今昔物語集」との違いを踏まえて、「羅生門」の主題についてここまで学んできたことから、自分の考えをよりよいものにするとともに、文章の理解を深めることができている。 〔主③〕（**振り返りシート**） ・描き方の違いによって生まれる解釈の差異に関心を持ちながら、自ら進んで自身の意見をよりよいものにし、今後の学習に生かそうとしている。

題材の評価規準を設定したら、題材の指導計画に示された学習過程を考慮しながら、それぞれの評価規準に対して、いつ、どのように評価を行うかを計画する。生徒全員について、毎時間「ワークシートの記述」を確認し記録を残すような評価の在り方は多大な時間を要し現実的には困難である。本事例では、日々の授業の中では、生徒の学習状況を把握して指導に生かすこと（形成的評価）に重点を置きつつ、評価の記録（総括的評価）については、基本的に単元のまとまりごとにそれぞれの評価規準の実現状況が把握できる段階で効率的・効果的に評価を行う計画としている。

国語科における評価については、個々の観点を単独で評価することはあるが、特に、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の評価については「知識・技能」の観点と密接に関連しながら評価を行うことが多いと考えられる。本事例では、第１～３次は３つの資質・能力育成の土台作りにあたる学習活動であるため、３観点ともに形成的評価とし、第４次の学習活動の中で「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」を総括的に評価する計画としている。また、「知識・技能」の総括的評価は、定期考査においてペーパーテストで行うこととする。

なお、この単元における指導と評価の計画では、「読むこと」の領域として指導することとしている。これは、「３領域の授業時数は重複しない」という考え方に基づくものである（（３）のイ）参照）。

（２）具体的な評価方法（評価課題や判断基準）について

ア）「知識・技能」の評価

「知識・技能」については、単に知識を暗記したり技能を用いたりすることのみで評価されがちだが、ペーパーテストで評価を行う場合にも、知識の概念的な理解を問う問題に取り組ませたり、習得した知識を用いて表現する場面を設けることなどが求められる。

本事例では、第１次において、登場人物の心情読解や描写による効果を問う学習活動を行い、「ワークシート①」の記述により、理解できているか確認した上で次の学習につなげる〔知①〕とともに、読解により得た知識から作品の主題を考える取組みを評価する〔思①〕。

右に示した「ワークシート①」では、(4)を考えさせるため、まず(2)(3)の内容についてまとめさせている。(4)の「羅生門の主題」について、内容や表現と関連付けて考えることができていれば、「おおむね満足できる」状況（Ｂ）と判断する。

例１　評価規準〔知①〕〔思①〕　「ワークシート①」

(1) 羅生門のあらすじを書きなさい。
(2) 登場人物のそれぞれの場面や行動における心情をまとめなさい。
(3) 羅生門の文章表現の特徴を書きなさい（箇条書きで良い）。
(4)「羅生門の主題」を考えて書きなさい。

また、複数の情報が関連付けられていれば「十分満足できる」状況（Ａ）と判断する。なお、(4)に達していない場合は、卑近な例をとりあげて、表現の違いによる気づきを促すなどの指導が必要である。

第２次では、右に示した「ワークシート②」を用いて、原作との表現や構成の違いから、解釈や文章全体の意味がどのように変化するか考えられているかを見取る〔知②〕。その上で、比較により得た知見から、作品の主題について考えさせる。また、ここではグループ活動を行い、それぞれが考えた意見を共有し、新たな気づきにより再考させることにより「思考・判断・表現」を見取る機会とした〔思②〕。

例２　評価規準〔知②〕〔思②〕「ワークシート②」

(1) 今昔物語集との違いで注目したところは
(2) 違いから受ける印象や効果は
(3) 話し合いの結果、羅生門の主題は
(4) 根拠をまとめると

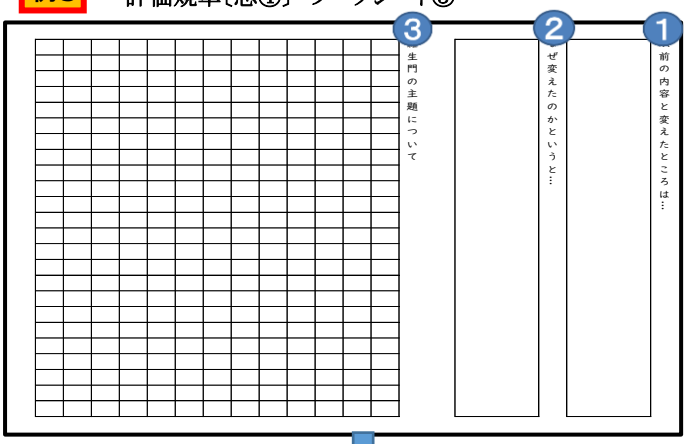
イ）「思考・判断・表現」の評価

「思考・判断・表現」については、国語の各科目の〔知識及び技能〕を活用して、課題を解決するなどのために必要な〔思考力、判断力、表現力等〕を身に付けているかどうかを評価する。本事例では、第３次において、主題に対する自分の考えを発表する場面を設定した。なお、これまでの単元において「話す・聞く」活動を行っていない場合には、発表の仕方や工夫について、事前の学習が必要となる。

【「思考・判断・表現」評価規準〔思④〕について】

第４次には、本単元における「思考・判断・表現」の評価規準とした「内容や構成、展開などについて叙述を基に適切に捉えるとともに、他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができている」状況を、「『今昔物語集』との違いを踏まえた『羅生門』の主題について、ここまで学んできたことを基に自分の考えをよりよいものにするとともに、文章の理解を深めることができている」姿と捉えて、「ワークシート③」の記述を基に総括的評価を行う。なお、ワークシートの記述の評価にあたっては、ルーブリック（評価基準表）を作成し、生徒に予め提示しておくことも考えられる。

例３　評価規準〔思④〕ワークシート③



評価規準〔思④〕に対する判断基準

「十分満足できる」状況（A）
主題についての自身の意見を、文章の比較を通じて考え、他者からの指摘を踏まえながら複数の根拠を示し、丁寧に述べられている。

「おおむね満足できる」状況（B）
主題についての自身の意見を、文章の比較を通じて考え、他者からの指摘も踏まえながら根拠を示し、述べられている。

「努力を要する」状況（C）
主題についての考えを述べられていない。

■「おおむね満足できる」状況（B）と判断した生徒Ａの記述例

1 以前の内容と変えたところは…
主題を「理不尽で不可解な下人」から、「人間の避けられないエゴイズム」にしたこと。
考えた主題に関係する根拠を補強したところ。

2 なぜ変えたのかというと…
原作と読み比べた後のグループ活動のなかで、作者の視点に気付いたから。
発表後の質疑応答の時に、限られた部分の表現を根拠にしていることを指摘されて、確かに根拠が弱いと思ったから。

3 『羅生門』の主題について
私が考える羅生門の主題は、「人間の避けられないエゴイズム」です。
原作と本作のとの比較を通じて、第三者である作者の目線で描かれているところに着目しました。原作は部分的にナレーションのようなところはあるものの、本作では登場人物の心情をよりリアルで生々しく表現する作者の存在が作品全体に感じられます。そのリアルさから、いい加減な理由で、ある時は正義に燃え、ある時は悪に走るといった下人の姿を描き、自分勝手で都合のいい理屈を述べる老婆とともに自分本位に行動してしまう人間の心そのものの有様が主題として描かれていると考えました。

生徒Ａさんの場合、当初の自分の考えが、様々な学習活動を行う中で変容し、他者からの指摘も踏まえながら根拠とともに表現し直すことができていることから、「おおむね満足できる」状況（Ｂ）と判断した。根拠にあたる部分が多岐にわたり、自分の意見に関連付けられておれば十分満足できる状況（Ａ）と判断できる。これは、文章の様々な表現と関連付けることによって、文章の理解が深まっていることが確認できるためである。

ウ）「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「主体的に学習に取り組む態度」は、評価の観点の趣旨に照らして〔知識及び技能〕を獲得したり、〔思考力、判断力、表現力等〕を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価する。

ここでは、本単元における「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準とした「進んで文章全体を整え、今までの学習を生かして自分の考えを述べ、他者の意見を踏まえながらよりよいものにしようとしている」状況を、評価規準〔主③〕である「描き方の違いによって生まれる解釈の差異に関心を持ちながら、進んで自身の意見をよりよいものにし、今後の学習に生かそうとしている。」姿と捉えて、「振り返りシート」の記述から総括的評価を行う。その際、ワークシートも併せて評価材料とする。

「振り返りシート」の①では、文章全体を整えるために何を考え、そこからどういった工夫をしたかという「粘り強さ」を、②では、自己の学びを振り返り、今後の学習の見通しを書かせることにより「自らの学習を調整する」姿を見取ることを意図した。

例４　評価規準〔主③〕「振り返りシート」

①原作と比較してどのようなことに気づき、意見を書く際に、どういった工夫をしましたか。

②本単元を通して学んだことや疑問点を挙げ、今後の学習にどう生かそうと考えているか書きなさい。

■「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒Ｂの解答例

①原作と比較してどのようなことに気づき、意見を書く際に、どういった工夫をしましたか。

原作と比較すると、ナレーションに相当する部分の描き方に大きな違いを感じた。原作では、簡素で事実のみを描いていたが、『羅生門』ではまるでそこにいる人が見ているかのようなリアルさや、下人の心情を代弁するかのような距離感で描かれている部分が面白いと思った。

私は「生への執着」を意見として書いた。最初は、下人と老婆の姿からこのテーマを考えていたが、原作と比較してみると、先ほども書いたような違いから、「人間の生」に執着している部分の設定や描写が増やされていることが分かったので、具体的な記述を挙げながら、自身の意見を補強した。 スピーチをしたときに、様々な動物を作中に挙げていることについて言及していないことを指摘されたことで、もしかしたらリアリティ以外にも恐ろしさや気持ち悪さを表現する一つになっているかもと考え、表現を整理し、意見を再構成した。

②本単元を通して学んだことや疑問点を挙げ、今後の学習にどう生かそうと考えているか書きなさい。

今回の学習で学んだことは、本作だけで小説を味わうことも面白いが、読み比べることで新たな発見があることだった。原作の骨組みだけを使い、違う形で表現するというのは、漫画やアニメで触れたことはあったが、精密に読むことで改変の意図を考えたり話し合ったりすることで色々な発見があるのが面白かった。

今後、違う小説を読むときに、表現の意図にこだわって読んでみようと思う。作者の意図が何なのか考えるのは面白いし、文章全体に込められた作者の思いを考えてみたい。

生徒Ｂさんの場合、①からは今回の学習活動の中で学んだことを生かし、自分の意見を他者からの意見を踏まえ、新たな観点で見直せており、粘り強く学習に取り組んだ結果、文章の理解が深まっていることが分かる。また、②からも別の学習において、今回の学習で学んだことを生かそうとする姿勢が読み取れることから、十分満足できる状況（Ａ）と判断した。

（３）国語科における観点別学習状況の評価に係る留意事項

ア）形成的評価と総括的評価

国語科においては各領域にかかる指導事項を基に様々な学習活動を行うが、各単元において行うすべての学習活動を評価する必要はなく、単元のまとまりの中で育成をめざす資質・能力が身に付いたかどうかを評価する。例えば、「話すこと・聞くこと」にかかる資質・能力を育成しようと単元計画を立て、「読む」活動や「書く」活動を行うが、それらは「話すこと・聞くこと」にかかる資質・能力を育成するための活動であり、それぞれの活動を評価しなくてもよく、適宜、形成的評価の材料とすればよい。

総括的評価については、単元の中で様々な活動を通じて、生徒の力が伸びきったと思われるところで、育成をめざす資質・能力が身に付いているかどうかを評価することが大切である。

イ）各領域における授業時数について

高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）において、学習指導要領に示される国語科のすべての科目の「２ 内容」は、〔知識及び技能〕及び〔思考力、判断力、表現力等〕から構成され、その〔思考力、判断力、表現力等〕は「Ａ 話すこと・聞くこと」「Ｂ 書くこと」「Ｃ 読むこと」の３つの領域から構成されている（科目によって設定されている領域は異なる。設定されている領域は以下の【参考】を参照）。

また、学習指導要領の「３ 内容の取扱い」には、科目ごとに設定された各領域の指導に配当する授業時数が定められている。例えば、「現代の国語」の場合、「『Ａ話すこと・聞くこと』に関する指導については、20～30 単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。」と示されている。そして、そのことに関して学習指導要領解説には、「この配当時間は『Ａ話すこと・聞くこと』に関する内容を指導するために要する時間を基礎として定めたものであり、『Ｂ書くこと』及び『Ｃ読むこと』に関する指導とは区別して計画することが必要である。」と示されている。すなわち、「３領域の授業時数は重複しない」ことが前提となっていることに留意が必要である。

【参考】各科目の「内容の取扱い」に示された各領域における授業時数

<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th colspan="3">〔思考力、判断力、表現力等〕</th></tr>
<tr><th>Ａ 話すこと・聞くこと</th><th>Ｂ 書くこと</th><th>Ｃ 読むこと</th></tr>
<tr><td>現代の国語</td><td>20～30 単位時間程度</td><td>30～40 単位時間程度</td><td>10～20 単位時間程度</td></tr>
<tr><td rowspan="2">言語文化</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">５～10 単位時間程度</td><td>【古典】
40～45 単位時間程度</td></tr>
<tr><td>【近代以降の文章】
20 単位時間程度</td></tr>
<tr><td>論理国語</td><td></td><td>50～60 単位時間程度</td><td>80～90 単位時間程度</td></tr>
<tr><td>文学国語</td><td></td><td>30～40 単位時間程度</td><td>100～110 単位時間程度</td></tr>
<tr><td>国語表現</td><td>40～50 単位時間程度</td><td>90～100 単位時間程度</td><td></td></tr>
<tr><td>古典探究</td><td></td><td></td><td>※</td></tr>
</table>

※「古典探究」については、「読むこと」の領域だけであるため、授業時数は示されていない。

国語科の目標である「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力」の育成に向けた指導の充実をめざし、指導と評価の年間計画（シラバス）の作成にあたっては、これらのことを踏まえ、「指導のねらいを明確にする」ことが重要である。

地理歴史科における観点別学習状況の評価の進め方について

ここでは、教科「地理歴史」の科目「地理総合」を例に、「指導と評価の一体化」を実現するための観点別学習状況評価の進め方について説明する。

1　科目の「評価の観点の趣旨」の作成について

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領に示された教科・科目の目標や内容、「改善等通知」に示された教科の「評価の観点及びその趣旨」に基づき、科目の「評価の観点の趣旨」を設定することにより、その科目の学習を通して育成をめざすべき資質・能力と評価の基本的な枠組みを捉えることが大切である。

以下は、教科の目標と「評価の観点及びその趣旨」との関係性を踏まえた、「地理総合」の目標に対する「評価の観点の趣旨」の例である。

【「第２款 第１ 地理総合」の「評価の観点の趣旨」(例)】

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関係を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

2　指導と評価の年間計画（シラバス）について

指導と評価の年間計画（シラバス）の作成にあたっては、１の「地理総合」の「評価の観点の趣旨」に基づき、単元ごとの評価規準を設定する。指導と評価の年間計画（シラバス）は教材の配列ではなく、年間を通して教科・科目の目標の実現をめざすためのものである。学校教育目標、生徒の発達段階や学習状況を考慮するとともに、他教科との関連も見通して、年間の学習内容を計画する必要がある。

※「地理総合」指導と評価の年間計画（シラバス）＜記入例＞

学期	単元名	学習内容	単元の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
○学期	生活文化の多様性と国際理解	・ヨーロッパの自然 ・キリスト教に根ざす文化 ・ヨーロッパの農業と食文化 ・ヨーロッパの工業	a：人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。(知識) a：調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。(技能) b：ヨーロッパにおける自然及び社会的条件との関わりや、地域の結び付きなどに着目して、地域的課題を多面的・多角的に考察し、適切に表現している。	ペーパーテスト	ワークシート パフォーマンス課題	授業観察 ワークシート ポートフォリオ

基本的には、学習指導要領に示す「２ 内容」指導事項アに示される「知識」については、その文末を「～理解している」、「技能」については、その文末を「～身に付けている」として評価規準を作成する。
ただし、「技能」については、学習指導要領の「内容のまとまり」により、記載のあるものとないものがある。

基本的には、学習指導要領に示す「２ 内容」指導事項イについて、その文末を「～考察（、構想）し、表現している」、「…探究し、表現している」として評価規準を作成する。

	・ヨーロッパの統合(1) ・ヨーロッパの統合(2)	c：イギリスのＥＵ離脱の是非について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。			

基本的には、「改善等通知　別紙5　各教科等の評価の観点及びその趣旨＜地理歴史＞」における「主体的に学習に取り組む態度」をもとに、当該「内容のまとまり」等で育成をめざす**「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の指導事項等を踏まえ、その文末を「～を主体的に追究（解決）しようとしている（地理総合、歴史総合）」、または、「～を主体的に追究（探究）しようとしている（地理探究、日本史探究、世界史探究）」として評価規準を作成する。**その際、「評価の観点の趣旨」の冒頭に示された「～について」の部分は、この「内容のまとまり」で対象とする、学習指導要領上の「諸事象」を当てはめることとする。

＜学習指導要領　地理歴史科の目標及び
科目「地理総合」２　内容　Ｂ　国際理解と国際協力　(1) 生活文化の多様性と国際理解より＞

(1) 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

Ｂ　国際理解と国際協力

(1) 生活文化の多様性と国際理解

場所や人間と自然環境との相互依存関係などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

(ｱ) 世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理敵環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解すること。

(ｲ) 世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解すること。

イ　次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ｱ) 世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関りなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現すること。

３　単元における観点別学習状況の評価の進め方

ここでは、上の「地理総合」単元名「生活文化の多様性と国際理解」を取り上げ、地理歴史科における観点別学習状況の評価の進め方について紹介する。

（１）単元における指導と評価の計画

ア）科目名：「地理総合」

イ）単元名：生活文化の多様性と国際理解［全６時間］

ウ）学習指導要領との関連：内容　Ｂ　国際理解と国際協力　(1) 生活文化の多様性と国際理解　ア、イ
地理歴史科の技能に関する目標

エ）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
（知識） 人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 （技能） 調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	ヨーロッパにおける自然及び社会的条件との関わりや、地域の結び付きなどに着目して、地域的課題を多面的・多角的に考察し、適切に表現している。	イギリスのＥＵ離脱の是非について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

オ）指導と評価の計画（全６時間）　　●…形成的評価、○…総括的評価

時	主な学習活動	評価の観点			評価規準・評価方法
		知	思	主	
1	単元のはじめに ヨーロッパの自然	○		● 例３	〔主①〕（**単元シート**） ・ヨーロッパの地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 〔知①〕（ワークシート、ペーパーテスト） ・ヨーロッパ各国が多様な自然環境を背景に、伝統的な生活様式を確立してきたことを理解している。
2	キリスト教に根ざす文化	○			〔知②〕（ワークシート、ペーパーテスト） ・ヨーロッパの風土と諸民族、キリスト教文化などに着目させ、ヨーロッパの歴史、文化の特色を理解する。ヨーロッパの言語や宗教に共通性があることを理解している。
3	ヨーロッパの農業と食文化	○			〔知③〕（ワークシート、ペーパーテスト） ・ヨーロッパの気候や地形を基盤に発達した農業の地域的特色について理解している。
4	ヨーロッパの工業	○	●		〔知④〕（ワークシート、ペーパーテスト） ・ヨーロッパの工業の発展要因、特色を理解している。 〔思①〕（観察、ワークシート） ・なぜ現代のヨーロッパでは大型旅客機を国際分業で生産するかを考察できる。
5	ヨーロッパの統合(1)	○ 例２			〔技①〕（観察、**ワークシート**） ・工業や金融が盛んな西ヨーロッパで賃金が高く、東ヨーロッパから多くの移民が働くためにやってくることがわかる資料を正確に読み取り、まとめることができる。
6	ヨーロッパの統合(2)		○ 例１	○ 例３	〔主②〕（**単元シート**） ・ＥＵの動向に対して関心を高め、今後の世界や日本にとっても大きな影響を及ぼすことを、自分ごととして捉えようとしている。 〔思②〕（**ワークシート**） ・もし自分がイギリス国民ならＥＵ離脱に賛成か反対かを選択し、その理由をまとめ、相手に説明できる。

※「知識」の総括的評価は、ペーパーテストとして、ある程度の内容のまとまりについて実施する。

単元の評価規準を設定したら、単元の指導計画に示された学習過程を考慮しながら、それぞれの評価規準に対して、いつ、どのように評価を行うかを計画する。ここでは、日々の授業の中では、生徒の学習状況を把握して指導に生かすことに重点を置きつつ、評価の記録（総括的評価）については、基本的に単元のまとまりにおいて、それぞれの評価規準の実現状況が把握できる段階で評価を行う計画としている。

（２）具体的な評価方法（評価課題や判断基準）について

ア）「思考・判断・表現」の評価

「思考・判断・表現」の評価にあたっては、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、生徒が思考・判断・表現する場面を効果的に設定し指導・評価することが大切である。具体的な評価の方法としては、ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループでの話合い、作品の制作や表現などの多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなどが考えられる。

この単元では、「もしあなたがイギリス国民なら、イギリスのＥＵ離脱に賛成ですか？反対ですか？」という【単元を貫く問い】を設定し、イギリスのＥＵからの離脱という現実に起こっている問題を、主体的に捉え、既習事項や必要な資料は何かを自分で考えた上で適切な資料を探し、それを根拠に生徒が主体的に考察し、表現する力を身に付けているかを評価する。

【「思考・判断・表現」評価規準〔思②〕について】

単元末（第６時）の授業において、次の課題を実施し、評価規準〔思②〕により総括的評価を行う。

例１

［課題］「もし、あなたがイギリス国民なら、イギリスの EU 離脱に賛成ですか？反対ですか？」という問いに対して、学習したことやデータなどをもとに、自分の考えについて根拠を示してまとめてください。

判断基準については、ＥＵの離脱に賛成か反対かを判断しており、この単元で学んだことと、自分で収集した資料から読み取った情報を根拠として理由を述べておれば「おおむね満足できる」状況（Ｂ）とした。

評価規準〔思②〕の判断基準（例）

「十分満足できる」 状況（A）	「おおむね満足できる」 状況（B）
・EU の離脱に賛成か反対かを判断している。 ・この単元で学んだことと自分で収集した諸資料から読み取った情報を多面的・多角的に考察し、理由を述べている。	・EU の離脱に賛成か反対かを判断している。 ・この単元で学んだことと自分で収集した資料から読み取った情報を根拠に理由を述べている。

「おおむね満足できる」状況（Ｂ）の条件に加えて、さらに自分で収集した諸資料から読み取った情報を多面的・多角的に考察し、理由を述べているものを「十分満足できる」状況（Ａ）とした。例えば、右に示す生徒Ａさんの記述は、「おおむね満足できる」状況（Ｂ）にあたる。

Ａさんの記述の一部（※ 表○は省略）

私は（ 賛成 ・ 反対 ）です。

パスポートなしで自由にEU内を移動できるメリットは大きいと感じます。しかし、表○を読み取ると、他国から流れてきた移民に自分たちイギリス国民の税金が使われていることがわかりました。自分たちイギリス国民の保障だって満足にしていないのに、自分たちが収めた税金が使われているなんて納得いかないからです。

なお、「努力を要する」状況（Ｃ）である場合、授業で取り扱った資料を一緒に見直したり、他者の意見を参考に根拠となる理由を考え直し、再考するきっかけを与えたりするなど、支援の手立てを行う必要がある。

イ）「技能」の評価

地理歴史科の目標である「調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする」を踏まえ、本事例では、評価規準〔技①〕により「技能」について総括的評価を行う学習課題を設定した。

【「技能」評価規準〔技①〕について】

第５時の授業内において、次の課題を実施し、評価規準〔技①〕について総括的評価を行う。

例２

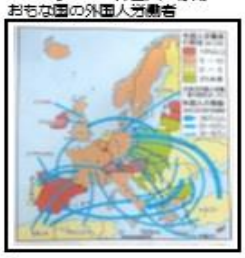
［課題］
右にある３つの資料を見て、移民の移動について、わかることをまとめてください。

資料Ａ
1人当たりのGNI（国民総所得）

資料Ｂ
1人当たりのＧＤＰでみるＥＵ加盟国の格差

EU28か国平均	36,700	100
ギリシャ	16,970	46
ポルトガル	16,650	45
ポーランド	13,820	38
ルーマニア	10,094	27
ブルガリア	7,713	21

資料Ｃ
ヨーロッパへの外国人の移動とおもな国の外国人労働者



資料Ａは１人当たりの国民総所得を示しており、スウェーデン、ドイツ、イギリス、フランスが 40,000 ドル以上、ブルガリアが 10,000 ドル未満であることがわかる。資料Ｂは１人当たりのＧＤＰでみるＥＵ加盟国の格差を示したもので、ＥＵ28 か国平均の指数を 100 に対するギリシャ、ポルトガル、ポーランド、ルーマニア、ブルガリアの指数が示されており、５か国とも指数が低く、経済的に厳しい状況下にあることがわかる。資料Ｃはヨーロッパへの外国人の移動とおもな国の外国人労働者の割合を示した

もので、ＥＵ内外からドイツを中心に、イギリス、フランスなどの国々に移動していることがわかる。

以下は判断基準（例）及び「努力を要する」状況（Ｃ）と判断した生徒への手立てである。資料Ａ～Ｃに触れながら、移民の移動について説明できておれば、「おおむね満足できる」状況（Ｂ）とした。

評価規準〔技①〕の判断基準（例）

「十分満足できる」状況（A）	「おおむね満足できる」状況（B）	「努力を要する」状況（C）と判断した生徒への手立て
・すべての資料 A～C に触れながら、移民の移動について説明できている。 ・既習事項などと結び付けて、まとめられている。	・すべての資料 A～C に触れながら、移民の移動について説明できている。	資料Ａ～Ｃが何を示している図表なのかを理解できるように支援する。 また、理解した後、どの資料から順番に説明するのが良いかを一緒に考える。

例えば、下に示す生徒Ｂさんの記述は、「十分満足できる」状況（Ａ）と判断する。

生徒Bの記述

EU 加盟国の GDP の指数に対して、ギリシャ、ポルトガル、ポーランド、ルーマニア、ブルガリアの東側に位置する国々が低い指数を示していることから、これらの国は経済状況が大変厳しいことがわかり、ルーマニアやブルガリアなどの国の人々が、自国よりも良い雇用と生活を求めて、１人当たりの GNI が高いヨーロッパの西側の国々へと移民となり移動したことがわかる。

ウ）「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「主体的に学習に取り組む態度」の評価にあたっては、単に継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するのではなく、地理歴史科の「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが重要である。

具体的な評価方法としては、ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教員による行動観察、生徒による自己評価や相互評価等の状況などを、教員が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることが考えられる。その際、生徒の学習の調整が「適切に行われているか」を評価することのみならず、知識や技能等の習得に結び付いていないと判断する生徒に対し、適切に支援することが求められる。

【「主体的に学習取り組む態度」評価規準〔主①〕〔主②〕について】

ここでは、イギリスのＥＵ離脱の是非について、よりよい社会の実現を視野に入れながら、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を評価する。その評価材料を収集するために活用した「単元シート」を紹介する。このシートは単元の初めの第１時〔主①〕、単元の学習の途中の第２～５時（〔主①〕と〔主②〕の間）、単元の学習を終える第６時〔主②〕の３つに分けて構成している。

「１　単元のはじめに」は、この単元について見通しをもって学習を進めることができるよう、【単元を貫く問い】を示している。この問いを生徒たちが知ることで、単元の学習を終了するときには、この問いに対する自分の答えを持つという目標ができる。そして、この段階での自分の考えを記入したり、判断するために欲しい情報は何かを考えさせたりして、学習に対する展望を持たせる。

「２　単元の学習の途中で」では、単元を貫く問いについて考えたこと、友人や先生の話したことで心に残ったことを記入させる。単元を貫く問いについて考えたことなどを、授業終了時に少しずつ書き溜めることによって、考えがどのように変化したか振り返ることができる。

「３　単元の学習を終えて」では、①この単元における自らの学習への取組みを自己評価すること、②今後の学習に生かしたいこと、③これからも考え続けていきたいことについて記入する欄を設けた。②の記述内容は「自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組む状況」を、③の記述内容は「主

体的に社会に関わろうとする態度」を評価する際の材料とする。

例３　「単元シート」の例

1　単元のはじめに　～見通しをもって単元の学習に臨もう～　　**第１時〔主①〕**

【単元を貫く問い】
「もしあなたがイギリス国民なら、イギリスの EU 離脱に賛成ですか？反対ですか？」

①現時点での考え　　②判断するために欲しい情報は何か？

2　単元の学習の途中で　　**第２～５時（〔主①〕と〔主②〕の間）**

（単元を貫く問いについて考えたことや、友人や先生の話したことで心に残ったことを記入しよう。）

毎時間授業が終わる度に、単元を貫く問いについて考えたことや自分の意見の変化、また、資料を探す上で困っていることなどを記入させたりする。

3　単元の学習を終えて　　**第６時〔主②〕**

①この単元の自分自身の学習への取組み（数字を○で囲もう）

良い　　3　　2　　1　　良くない

②今後の学習に生かしたいこと

「自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組む状況」の観点から評価

③これからも考え続けていきたいこと

「主体的に社会に関わろうとする態度」の観点から評価

以下は、評価規準〔主②〕にかかる判断基準（例）と「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒Ｂさんの記述である。

評価規準〔主②〕の判断基準（例）

「十分満足できる」状況（A）	「おおむね満足できる」状況（B）
・単元の学習を振り返って、問いに対する取組みや学習したことから、今後の学習にどのように生かそうとしているかが具体的に考えられている。 ・単元の学習後も、関心をもって自ら追究し続けたい、解決を図っていきたいこととして見いだした問いと、その方策について考えられている。	・単元の学習を振り返って、問いに対する取組みや学習したことから、今後の学習に生かそうとすることを見いだしている。 ・単元の学習後も、関心をもって自ら追究し続けたい、解決を図っていきたいこととして見いだした問いの内容が記入されている。

「自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組む状況」

「主体的に社会に関わろうとする態度」

Ｂさんの記述（②今後の学習に生かしたいこと）

経済的に豊かな国は、ＥＵに加盟するとデメリットを多く感じることから、離脱したいと思うのではないかと思った。だから、もし、ＡＵ（アジア連合）を作るとしたら、日本も加盟することになると思うので、ＥＵの基本構想は「人・金・物・サービス」の自由な流通であったが、ある程度、移民・難民を規制するように改善するなど、加盟したくなる組織を作りたいと思った。

（３）地理歴史科における観点別学習状況の評価の留意事項

ア）評価内容・方法の明確化

「知識・技能」を評価する場合、資料等から何を読み取ってまとめ、社会的事象について何をどのように理解していけばよいのか、それをどのような方法で見取るかなどを明確にする必要がある。

イ）記録に残す評価場面の設定

単元の学習過程を踏まえ、記録に残す評価の場面を設定する際には、学習課題を追究し、社会的事象を比較したり関連付けたりするなど、生徒の姿が最も見取りやすい時間に位置付けることが大切である。

公民科における観点別学習状況の評価の進め方について

ここでは、教科「公民」の科目「公共」を例に、「指導と評価の一体化」を実現するための観点別学習状況評価の進め方について、説明する。

１．科目の観点及びその趣旨の作成について

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領に示された教科・科目の目標や内容と合わせて、「改善等通知」に示された「教科の評価の観点及びその趣旨」に基づき「科目の評価の観点の趣旨」を設定し、公民科の学習を通して育成をめざすべき資質・能力と評価の基本的な枠組みを捉えることが大切である。

以下は、教科の目標と「評価の観点及びその趣旨」との関係性を踏まえた、「公共」の科目の目標に対する「評価の観点の趣旨」の例である。

【「第２款 第１ 公共」の評価の観点の趣旨（例）】

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

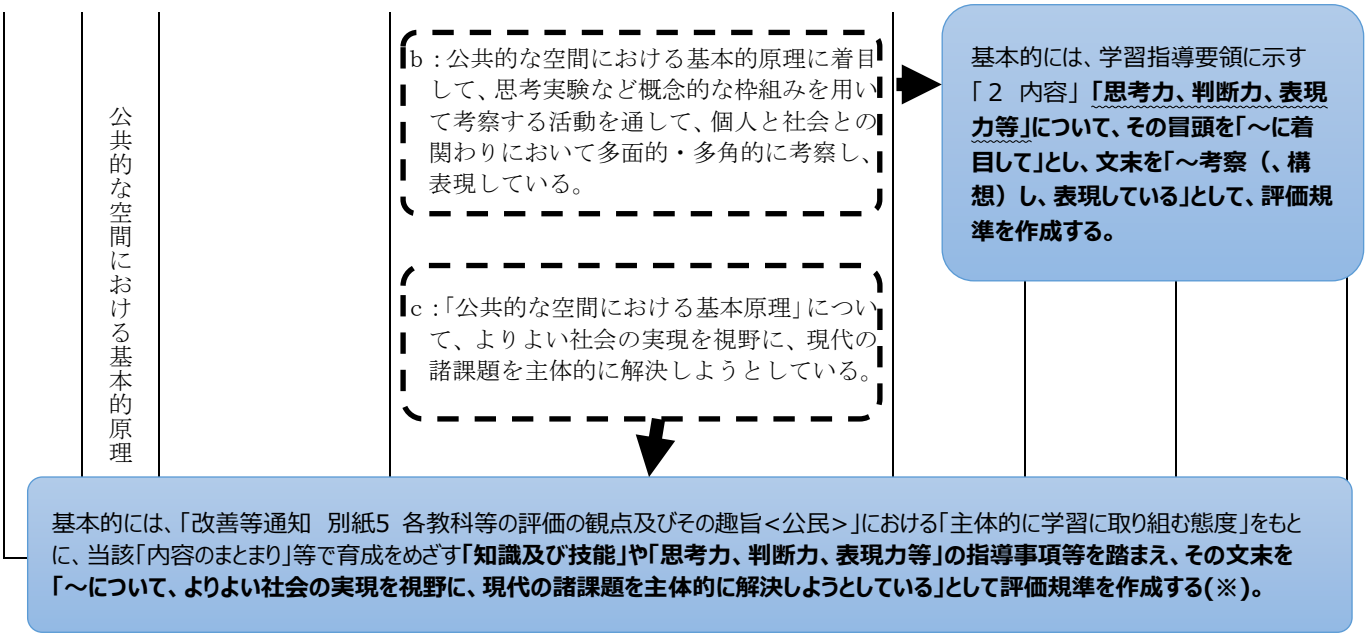
２．指導と評価の年間計画（シラバス）について

指導と評価の計画（シラバス）の作成に当たっては、１.の「公共」の評価の観点の趣旨に基づき、内容のまとまり又は単元（題材）の評価規準を設定する。指導と評価の計画（シラバス）は教材の配列ではなく、年間を通して教科・科目の目標の実現をめざしていくためのものである。学校教育目標や生徒の発達段階や学習状況を考慮するとともに、時機や学校行事等と教科との関連も見通して年間の学習内容を計画する必要がある。

※「公共」指導と評価の年間計画（シラバス）　＜記入例＞

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
○学期		・人間の尊厳と平等 ・個人の尊重 ・民主主義 ・法の支配 ・自由・権利と責任・義務	ａ：各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解している。 a：人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解している。	ワークシート ペーパーテスト	ワークシート ペーパーテスト パフォーマンス課題	授業観察 パフォーマンス課題 ポートフォリオ

基本的には、学習指導要領に示す「２ 内容」**「知識及び技能」について、「知識」についてはその文末を「～について理解している」、「技能」についてはその文末を「～を身に付けている(情報の収集・整理ができる)」として、評価規準を作成する。**



※ なお、「倫理」では、「～について、人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりしている」、「政治・経済」では、「よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている」として評価規準を作成する。

＜学習指導要領 公民 科目「公共」２内容 Ａ公共の扉 （３）公共的な空間における基本的原理より＞

（３）公共的な空間における基本的原理
自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。
（ア）各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解すること。
（イ）人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
（ア）公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現すること。

３．単元（題材）における観点別学習状況の評価の進め方

ここでは、上の「公共」単元（題材）名「公共的な空間における基本的原理」の評価事例を示し、公民科における観点別学習状況の評価の進め方について紹介する。

（１）単元（題材）における指導と評価の計画

ア） 科 目 名 ：「公共」

イ） 単元(題材)名：公共的な空間における基本的原理［全 12 時間］

ウ） 学習指導要領との関連：内容Ａ 公共の扉 － （３）公共的な空間における基本的原理

エ） 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解している。 人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解している。	公共的な空間における基本的原理に着目して、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。	「公共的な空間における基本原理」について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

オ） 指導と評価の計画（全 12 時間） **●…形成的評価、○…総括的評価**

時	主な学習活動	評価の観点			評価規準・評価方法
		知	思	主	
1 ｜ 4	人間の尊厳と平等 個人の尊重	○			〔知〕ワークシート、ペーパーテスト ・人間の尊厳と平等及び個人の尊重の原理などの概念を理解するとともに、これらの概念が公共的な空間の基礎となることを理解できている。
5 6	民主主義 法の支配	○	●		〔知〕ワークシート、ペーパーテスト ・公共的な空間の在り方を決めて実現するには、民主主義や法の支配に基づかなければならないことを理解している。 〔思〕観察 ・民主主義や法の支配の考え方が、実社会においてどのよに作用しているのかを考察している。
7 ｜ 10	自由・権利と 責任・義務	○	○	●	〔知〕ペーパーテスト ・公共的な空間の維持には、各人が自由・権利と責任・義務に関する自覚をもつことが大切であることを理解している。 〔思〕ペーパーテスト ・自由や権利の行使に際しては、他者の自由や権利を侵害しないという制約を伴うこと、及び、義務や責任を果たすことによって初めて社会的な関係において自己の個性を生かすことができることを、具体的な事例を通して考察し、表現できている。 〔主〕観察 ・自由・権利や責任・義務という概念の理解し、これらの概念を実社会での具体的な事例を考え表現しようとしている。
11 12	パフォーマンス課題		○	○	〔思〕パフォーマンス課題 ・各人を尊厳ある主体として平等に取り扱うこと、各人の個性を尊重することとがどのように関係するかという課題について、多面的・多角的に考察し、表現できている。 〔主〕パフォーマンス課題 ・価値観などの違いから生じる課題を解決するために、選択・判断するための手掛かりを追究しようとしている。
	（単元の終わりに）			○	〔主〕ポートフォリオ ・社会的事象について関心を高め、課題を意欲的に追究するとともに、他者と協働しようとしている。

※「知識」の総括的評価は、ペーパーテストとして、ある程度の内容のまとまりについて実施する

単元（題材）の評価規準を設定した後、単元（題材）の指導計画に示された学習過程を考慮しながら、評価規準に対して、いつ、どのように評価を行うかを計画する。その際、妥当性や信頼性が確保されていることが重要である一方、評価のデータ集積等に労力を割かれ、指導に注力できないようなことがないよう留意する。

本事例では、日々の授業において、生徒の学習状況の把握及び教員の指導改善に活用する形成的評価に重点を置き、単元（題材）のまとまりごとに評価規準に対する到達状況が把握できる段階で総括的評価を行う事例を示している。

（２）具体的な評価方法（評価課題や判断基準）について

①パフォーマンス課題を用いた評価

以下は、本事例の第 11・12 時にて実施するパフォーマンス課題の例である。この課題により「思考・判

断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の総括的評価を行う。

【パフォーマンス課題（例）】

１．目標

・ 個人が尊厳のある主体として平等に取り扱うことと、個性を尊重することとがどのように関係するかという課題について、多面的・多角的に考え、根拠を持って記述することができる。

２．評価

・思考・判断・表現

評価	A	B	C
評価基準	・既習の知識や概念を活用し記述できているか。 ・根拠を示して自身の考えを記述できているか。 ※無回答についてはＣとする。		

・主体的に学習に取り組む態度

評価	A	B	C
評価基準	・根拠を示して記述しようとしているか。 ・自身の主張や自身と異なる主張を考えようとしているか。 ※無回答についてはＣとする。		

３．課題（活動）

例１ 「犯罪を立証する根拠がない状況で、一緒に犯罪行為を働いた２人の囚人が一人ずつ取り調べを受け、自分に有利で仲間に不利な条件を提示され自白を迫られた場合、２人はどのような選択をするのか」という思考実験を通じて、根拠を明確にして、自身の考えをまとめる活動。

例２．次の文章を読んで、あとの設問に答えなさい。

とある事件において、被害者の実名や顔写真が報道された。警察が記者に対して発表したのは、被害者の氏名、年齢、住んでいる市町村であり、また、全遺族が匿名報道を希望していることも伝えたという。つまり、実名報道は各メディアの判断、被害者の顔写真やプロフィールなどは、独自取材で仕入れたことになる。中には、遺族に直接取材した上で、実名を出したメディアもある。

① この事件では「被害者」は殺害されている。死者に“プライバシーの権利”はあるか、ないか。結論とその理由について、述べなさい。

② ア) 実名報道の是非について、法的根拠を明確にして述べなさい。その際、立場を明らかにすること。また、イ) 自身と相反する立場の主張を１つ考え、その主張に対して反駁しなさい。

ア） 「思考・判断・表現」の評価

パフォーマンス課題を生徒に提示する際には、「自身の考えを述べること」「具体例をあげること」「授業で学んだ知識を活用すること」といった簡単な規準を示すことが必要である。本課題においては、これまでに学んだ知識や概念等を根拠として活用し、自身の考えを述べることを求めている。

なお、レポート等の場合は記述の内容、作品等の場合は他者評価などを用いて評価することも考えられる。

また、個人ワーク→グループ討議→発表→個人での振り返りのように学習の展開を工夫することにより、生徒が多面的・多角的に考察し、表現できる場面を設定することも可能である。

イ）　「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「主体的に学習に取り組む態度」の評価に際しては、知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが重要である。

本課題では、各問いの記述内容から、正誤に関わらず答えを導きだそうとしているかを評価する。ただし、“粘り強い取組みを行おうとする側面”と“自らの学習を調整しようとする側面”の両方を評価する必要があることから、誤った記述内容を修正する過程も「主体的に学習に取り組む態度」に含まれるため、定期考査後などに行う振り返り、次の単元の学習などの手掛かりを自ら見つけようとしているかなども「主体的に学習に取り組む態度」の評価を行うようにしている。

②ポートフォリオを用いた評価

単元のはじめで見通しを立て、単元の終わりにおいて、「主体的に学習に取り組む態度」の総括的評価を行う。以下は、その際に活用するポートフォリオの例である。

【ポートフォリオ（例）】

1．単元を貫く課題

・公共的な空間において、各人が自己の個性を発揮し、また同時に、他者の人格を尊重し共に協働して生きていくために、必要なことは何か。

2．学習前の【単元を貫く課題】に対する考え

Before

単元を貫く課題（単元を通して最も押さえたい重要な内容）に対する考えを記述。**単元のはじめに見通しを立てさせることがポイント。**

3．学習した内容

時	主な学習内容	学習メモ	今日の授業で最も重要なこと
1	人間の尊厳と平等 1	・疑問に思ったこと ・わからないこと ・大事だと思ったこと ・他者の意見から新たに気付いたこと など、学習活動時にメモとして自由に記述させる。	**生徒の認知過程の可視化** 授業終了時に、最も重要（大切）であると思ったことを記述させる。 ↓ **指導目標とのズレがないかを確認し、次時の指導に生かす。**
2	人間の尊厳と平等 2		
3	個人の尊重 1		
4	個人の尊重 2		
5	民主主義		
6	法の支配		
7	自由・権利と責任・義務 1		
8	自由・権利と責任・義務 2		
9	自由・権利と責任・義務 3		
10	自由・権利と責任・義務 4		
11	パフォーマンス課題(個人)		
12	パフォーマンス課題(グループ)		

4．学習後の【単元を貫く課題】に対する考え

単元を貫く課題（単元を通して最も押さえたい重要な内容）に対する考えを記述。

After

5．自己評価（理解に向けた取組・今後の展望）

学習履歴を振り返り、学習前後で何がどう変わったか。また、それに対する自身の学習の意味づけなど、自分が考えたこと表現したことなどについて記述させる。**振り返る時間をしっかり確保することが大切。**

ア）　「主体的に学習に取り組む態度」の評価

定期考査終了後、本課題において、特に「５．自己評価（理解に向けた取組・今後の展望）」の記述内容から評価を行う。

前述のとおり、「主体的に学習に取り組む態度」の評価に際しては、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた“粘り強い取組みを行おうとする側面”と、その取組みを行う中で“自らの学習を調整しようとする側面”の両方を評価する必要がある。以下は、評価Ａ及びＢの記述例とその理由である。

【評価別記述（例）】

評価	記述例	理由例
A	この単元では、憲法を根拠にして、自分の考えを説明することが難しかった。でも、①資料集に載っていた憲法の基本的原則を参考にすると自分の考えを整理しでき、まとめることができた。次の単元では、②憲法がどのように今の社会に役立っているかを資料集だけじゃなくて、グループのメンバーの意見を参考にして取り組んでいきたい。	下線①＜粘り強い取組み＞ 自分の考えを述べるために、資料集を用いて調べながら取り組んでいることが分かる。 波線②＜学習の調整＞ 今後の学習に対して、他者の意見等を取り入れるなどにより自らの考えを深めようとしていることが分かる。
B	自分の考えを述べるために、③ノートに法の支配と人の支配の違いをまとめた。次の単元では、④今回学習したことがどのように社会で役立っているかを考えたい。	下線③＜粘り強い取組み＞ 自分の考えを述べようと取り組んでいることが分かる。 波線④＜学習の調整＞ 今後の学習に対して、自分の考え深めようとしていることが分かる。

（３）公民科における観点別学習状況評価の留意事項

ア）　問題解決のプロセスを踏まえた指導と評価の充実

現実社会との関係を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れて、公民科で育成をめざす３つの資質・能力をバランスよく育む。課題発見→解決方法の検討・計画→課題解決に向けた実践→評価・改善という一連の学習活動の中で、現実社会の中で活用できる知識及び技能の習得、生涯を見通して現代の諸課題を解決する力やよりよい社会を主体的に創造しようとする実践的な態度を評価する場面や頻度を精選し、位置付ける。

イ）　「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法や評価の時期

本事例のように、「主体的に学習に取り組む態度」は、他の２つの観点と同様、指導した上で評価することが必要である。見通しを立てる場面、しっかりと振り返る場面を設定し、適切に指導した上でこの観点を評価する。また、教員や他の生徒による評価を伝えることが、生徒にとって自らの学びの過程を捉える上で力強いサポートとなりうる。優れた部分、成長の見られた部分、改善が必要な部分に気付かせることや、生徒が互いの学びの過程を評価し合う相互評価等を効果的に取り入れたい。

数学科における観点別学習状況の評価の進め方について

ここでは、教科「数学」の科目「数学Ⅰ」を例に、「指導と評価の一体化」を実現するための観点別学習状況評価の進め方について説明する。

1　科目の評価の観点の趣旨の作成について

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領に示された教科・科目の目標や内容、「改善等通知」に示された教科の「評価の観点及びその趣旨」に基づき、科目の「評価の観点の趣旨」を設定することにより、その科目の学習を通して育成をめざすべき資質・能力と評価の基本的な枠組みを捉えることが大切である。

以下は、教科の目標と「評価の観点及びその趣旨」との関係性を踏まえた、「数学Ⅰ」の目標に対する「評価の観点の趣旨」の例である。

【「第２款 第１ 数学Ⅰ」の「評価の観点の趣旨」(例)】

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断したりしようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。

2　指導と評価の年間計画（シラバス）について

指導と評価の年間計画（シラバス）の作成にあたっては、１の「数学Ⅰ」の「評価の観点の趣旨」に基づき、単元ごとの評価規準を設定する。指導と評価の年間計画（シラバス）は教材の配列ではなく、年間を通して教科・科目の目標の実現をめざすためのものである。学校教育目標、生徒の発達段階や学習状況を考慮するとともに、理科や情報科をはじめ他教科との関連も見通して、年間の学習内容を計画する必要がある。

※「数学Ⅰ」指導と評価の年間計画（シラバス）＜記入例＞

学期	単元名	学習内容	単元の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
2学期	二次関数の値の変化	・二次関数と二次方程式、二次不等式	a：二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解している。 二次不等式の解と二次関数のグラフとの関係について理解し、二次関数のグラフを用いて二次不等式の解を求めることができる。	ペーパーテスト	ワークシート パフォーマンス課題	授業観察 ワークシート 振り返りシート

基本的には、学習指導要領に示す「２ 内容」**指導事項アに示される「知識」についてはその文末を「～している」、「技能」についてはその文末を「～することができる」などとして、評価規準を作成する。**⇒例えば･･･
①○○に関する基本的な概念を理解している。
②○○の計算をすることができる。
③○○の解を求めることができる。

	二次関数の値の変化		b：二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 c：二次関数とそのグラフを用いることのよさを認識し、値の変化や二次方程式・二次不等式の考察に活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断したりしようとしている。 二次不等式における日常の事象や社会の事象などを通して、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。			

基本的には、学習指導要領に示す「２内容」**指導事項イについて、その文末を「～することができる」として、評価規準を作成する。**⇒例えば･･･
①○○を論理的に考察することができる。
②○○について証明をすることができる。
③問題を解決する際に○○と関連付け、△△を多面的に捉えたり、目的に応じて適切に□□したりすることができる。

基本的には、「改善等通知　別紙5　各教科等の評価の観点及びその趣旨＜数学＞」における「主体的に学習に取り組む態度」をもとに、当該「内容のまとまり」等で育成をめざす**「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の指導事項等を踏まえ、その文末を「～しようとしている」として評価規準を作成する。**⇒例えば･･･
①○○について活用しようとしている。
②○○について粘り強く考え数学的論拠に基づき判断したりしようとしている。
③○○について問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。

＜学習指導要領　数学科　科目「数学Ⅰ」　２　内容　(3)　二次関数より＞

(3)　二次関数
　二次関数について、数学的活動を通して、その有用性を認識するとともに、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア　次のような知識及び技能を身に付けること。
(ｳ)　二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解すること。また、二次不等式の解と二次関数のグラフとの関係について理解し、二次関数のグラフを用いて二次不等式の解を**求める**こと。
イ　次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
(ｲ)　二つの数量の関係に**着目し**、日常の事象や社会の事象などを数学的に**捉え**、問題を**解決したり**、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を**考察し**たりすること。

３　単元における観点別学習状況の評価の進め方

ここでは、上の「数学Ⅰ」単元名「二次関数の値の変化（二次関数と二次方程式、二次不等式）」を取り上げ、数学科における観点別学習状況の評価の進め方について紹介する。

（１）単元における指導と評価の計画

ア）科目名：「数学Ⅰ」

イ）単元名：二次関数の値の変化（二次関数と二次方程式、二次不等式）［全９時間］

ウ）学習指導要領との関連：２　内容　(3)　二次関数　ア(ｳ)、イ(ｲ)

エ）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解している。 ・二次不等式の解と二次関数のグラフとの関係について理解し、二次関数のグラフを用いて二次不等式の解を求めることができる。	・二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。	・二次関数とそのグラフを用いることのよさを認識し、値の変化や二次方程式・二次不等式の考察に活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断したりしようとしている。 ・二次不等式における日常の事象や社会の事象などを通して、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。

オ）指導と評価の計画（全９時間）　　●…形成的評価、○…総括的評価

時	主な学習活動	評価の観点			評価規準・評価方法
		知	思	主	
1	二次方程式の解法	○	●		〔知①〕（ペーパーテスト、ワークシート） ・因数分解や解の公式を利用して二次方程式の解を求めることができる。 〔思①〕（観察） ・因数分解や解の公式を目的に応じて使い分けができる。
2	二次方程式の実数解の個数	○		●	〔知②〕（ペーパーテスト、ワークシート） ・判別式を用いることにより、二次方程式の実数解の個数を求めることができる。 〔主①〕（振り返りシート、観察） ・判別式を用いて、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
3 4	二次関数のグラフと x 軸の共有点 ・共有点の座標 ・共有点の個数 ・位置関係	○ **例１**		●	〔知③〕（ペーパーテスト、**小テスト**） ・二次関数のグラフと x 軸の共有点の座標を求めることができる。 ・判別式を用いて共有点の個数を求めることができる。 〔主②〕（振り返りシート、観察） ・判別式を用いて、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
5 6 7	二次不等式 ・関数のグラフと不等式 ・二次関数のグラフが x 軸と異なる２点で交わるとき ・二次関数のグラフが x 軸に接するとき ・二次関数のグラフが x 軸と共有点を持たないとき	○	●	●	〔知④〕（ペーパーテスト、小テスト） ・二次関数のグラフを活用して二次不等式の解を求めることができる。 〔思②〕（観察） ・二次不等式の解を二次関数のグラフを用いて考察することができる。 〔主③〕（振り返りシート、観察） ・二次関数とそのグラフを用いることのよさを認識し、値の変化や二次方程式・二次不等式の考察に活用しようとする。
8 9	二次不等式の応用 ・連立不等式 ・課題学習	○	○ **例２**	○ **例３**	〔知⑤〕（ペーパーテスト、小テスト） ・連立不等式や文章題の中で二次不等式の解法を利用し、答えを導くことができる。 〔思③〕（**ワークシート　＊パフォーマンス課題**） ・日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして、二次不等式を問題解決に活用することができる。 〔主④〕（ワークシート、振り返りシート） ・二次不等式における日常の事象や社会の事象などを通して、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。

※「知識・技能」の総括的評価は、ペーパーテストとして、ある程度の内容のまとまりについて実施する。

単元の評価規準を設定したら、単元の指導計画に示された学習過程を考慮しながら、それぞれの評価規準に対して、いつ、どのように評価を行うかを計画する。設定した評価規準によっては、学習活動において評価するものもあれば、ペーパーテスト（定期考査）などを用いて評価するものもある。生徒全員について、毎時間「ワークシートの記述」を確認し記録を残すような評価の在り方は多大な時間を要し現実的には困難である。ここでは、日々の授業の中では、生徒の学習状況を把握して指導に生かすことに重点を置きつつ、評価の記録（総括的評価）については、基本的に単元のまとまりにおいて、それぞれの評価規準の実現状況が把握できる段階で効率的・効果的に評価を行う計画としている。

本単元における総括的な評価の計画をまとめると下の表のようになる。ペーパーテストやレポート、ワークシート、ノートなど、授業後に教員が確認しながら全員の評価を無理なく行えるような方法を検討し、活用することが効果的である。

時　間	第１～８時	第９時	
単元(題材)の評価規準	〔知①〕～〔知⑤〕	〔思③〕	〔主④〕
評価時期	複数の単元が終了した時点で評価する	単元の学習活動内で評価する	
評価課題	ペーパーテスト（定期考査）	ワークシート（パフォーマンス課題） 振り返りシート	

単元ごとの観点別評価としての総括

（２）具体的な評価方法（評価課題や判断基準）について

ア）「知識・技能」の評価

この単元では、二次関数のグラフと x 軸の位置関係を二次方程式の解を用いて求めること、二次関数のグラフを活用して二次不等式の解を求めることができることを評価する。具体的な評価方法として、例えば、授業において生徒に練習問題の解答を説明させる場面を設定することにより理解度を把握したり、ペーパーテストにおいては、事実的な知識の習得を問う問題だけではなく、知識の概念的な理解を問う問題を取り入れたりするなど、多様な方法を取り入れていくことが考えられる。

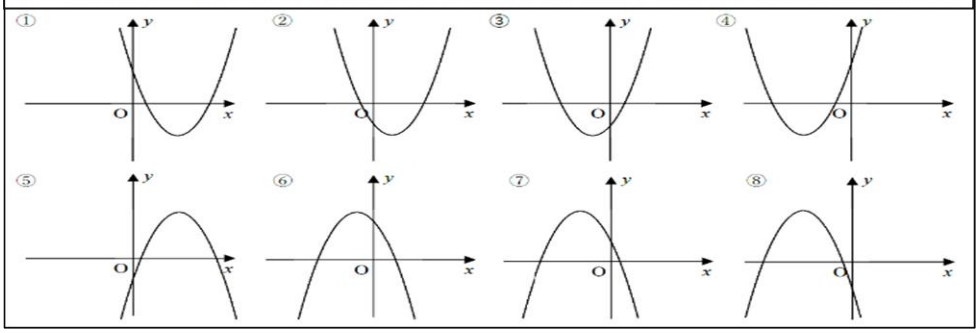
本事例においては、「知識・技能」にかかるワークシートの記述や小テストは指導の改善に生かすために用いること（形成的評価）とし、評価の記録（総括的評価）はペーパーテスト（定期考査）により行うこととしたが、学習活動内におけるワークシートの記述内容や小テストの結果を評価し、総括的評価に加えることも考えられる。各校の生徒の実態等に応じて、適切な評価方法を検討してもらいたい。

【「知識・技能」評価規準〔知③〕について】

ここでは、この単元での重要ポイントとなる「二次関数のグラフとx 軸との共有点」と「二次方程式の解」との関係を理解しているか、評価規準〔知③〕について形成的評価を行い、理解が十分ではない生徒の指導に生かすために実施した小テストを紹介する。

例１

問：二次関数 $y=-2(x-1)(x+5)$ のグラフとして適当なものを選び、このグラフの軸の方程式を求めよ。



【ポイント】
因数分解から分かるのは、$y=0$ の解、つまり x 軸との共有点である。「平方完成せずに正しいグラフを選び、軸の方程式を求めることができるか。」をねらいとしている。

イ）「思考・判断・表現」の評価

「思考・判断・表現」については、数学的活動を通して数学的な見方・考え方を働かせ、思考・判断・表現できているかを評価する。数学的な問題解決の過程を重視し、事象の数量等に着目して数学的な問題を見いだすこと、構想・見通しを立てること、目的に応じて数・式、図、表、グラフなどを活用し、一定の手順に従って数学的に処理することなどを評価する。具体的な評価方法としては、ペーパーテストのみならず、ワークシートの記述やレポートの記録、発表など、評価を工夫することが考えられる。

「思考・判断・表現」を評価するにあたっては、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、生徒が思考・判断・表現する場面を効果的に設定し、指導・評価することが求められる。

数学科における「主体的・対話的で深い学び」の実現には数学的活動を充実させることが重要であり、そのためには課題学習（パフォーマンス課題）を行うことが求められる。

【「思考・判断・表現」評価規準〔思③〕について】

ここでは、単元末（第９時）に授業内で実施する課題学習として、下のようなパフォーマンス課題を設定し取り組ませることにより、その学習過程や結果で発揮される「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の質的な側面を捉え、評価する。

例２　パフォーマンス課題

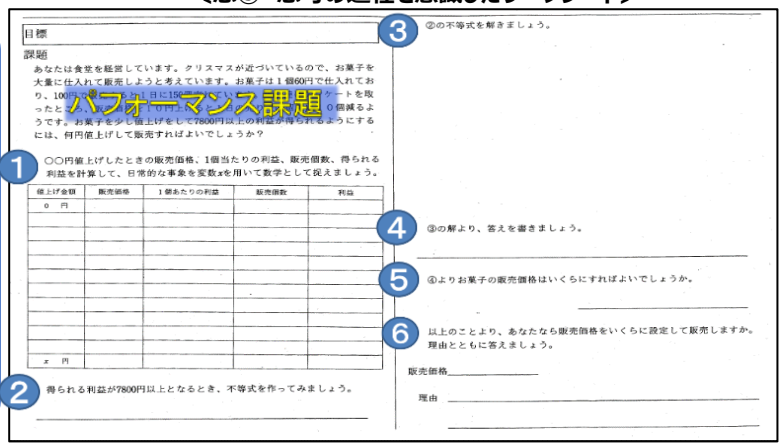
○○高校のあるクラスでは、文化祭でお菓子を販売し、その利益を生徒会に寄付する企画を考えています。クラスの文化祭企画担当者は、お菓子を大量に仕入れて販売しようと考えています。お菓子は１個 60 円で仕入れており、100 円で販売すると１日に 150 個売れています。生徒たちにアンケートを取ったところ、販売価格を 10 円上げると１日の売り上げ個数は 10 個減ることがわかっているようです。お菓子を少し値上げして 7,800 円以上の利益が得られるようにするには、何円値上げして販売すればよいでしょうか？

【解決に向けた学習過程（ワークシートの項目）】

① 販売価格の設定から利益の変化を捉える。
② 不等式を立式する。
③ 立式した不等式を解く。
④ 不等式の解から値上げ金額を決定する。
⑤ 販売価格を決定する。
⑥ 自分なら販売価格をいくらに設定するか、理由とともに考えさせる。

※既習の知識の確認だけに留まらず、既習の知識とうまくつながっていくように教材を工夫する。

〔思③　思考の過程を意識したワークシート〕



上記の学習過程（ワークシートの流れ）において、生徒は二次不等式を立式し実際に解くことで、20 円以上 90 円以下に値上げして販売すればよいことが分かる。さらに自分なら販売価格をいくらに設定するかを考える過程において、話し合いの中で「最大利益を追求する」ことに注目すると、二次関数の最大値を考えることになる。そこでグラフを描き、頂点の x 座標の値から 55 円値上げをすることで、9,025 円の最大利益を得ることがわかる。このように、個人やグループで「課題を解決する」経験を積ませることにより、数学への興味・関心、数学的な見方・考え方や知識の理解度が深まっていく。

この評価規準〔思③〕の総括的評価については、ワークシートの各項目の生徒の記述を見て判断する。なお、判断基準については、次ページに示している。

ウ）「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「主体的に学習に取り組む態度」については、単に継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するのではなく、数学科の「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らし、知識や技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが重要である。そのため、生徒が解決過程を振り返り、既習の内容を関連付けたり、これからの学習を見通したりすることができる学習場面の設定が必要となる。

【「主体的に学習に取り組む態度」評価規準〔主④〕について】

本事例では、課題学習の振り返りをさせるために行う「振り返りシート」の記述内容により評価する。数学を活用することについて考えさせる項目では、二次不等式を解く際のポイントに着目した記述が、これから知りたいことでは、生徒が考えた値上げに対する解法など次の学習につながる記述が期待できる。以下は、「振り返りシート」の内容と、「十分満足できる」状況と判断した生徒の記述例である。

例３　「振り返りシート」（一部）

二次不等式を解くとき、なぜグラフを用いるのかや、不等式においてグラフを用いて考察することのよさを考えている！

◎2つの数量の関係に着目し、問題解決に向けて数学を活用しよう。

① 数学を活用する（文字を使った式で表したり、表やグラフを使って表す）ことについて、わかったこと・大切な考え方等

② この【問題】を考えるために、まだはっきりしないこと・これから知りたいこと

数学の問題を自分で作り出し、それを生徒間で評価することで、一人では気づけなかった考え方の良さに気づいている。

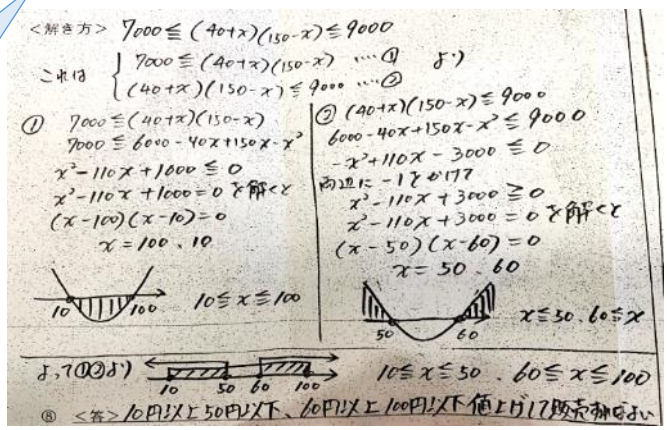
＜「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒の具体的な例＞
①最初は立式することが難しかったが、表を利用することで利益の変化を捉えることができ、立式することにつながった。特に、二次不等式の解は、二次関数のグラフと x 軸の位置関係から読み取ることができた。このように、不等式の解をグラフと関連付けることで、解を視覚的に捉えたり、解釈したりすることができると感じた。

＜「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒の具体的な例＞
②授業では 7,800 円以上であったが、少し値上げをして利益を○○円以下で得られるには何円値上げして販売すればいいかを考えてみたくなった。グループのメンバーの中で利益を△△円以上□□円以下で設定して連立二次不等式を解いていたので、問題の条件を変えるだけで発展的に考えることができることに驚いた。

【生徒の思考や探究を深めるために、自分で問題を作成する例と解答記述】

・・・お菓子を少し値上げして 7,000 円以上 9,000 円以下の利益が得られるようにするには、何円値上げして販売すればよいでしょうか？

※他にも課題の「10 円上げると 1 日の売り上げ個数は 10 個減る」の 10 円と 10 個を他の数値に換えることにより状況は変わるため、適宜考えさせる仕掛けをつくるとよい。



課題学習（パフォーマンス課題）による評価規準〔思③〕〔主④〕の判断基準

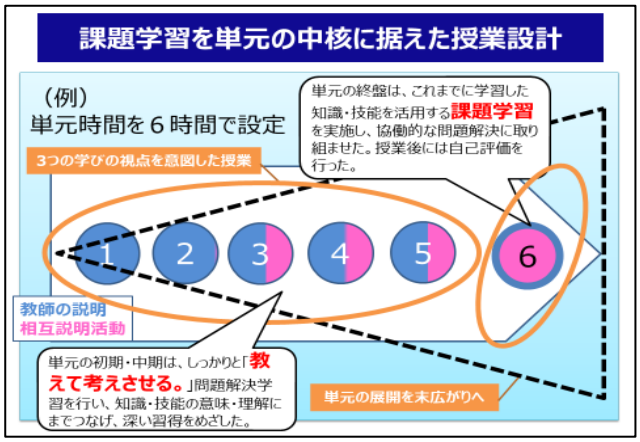
評価規準＼判断基準	「十分満足できる」状況（A）	「おおむね満足できる」状況（B）	「努力を要する」状況（C）と判断した生徒への手立て
思③	Bに加えてさらに、販売価格を決定し、自分なら販売価格をいくらに設定するかを、理由とともに説明することができる。	事象の関係を不等式で表すことができ、不等式を解くことができる。	具体的な販売価格の設定から、関数関係を見いだせるよう机間指導を行う。
主④	B に加えてさらに、自身で問題の条件を変えて発展的に考えることなどを行い、評価・改善しようとしている。	問題解決の過程を振り返り、数学を活用することのよさを考えることができる。	数学を活用することのよさなどに気づくことができるよう机間指導を行う。

（３）数学科における観点別学習状況評価の留意事項

数学科として生徒に育成すべき資質・能力を育むためには、数学的活動を充実させることが重要である。数学的活動とは「事象を数理的に捉え、数学の問題を見いだし、問題を自立的・協働的に解決する過程を遂行すること」であり、こうした活動を充実させることが「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善につながる。また、生徒がこれまで習得した知識・技能を活用することができる課題学習の実施が、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点について評価することができる場面となる。

学習指導要領においては、課題学習を数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲと系統的に実施することが求められており、右図にあるとおり、単元における学習内容や評価方法を検討するにあたっては、課題学習を単元の中核に据えた授業設計が望まれる。なお、課題学習の内容については学習指導要領の解説や大学入学共通テストの試行調査問題（平成 29 年度、30 年度実施）等を参照していただきたい。

【課題学習を意識した授業設計の例】



理科における観点別学習状況の評価の進め方について

ここでは、教科「理科」の科目「地学基礎」を例に、「指導と評価の一体化」を実現するための観点別学習状況評価の進め方について説明する。

１　科目の「評価の観点の趣旨」の作成について

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領に示された教科・科目の目標や内容、「改善等通知」に示された教科の「評価の観点及びその趣旨」に基づき、科目の「評価の観点の趣旨」を設定することにより、その科目の学習を通して育成をめざすべき資質・能力と評価の基本的な枠組みを捉えることが大切である。

以下は、教科の目標と「評価の観点及びその趣旨」との関係性を踏まえた、「地学基礎」の目標に対する「評価の観点の趣旨」の例である。

【「第２款 第８ 地学基礎」の「評価の観点の趣旨」（例）】

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	地球や地球を取り巻く環境から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

※「主体的に学習に取り組む態度」の留意点

学習指導要領に示されている「地学基礎」の「学びに向かう力、人間性等」にかかる目標の「自然環境の保全に寄与する態度」については、観点別学習状況の評価にはなじまず、個人内評価等を通じて見取る部分であることに留意する必要がある。

２　指導と評価の年間計画（シラバス）について

指導と評価の年間計画（シラバス）の作成にあたっては、１の「地学基礎」の「評価の観点の趣旨」に基づき、単元ごとの評価規準を設定する。指導と評価の年間計画（シラバス）は教材の配列ではなく、年間を通して教科・科目の目標の実現をめざすためのものである。学校教育目標、生徒の発達段階や学習状況を考慮するとともに、単元の実施に適する時期や他教科との関連も見通して、年間の学習内容を計画する必要がある。

※「地学基礎」指導と評価の年間計画（シラバス）＜記入例＞

学期	単元名	学習内容	単元の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	地球のすがた	惑星としての地球 地球の形と大きさ 地球内部の層構造	a：地球のすがたについて地球の形と大きさ、地球内部の層構造について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	定期テスト 単元テスト	定期テスト ワークシート レポート	ワークシート レポート

基本的には、学習指導要領に示す「２ 内容」において、**指導事項アに示される「知識」についてはその文末を「～について理解している」、「技能」についてはその文末を「～を身に付けている（情報の収集・整理ができる）」として評価規準を作成する。**

b：地球のすがたについて、観察、実験などを通して探究し、惑星としての地球について、規則性や関係性を見いだして表現している。

c：地球の形と大きさ、地球内部の層構造について関心を持ち、主体的に探究しようとしている。

基本的には、学習指導要領に示す「2 内容」指導事項イについて、**その文末を「～について問題を見いだし、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして、課題を解決する力を身に付けている」として評価規準を作成する。**

基本的には、「改善等通知　別紙5　各教科等の評価の観点及びその趣旨＜理科＞」における「主体的に学習に取り組む態度」をもとに、当該「内容のまとまり」で育成をめざす**「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の指導事項等を踏まえ、その文末を「～しようとしている」などとして評価規準を作成する。**

＜学習指導要領　理科　科目「地学基礎」　2　内容　(1) 地球のすがた　より（抜粋）＞

(1) 地球のすがた
地球のすがたについての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア　地球のすがたについて、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。
(ｱ) 惑星としての地球
㋐　地球の形と大きさ
地球の形や大きさに関する観察、実験などを行い、地球の形の特徴と大きさを見いだして理解すること。
㋑　地球内部の層構造
地球内部の層構造とその状態を理解すること。
(ｲ) 活動する地球
㋐　プレートの運動
プレートの分布と運動について理解するとともに、大地形の形成と地質構造をプレートの運動と関連付けて理解すること。
㋑　火山活動と地震
火山活動や地震に関する資料に基づいて、火山活動と地震の発生の仕組みをプレート運動と関連付けて理解すること。
イ　地球のすがたについて、観察、実験などを通して探究し、惑星としての地球、活動する地球、大気と海洋について、規則性や関係性を見いだして表現すること。

3　単元における観点別学習状況の評価の進め方

ここでは、上の「地学基礎」単元名「地球のすがた（惑星としての地球、活動する地球）」を取り上げ、理科における観点別学習状況の評価の進め方について紹介する。

（1）単元における指導と評価の計画

ア）科目名：「地学基礎」

イ）単元名：地球のすがた（惑星としての地球、活動する地球）［全 16 時間］

ウ）学習指導要領との関連：2　内容　(1) 地球のすがた　ア(ｱ)、(ｲ)　、イ

エ）単元の評価規準（上段：惑星としての地球、下段：活動する地球）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地球の形と大きさ、地球内部の層構造について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	地球のすがたについて、観察、実験などを通して探究し、惑星としての地球について、規則性や関係性を見いだして表現している。	地球の形と大きさ、地球内部の層構造について関心を持ち、主体的に探究しようとしている。
プレートの運動、火山活動と地震について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	地球のすがたについて、観察、実験などを通して探究し、活動する地球について、規則性や関係性を見いだして表現している。	火山活動と地震をプレートの動きから考察し、主体的に探究しようとしている。

オ）指導と評価の計画　＜惑星としての地球（全６時間）、活動する地球（全 10 時間）＞

●…形成的評価、○…総括的評価

時	主な学習活動	評価の観点			評価規準・評価方法
		知	思	主	
1	地球の形			●	〔主①〕（ワークシート） ・既習事項を参考に、地球が球体であることを、証拠をあげて説明しようとしている。
2	地球の大きさ	●			〔知①〕 ・地球の形の特徴と大きさについて理解している。
3 4	地球の大きさの測定	○			〔知②〕（ワークシート） ・地球を球と仮定した場合の地球半径の求め方について理解している。 ・地図を利用することで地球の大きさを求めることができる。
5	地球の形（回転楕円体）		○ **例１**		〔思①〕（ワークシート、**小テスト**） ・地球の大きさの特徴について根拠を基に説明することができる。
6	地球内部の層構造	●			〔知③〕 ・地球内部の層構造について理解している。
7	プレートテクトニクス	●			〔知④〕 ・プレートの分布と運動、大地形の形成について理解している。
8 9	プレートの境界		○	○	〔思②〕（ワークシート） ・プレート境界の３通りについて理解し、説明できる。 〔主②〕（ワークシート） ・地学における時間スケール、空間スケールを踏まえて、プレートの動きを理解しようとしている。
10 11 12	地震のメカニズム	○	●		〔知⑤〕（ワークシート） ・地震発生の仕組みを、プレートの運動と関連付けて理解している。 ・初期微動継続時間を用いて震源までの距離の求め方を理解している。 〔思③〕 ・地震と断層の関係について説明できる。
13 14 15	火山活動の多様性	○	●		〔知⑥〕（ワークシート） ・火山活動とプレートの運動を関連付けて理解している。 ・火成岩の組織や化学組成とマグマの性質の関係について理解している。 〔思④〕 ・火成岩と火山の性質について関連付けて説明できる。
16	パフォーマンス課題 （実習・観察） プレート境界と地震・火山分布		○ **例２**	○	〔思⑤〕（**ワークシート　＊パフォーマンス課題**） ・地震の発生や火山の噴火とプレートの動きを関連付けて説明できる。 〔主③〕（**ワークシート　＊パフォーマンス課題**） ・日本付近以外のプレート境界や地震、火山分布に興味を持ち、主体的に調べようとしている。

単元の評価規準を設定したら、単元の指導計画に示された学習過程を考慮しながら、それぞれの評価規準に対して、いつ、どのように評価を行うかを計画する。設定した評価規準によっては、学習活動において評価するものもあれば、ペーパーテスト（定期考査）などを用いて評価するものもある。

ここでは、日々の授業の中では、生徒の学習状況を把握して指導に生かすことに重点を置きつつ、評価の記録（総括的評価）については、基本的には単元のまとまりにおいて、それぞれの評価規準の実現状況が把握できる段階で効率的・効果的に評価を行う計画としている。

ペーパーテストやレポート、ワークシート、ノート、作品など、授業後に教員が確認しながら全員の評価を無理なく行えるような方法を検討し、評価の場面を計画する場合には、３観点をバランスよく評価できるよう複数の学習場面を計画することが望まれる。

（２）具体的な評価方法（評価課題や判断基準）について

ア）「知識・技能」の評価

地学的な時間的、空間的スケールを踏まえた上で、用語等を理解しているとともに、図やグラフを用いて表現できるかを問うようにすることが大切である。ペーパーテストにおいて「知識・技能」の評価を行う場合は、単なる知識の習得を問う問題だけではなく、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮する必要がある。

イ）「思考・判断・表現」の評価

観察・実験などのデータを基に、理科的な見方・考え方を働かせ、思考・判断・表現できているかを評価する。学習について、①問題を見いだして課題を設定しているか、②様々な解決方法を検討し計画、立案しているか、③実践を評価・改善しているか、④考察したことを根拠に基づいて論理的に表現しているかなど、課題を解決する力を身に付けているかを評価する。具体的な評価方法としては、ペーパーテストのみならず、レポートの記録や発表などの工夫が求められる。

【「思考・判断・表現」評価規準〔思①〕について】

ここでは、第５時に行う「小テスト」における思考力を問う問題を紹介する。ただし、この問題をそのまま使ったとしても、授業の内容や展開によっては知識を問う問題となる可能性があることに留意が必要である。例えば、(2)のような記述式の問題であっても、授業で説明した内容をそのまま答えさせるのであれば、単なる知識を確認する問題となる。小テストにおいて、「思考・判断・表現」を問う場合には、事前に単元のまとまりの中で行う授業内容と同時に考え、計画しておく必要がある。

例１　「思考力・判断力・表現力」を問う問題（第５時小テストの例）

(1) 次の各国や地域で、同一経度上の南北の緯度１度差の距離を正確に測定し、地球の大きさを求めた。その値より、地球が完全な球であると仮定した場合の地球半径の大きさが最も大きくなるのはどこの国（地域）か。また、そのように考えた理由をア～エから一つ選び答えなさい。

日本　　インド　　ブラジル　　フランス　　南極大陸

ア　緯度が高い程、緯度差１度の距離が大きくなるため、完全な球と考えた時の半径は大きくなる。
イ　緯度が高い程、緯度差１度の距離が大きくなるため、完全な球と考えた時の半径は小さくなる。
ウ　緯度が高い程、緯度差１度の距離が小さくなるため、完全な球と考えた時の半径は大きくなる。
エ　緯度が高い程、緯度差１度の距離が小さくなるため、完全な球と考えた時の半径は小さくなる。

(2) (1)で選んだ解答より考えられる地球の形を、「赤道半径」と「極半径」の語を用いて説明しなさい。

(1)では、思考を問う問題を選択肢より選ばせる形で問うている。生徒は、地球の緯度の違いにより、緯度１度当たりの距離が異なることは学習している。また、地球の自転により赤道半径のほうが極半径よりも大きいことも学習している。緯度当たりの距離から求めた場合の地球半径は赤道付近のほうが短くなるため、知識だけの理解であればうまく説明できない部分である。逆にそのことを利用して、地球の形状を正しく思考し、イメージを言葉で説明できるかを問う問題にしている。

(2)は記述式で問う場合の事例である。キーワードを用いることを条件として設定しており、理解できている内容を基に思考し、分かりやすく表現することを求めている。表現力を問うためには、このような記述式の問題にする必要がある。

(2) 解答例

低緯度ほど半径が短くなるので、極半径に比べて赤道半径のほうが小さくなるように思えてしまうが、楕円体を考えた場合、曲面の曲がり具合が大きい程、１度の中心角を作る２点間の距離が短くなることから、緯度差１度の距離が短い程、膨らんでいる場所と考えられる。よって地球は赤道方向に膨らんだ形をしている。

ウ）「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「主体的に学習に取り組む態度」については、単に継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するのではなく、理科の知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかという意志的な側面を評価することが求められている。

具体的な評価方法としては、ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教員による行動観察、生徒による自己評価や相互評価等の状況などを、教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることが考えられる。ここでの評価は、生徒の学習の調整が「適切に行われているか」を判断するとともに、学習の調整が知識や技能の習得などに結び付いていない場合には、教員が学習の進め方を適切に指導することが重要である。

【「主体的に学習に取り組む態度」評価規準〔主③〕、「思考・判断・表現」評価規準〔思⑤〕について】

ここでは、第 16 時に、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」を併せて評価するために行った「パフォーマンス課題」について紹介する。

例２ パフォーマンス課題

日本列島付近の、プレート境界、地震の震源、火山の分布状況を調べ、各班それぞれ１枚の白地図にまとめて記入し、次の各項目について考察せよ。

(1) プレート境界の種類
(2) 地震発生場所とプレート境界との関係
(3) 火山の分布とプレートの関係

＜「主体的に学習に取り組む態度」評価規準〔主③〕の評価＞

パフォーマンス課題の最後に、「感想や気が付いたこと」として取組みの振り返りを行い、ワークシートによる取組状況とあわせて、この記述内容を「主体的に学習に取り組む態度」の評価材料とする。ワークシートにおいては、地震の規模や火山噴火の特徴までを考えて、より多くの情報を１枚の白地図に表そうとしていたり、日本付近以外のプレート境界や地震、火山分布に興味を持ち、主体的に調べようとしたりするなど、見通しをもって探究しようとしているかどうかを評価する。

単に、プレート境界や震源、火山を記入していただけであったものが、振り返りや班での対話を通して、関連性を意識して描くようになるなど、変化の様子も見取るようにする。結論まで至っているかどうかではなく、試行錯誤しながら、粘り強く取り組もうとしている側面や、自らの学習を調整しようとしている側面について評価することが求められる。

以下は、生徒の振り返りの記述である。生徒Ａさんは、実習を振り返って、主体的に取り組むことで地震、火山、プレートに関連があると考えられることに気が付いており、「おおむね満足できる」状況（Ｂ）と判断した。生徒Ｂさんは、協議しながら、試行錯誤を繰り返し、実習における前後の変容を記述しており、新たな課題にも言及しているため、「十分に満足できる」状況（Ａ）と判断した。

「おおむね満足できる」状況（B）と判断したAさんの振り返りの記述内容

日本付近では地震発生場所と火山の場所がプレート境界と関連しているようだ。世界的に見てもプレート境界では地震の発生や火山と関係しているが、ハワイ島のように、プレート境界ではないところもある。

「十分満足できる」状況（A）と判断したBさんの振り返りの記述内容

地震と火山は、たまたま日本付近に多くあると思っていたけど、班で意見を出し合いながら、実習を通して関連付けて考えるうちに、プレートの動きにともなう力を考えることで説明できるのではないかと思えるようになってきた。
日本以外の地域の様子や、日本付近のもっと多くのデータを調べることで、天体の一つである地球の謎の一つが説明できそうだ。

＜「思考・判断・表現」評価規準〔思⑤〕の評価＞

考察の記述を確認し、地震の発生や火山の噴火とプレートの動きを関連付けて説明できているか、地震、火山、プレートの関係を地学的な広がりを持って考えることができているか、地震の規模、噴火の特徴とプレートの関係を論理的に表現できているかなど、地震と火山とプレートを地学的な見方・考え方で分析・解釈し、科学的に探究できているかどうかで評価する。

以下は、「おおむね満足できる」状況（B）と判断したＣさんの(2)(3)の考察の記述である。

「おおむね満足できる」状況(B)と判断したＣさんの(2)(3)の考察の記述内容

(2) 海溝から日本列島太平洋沿岸の間で、巨大地震が繰り返し起こっていることが確認できる。プレートの沈み込みが続いていることでひずみがたまり続け、周期的にひずみの解放が起きるためと考えられる。プレートの沈み込みが続く限り、今後も巨大地震は繰り返すと考えられる。また、海溝より太平洋側には震源がほとんど見られない。

(3) プレートの沈み込み場所である海溝のラインと、ある程度離れたところで火山が出現する火山前線のラインは平行に近いことから、プレートの沈み込みがある程度進んだ場所でマグマが発生しており、その上に火山が噴火していると考えられる。

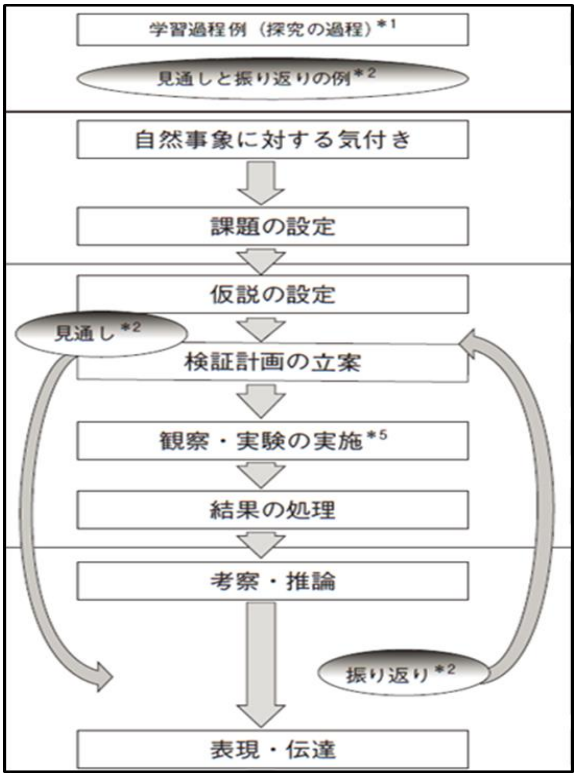
※　判断基準を設定する際は、単元の評価規準、単元計画に照らして、「おおむね満足できる」状況（B）を設定し、その基準に対して十分に上回り満足できる状況と判断されるものは「十分満足できる状況」(A)、基準を下回り努力を要すると判断されるものを「努力を要する状況」(C) とする。

（３）理科における観点別学習状況評価の留意事項

ア）資質・能力を育むために重視すべき学習過程

右図は、理科における資質・能力を育むために重視すべき学習過程のイメージ図である（高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説より）。この図からもわかるように、探究の過程は必ずしも一方向の流れではなく、それぞれの学習過程の中で、見通しをもち、振り返ることを繰り返し行う必要がある。観察や実験については、良い結果が得られることだけがすべてではなく、結果を振り返り、新たな見通しをもつことが大切である。

【「探究の過程」における学習過程例】



イ）３観点を評価する際の留意点

「知識・技能」については、生徒が自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているか、観察・実験の基本操作などを習得しているかなどを、単に知識として覚えているだけではなく、活用することができているかを、観察や実験を通じた行動の観察や発言、記述の内容、ペーパーテストなどから把握する。「思考・判断・表現」については、生徒が自然の事物・現象の中に問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈するなど、科学的に探究する過程において思考・判断・表現しているかを、生徒の発言や記述の内容、ペーパーテストなどから状況を把握する。また、「主体的に学習に取り組む態度」については、生徒が自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしているかを、発言や記述の内容、行動の観察などから状況を把握することが求められる。

保健体育科（科目「保健」）における観点別学習状況の評価の進め方について

ここでは、教科「保健体育」の科目「保健」を例に、「指導と評価の一体化」を実現するための観点別学習状況評価の進め方について説明する。

１　科目の「評価の観点の趣旨」の作成について

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領に示された教科・科目の目標や内容、「改善等通知」に示された教科の「評価の観点及びその趣旨」に基づき、科目の「評価の観点の趣旨」を設定することにより、その科目の学習を通して育成をめざすべき資質・能力と評価の基本的な枠組みを捉えることが大切である。

以下は、教科の目標と「評価の観点及びその趣旨」との関係性を踏まえた、「保健」の目標に対する「評価の観点の趣旨」の例である。

【「第２款 第２ 保健」の「評価の観点の趣旨」（例）】

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むため学習に主体的に取り組もうとしている。

２　指導と評価の年間計画（シラバス）について

指導と評価の年間計画（シラバス）の作成にあたっては、１の「保健」の「評価の観点の趣旨」に基づき、単元ごとの評価規準を設定する。指導と評価の年間計画（シラバス）は教材の配列ではなく、年間を通して教科・科目の目標の実現をめざすためのものである。学校教育目標、生徒の発達段階や学習状況を考慮するとともに、季節や学校行事等と教科との関連も見通して、年間の学習内容を計画する必要がある。

※指導と評価の年間計画（シラバス）＜記入例＞

学期	単元	学習内容	単元の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
○学期	安全な社会生活	事故の現状と発生要因 安全な社会の形成 交通安全 応急手当の意義 日常的な応急手当 心肺蘇生法	a：安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であること。また、交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備が関わること。交通事故には補償をはじめとした責任が生じることを理解している。（知識）	観察 ワークシート 考査	観察 ワークシート 考査	観察 ワークシート

学習指導要領に示す「２内容」において、**「知識」**に関しては、指導事項ア(ア)が該当する。その具体的な内容について、**文末を「～について理解している」として評価基準を作成する。**

a：適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があること。また、応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることを理解しているとともに、心肺蘇生法などの応急手当の技能を身に付けている。（技能）

b：安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現している。

c：健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。

学習指導要領に示す「２内容」において、**「技能」**に関しては、指導事項ア(イ)が該当する。その具体的な内容について、**文末を「～についての技能を身に付けている」として評価基準を作成する。**

＊指導事項(2)安全な社会生活」のみ、「技能」の観点を含んでいる。

学習指導要領解説p.206参照

学習指導要領に示す「２内容」において、**「思考・判断・表現」**に関しては、指導事項イが該当する。その具体的な内容について、**「～危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、考えたことを表現している。」として評価基準を作成する。**

基本的には、「改善等通知　別紙5　各教科等の評価の観点及びその趣旨＜保健体育＞」における「主体的に学習に取り組む態度」をもとに、当該「内容のまとまり」等で育成をめざす**「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の指導事項等を踏まえ、その文末を「～についての学習に主体的に取り組もうとしている」として評価規準を作成する。その際、「評価の観点の趣旨」の冒頭に示された「～について」の部分は、この「内容のまとまり」で対象とするものとする。**

＜学習指導要領　保健体育科　科目「保健」　２　内容　「安全な社会生活」より＞

(2) 安全な社会生活について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　安全な社会生活について理解を深めるとともに、応急手当を適切にすること。

(ｱ) 安全な社会づくり

安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取組みが必要であること。また、交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行などの適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備が関わること。交通事故には補償をはじめとした責任が生じること。

(ｲ) 応急手当

適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい方法があること。また、応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があること。心肺蘇生法などの応急手当を適切に行うこと。

イ　安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現すること。

３　単元における観点別学習状況の評価の進め方

ここでは、上の「保健」単元名「安全な社会生活」を取り上げ、保健体育科「保健」における観点別学習状況の評価の進め方について紹介する。

（１）単元における指導と評価の計画

ア）科目名：「保健」

イ）単元名：安全な社会生活「いざという時、あなたなら何ができる？」［全４時間］

ウ）学習指導要領との関連：２　内容　「安全な社会生活」

エ）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
（知識） ①安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であることを理解している。 ②交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備が関わることを理解している。 ③交通事故には補償をはじめとした責任が生じることを理解している。 ④適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できることを理解している。 ⑤応急手当には、正しい手順や方法があることを理解している。 ⑥応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることを理解している。 （技能） ①応急手当を適切にすることができる。	①安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えている。 ②安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を他者に伝えている。	①交通事故についての原因や要因について調べようとし、自分の身近に起こらないようにするためにはどうすれば良いかを積極的に学習しようとしている。 ②応急手当の学習について主体的に学ぼうとしている。 ③自分自身のできる範囲での適切な応急手当をしようとしている。

オ） 指導と評価の計画（全８時間）

●…指導に生かす評価、○…記録に残す評価

時	主な学習活動	評価の観点 知	思	主	評価規準・評価方法 評価規準は「エ）単元の評価規準」に対応
1	・交通事故はなぜ起こるのだろうか考えよう ・交通事故が起こらないためには何が必要かを考えよう ・もし事故が起こったときにはどうすれば良いのかを考えよう	●		●	〔知①②〕（観察） ・安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であることを理解している。 ・交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備が関わることを理解している。 〔主①〕（観察） ・交通事故についての原因や要因について調べようとし、自分の身近に起こらないようにするためにはどうすれば良いかを主体的に学習しようとしている。
2	・交通事故が起きた現場では何が起こっているかを知ろう ・応急手当はいつ必要になるのかを考えよう ・身近な応急手当について知ろう	○	○		〔知③④〕（観察・ワークシート） ・交通事故には補償をはじめとした責任が生じることを理解している。 ・適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できることを理解している。 〔思①〕（観察） ・安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えている。
3	・心肺蘇生法の必要性について学ぶ。 ・心肺蘇生法の実習を行う。	○		●	〔技①〕（観察） ・応急手当を適切にすることができる。 〔主②〕（観察） ・応急手当の学習について主体的に学ぼうとしている。
4	**＊パフォーマンス課題の提示** ・グループで必要なことを調べたり、実践したりしよう ・自分自身にできる適切な応急手当を実践しよう ・必要なことや気付いたことをグループ間で伝え合おう	○ ○	例１ ○ **思②【課題①②】** 例２ ○ **主③【課題③】**		〔知⑤⑥〕（観察・ワークシート） ・応急手当には、正しい手順や方法があることを理解している。 ・応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることを理解している。 〔技①〕（観察） ・応急手当を適切にすることができる。 〔思②〕（観察・**ワークシート**） 安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を他者に伝えている。 〔主③〕（観察・**ワークシート**） ・自分自身のできる範囲での適切な応急手当をしようとしている。

（２）具体的な評価方法（評価課題や判断基準について）

３観点をバランスよく育成する観点から、評価方法については実技テストのみで評価するのではなく、ルーブリック（判断基準表）などを活用して生徒の学習到達度を評価していくことが求められる。

【「パフォーマンス課題」について】

ここでは、第４時（太枠内）に実施するパフォーマンス課題について紹介する。生徒一人ひとりがこれまで学習してきた内容を基に様々な場面を考えながら、自分ができる応急手当を実践することができるよう、以下のパフォーマンス課題を生徒に課し、振り返りができる「学習カード」を配付する。

課題　今あなたは災害現場にいます。幸い、軽傷で動くことができる状態です。周囲は応急手当が必要な状況です。その災害現場は様々な場面が考えられます。どんな場面が想像できるでしょうか。また、その場面で有効な対処法を、今まで学習してきた内容をもとに、自分たちができる行動を考えて応急手当を実践してみよう。

（パフォーマンス課題で使用する学習カードの例）

応急手当ワークシート

ねらい：適切な応急手当を自分のできる範囲でできるようになろう

課題：
今あなたは災害現場にいます。幸い、軽傷で動くことができる状態です。周囲は応急手当が必要な状況です。その災害現場は様々な場面が考えられます。どんな場面が想像できるでしょうか。また、その場面で有効な対処法を、今まで学習してきた内容をもとに、仲間と協力して、自分たちができる行動を考えて応急手当を実践してみよう。

【課題①】自分自身がどんな状況にいるのかを想像したか、ワークシートに書いてみよう。
書いた状況を、仲間に伝え、同じような状況を書いた人とグループになろう。

状況・場面 ・倒壊物の様子 ・照明の有無 ・自分のいる場所 など	災害が起きた時の状況がなかなか想像できない場合は、スライド等に場面の設定ができるよう、視覚的に支援する。応急手当は、いざという時に動くことができるかどうかが重要になるため、災害の場面を考えさせる取組みは、「自分ならこうする」という視点を持つことができるようになり得る。お互いに考えを伝え合うことで、周囲の仲間が想定した状況・場面を知り、一人ひとりの違いに気付くことができるように指導する。
けが人の人数	10 人以上いそう　・　5 人くらいだ　・　2，3 人くらいだ
協力者の人数	10 人以上いそう　・　5 人くらいだ　・　2，3 人くらいだ

例１

【課題②】同じ状況で、自分ならどんなことができるのか、どんなことが必要かを、また、どういう手順で行えば良いのかを、今まで学習してきた内容やグループで調べたことをまとめていこう。

・どんなことができるのか ・どんなことが必要か ・どういう手順で行うか	今まで学習してきた事項を振り返りながら、まずは自分自身で記入させるように指導した上で、仲間と調べることによって、知識を活用させる活動につなげる。

【課題③】違うグループの実践を見て、自分でできることを考えたり、必要なことを伝え合ったりして、応急手当を実践していこう。
また、応急手当を実践をしてみての感想を書こう。

例２

・実践した内容	応急手当を実施する上で必要な知識や技能を活用し、実践することで、生徒自身の生活につなげることができるように指導する。何が必要か、自分にできることは何かを考えて実践し、感じたことを記入させる。この課題では、主体性や協調性等に関する記述を見取ったり、「何もできなかった」生徒に対しては、課題発見につなげたりする。
・実践した感想	
・他グループを見て伝えたいこと、感じたこと等	

（①～③の課題に対するルーブリック（判断基準表）の例）

ワークシートの記述内容や授業内での生徒の様子を観察して学習状況を評価することができるよう、次のようなルーブリック（判断基準表）を予め設定し、いつ、どこで、何を、どのように評価していくのかを計画しておく。

観点	「十分満足できる」状況（A）	「おおむね満足できる」状況（B）	努力を要する状況（C）と判断する生徒への手立て
【課題①】 【課題②】 例１	・急を要する場面を考えることができたり、怪我が多い場面を考えたりして、応急手当が必要な場面は様々であることを考えたり、伝え合ったりしている。	・応急手当が必要な場面を考えたり、伝え合ったりしている〔思②〕。 安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を他者に伝えている。	応急手当とは何なのか、何のために行うのかを考えさせる。また、テレビで見たことがないか等、身近な体験から状況や内容を考えることができるようにする。
【課題②】	・傷害や疾病の悪化を軽減できる手順や方法、また、二次災害を防ぐ記述をしている。 ・心配蘇生法について、正しい順序や、ポイントを記述している。	・応急手当の正しい手順や方法を記述している〔知⑤〕。 ・心配蘇生法についての記述をしており、応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることを理解している〔知⑥〕。	
【課題③】 例２	・自他の応急手当ができる。 ・心肺蘇生法ができる。仲間に指示を出したり、伝え合ったりしている。	・自分でできる応急手当の方法を知り、実践できる〔技①〕。 ・仲間からの指示を受け、応急手当を実践しようとしている〔主③〕。	自分にできる応急手当をもう一度考えることができるように、また、できる範囲を知ることができるように声をかける。

以下は、「おおむね満足できる」状況と判断する生徒の姿である。

評価規準〔思②〕において「おおむね満足できる」状況（B）と判断する生徒の姿

例１

「応急手当が必要な場面を考えたり、伝え合ったりしている」ことを判断基準としている。例えば、「119 番通報する」や「周りに助けを求めに行く」、「自分が二次災害に遭わないように周囲の確認をする」などの記述があれば「おおむね満足できる」状況（B）と判断できる。また、「けがをしている人が周囲にいれば、その人に止血くらいはできそうだからやってみる」などの話しをしたり、調べたりする様子を観察で見取ることができれば「おおむね満足できる」状況（B）と判断できる。

評価規準〔主③〕において「おおむね満足できる」状況（B）と判断する生徒の姿

例２

「仲間からの指示を受け、応急手当を実践しようとしている」ことを判断基準としている。
ワークシートの記述から、「けがをしている人にタオルで押さえるように言った。」「119 番通報した。」「AED を取りに行った。」など、応急手当が必要な場面で、自分ができることを記述していたり、観察でその様子を見取ることができれば「おおむね満足できる」状況（B）と判断できる。
さらに、「Sさん、119 番通報お願い！」「Tさん、AEDが周囲にないか探してきて！」など、周囲に指示を出している姿が実習中に見取ることができれば、主体性が高く、仲間に伝え合っている様子から、この生徒は「十分満足できる」状況（A）と判断できる。
第3時に実習で応急手当の一連の流れを学習していることで、こういう姿の生徒が予想できるようになる。

（３）保健体育科（科目「保健」）における観点別学習状況評価の留意事項

観点別学習状況の評価を進めるにあたっては、評価のみを単独で捉えるのではなく、「何を教えるのか」「どのように教えるのか」といった、指導する内容や指導方法等と関連付けて検討することが大切である。生徒が“今”何ができて何ができていないのかを見極め、できていることに関してはさらにチャレンジングな課題に挑戦できるように、また、できていないことに関してはなぜできていないのかを把握し、少しでもできるように、毎時間のねらいや目標を生徒と“共有”し、そのねらいや目標に向かって生徒が成長できるように支援することが大切である。

指導と評価を一体的に進めるにあたっては、指導を充実させた上で評価を行うことが重要であることから、学習指導要領解説に示された以下の事項等について十分に留意する必要がある。

ア）学習指導要領解説における思考力・判断力・表現力等の＜例示＞について

学習指導要領解説には、「保健」の指導内容（「現代社会と健康」、「安全な社会生活」、「生涯を通じる健康」「健康を支える環境づくり」の４項目）の「**イ　思考力、判断力、表現力等**」について具体的な内容が＜例示＞として示されている。これらの例示を参考にして、学校や生徒の実態に即し、思考力、判断力、表現力等を育成するために、どのような授業を実践していくか、単元全体のイメージを豊かに構想し、指導と評価の計画を作成してもらいたい。

本事例でも取り上げた内容(2)「安全な社会生活」を例に、学習指導要領解説の＜例示＞がどのような構成で書かれているかを説明する。

高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　保健体育編（平成 30 年 7 年）P.206

イ　思考力、判断力、表現力等

安全な社会生活に関わる事象や情報から課題を発見し、自他や社会の危険の予測を基に、危険を回避したり、傷害の悪化を防止したりする方法を選択し、安全な社会の実現に向けてそれらを説明することができるようにする。

＜例示＞

- 安全な社会生活における事象や情報などについて、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見すること。

- 安全な社会づくりについて、様々な事故や災害の事例から、安全に関する情報を整理し、環境の整備に応用すること。
- 交通安全について、習得した知識を基に、事故につながる危険を予測し回避するための自他や社会の取組を評価すること。
- 応急手当について、習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に応用すること。

- 安全な社会生活について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明すること。

課題発見［項目全体］
単元全体の学習内容に関わること。各学習内容で、生徒自身が課題を発見することができるように指導する。

課題解決［少し踏み込む］
単元の各学習内容で、課題解決のためには何が必要になってくるか、どんなことと関連付けていけば、設定した課題の解決になるのか等を、生徒が考えることができるように指導する。

表現［項目全体］
単元全体の学習内容に関わること。学習した内容を表現することができるように、指導する。

これらの＜例示＞を参考にしながら生徒の実態に合わせて指導内容・指導方法・評価方法を計画し、授業実践していくことが、観点別学習状況評価を効果的に進めいく上で有効である。

本事例では、「応急手当について、習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に応用すること。」という＜例示＞から、

①災害現場で起こっていることや、傷害を挙げることができる。［課題発見］

②その起こっていることや傷害に対して自分自身ならどうするか、何ができるかを考える。［課題解決］

③考えたことを実際にロールプレイして、感じたことをまとめたり発表したりする。［表現］

という学習内容・学習過程を構想し、各々の場面で「思考・判断・表現」を評価する計画とした。

イ）「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

「主体的に学習に取り組む態度」については、継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するのではなく、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、粘り強く取り組もうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが重要である。また、「主体的に学習に取り組む態度」の評価にあたっては、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点を踏まえて行う必要がある。

本事例の第１時では、教員の指導改善につなげるとともに、特に、「努力を要する」状況と判断した生徒を把握し、手立てを講じて継続した指導を行うことを目的に「指導に生かす評価」とし、「記録に残す評価」については、第４時に評価場面を設定し、課題を解決する学習活動を通して、その姿や変容を見取ることができるようにした。

保健体育科（科目「体育」）における観点別学習状況の評価の進め方について

ここでは、教科「保健体育」の科目「体育」を例に、「指導と評価の一体化」を実現するための観点別学習状況評価の進め方について説明する。

1　科目の「評価の観点の趣旨」の作成について

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領に示された教科・科目の目標や内容、「改善等通知」に示された教科の「評価の観点及びその趣旨」に基づき、科目の「評価の観点の趣旨」を設定することにより、その科目の学習を通して育成をめざすべき資質・能力と評価の基本的な枠組みを捉えることが大切である。

以下は、教科の目標と「評価の観点及びその趣旨」との関係性を踏まえた、「体育」の目標に対する「評価の観点の趣旨」の例である。

【「第２款 第１ 体育」の「評価の観点の趣旨」（例）】

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。

2　指導と評価の年間計画（シラバス）について

指導と評価の年間計画（シラバス）の作成にあたっては、１の「体育」の「評価の観点の趣旨」に基づき、単元ごとの評価規準を設定する。指導と評価の年間計画（シラバス）は教材の配列ではなく、年間を通して教科・科目の目標の実現をめざすためのものである。学校教育目標、生徒の発達段階や学習状況を考慮するとともに、季節や学校行事等と教科との関連も見通して、年間の学習内容を計画する必要がある。

※指導と評価の年間計画（シラバス）＜記入例＞

学期	単元名	学習内容	単元の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
○学期	体つくり運動	体ほぐしの運動 体力を高める運動 実生活に生かす運動の計画	a：定期的・計画的に運動を継続することは、心身の健康、健康や体力の保持増進につながる意義があることや、運動を安全に行うには、関節への負荷がかかりすぎないようにすることや軽い運動から始めるなど、徐々に筋肉を温めてから行うことを理解している。（知識） a：リズムに乗って心が弾むような運動を行うことを通して、気付いたり関わり合ったりすることができる。 休憩時間や家庭などで日常的に行うことができるよう効率のよい組合せやバランスのよい組合せで運動の計画を立てて取り組むことができる。（運動）	観察 ワークシート	観察 ワークシート パフォーマンス課題	観察 ワークシート

基本的には、学習指導要領に示す「２内容」において、**「知識」に関しては、(1)の「運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解する」の部分について、その文末を「～について理解している」とし、「技能」に関しては、指導事項のア、イについて、その文末を「～できる」として評価規準を作成する。**

なお、この例では、解説の＜例示＞を元にし、より具体的に評価規準を作成している。

体つくり運動

b：ねらいや体力の程度を踏まえ、自己や仲間の課題に応じた強度、時間、回数、頻度を設定している。また、課題を解決するために仲間と話し合う場面で、合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えている。

c：体つくり運動の学習に自主的に取り組もうとしている。仲間に課題を伝え合うなど、互いに助け合い教え合おうとしている。一人ひとりの違いに応じた動きなどを大切にしている。

基本的には、学習指導要領に示す「２　内容」において、指導事項(2)**について、その文末を「～課題を発見し、～を工夫するとともに、～を他者に伝えている」として評価規準を作成する。**
この例では、解説の＜例示＞の文末を「～見付けている」や「～伝えようとしている」として、より具体的に評価規準を作成している。

学習指導要領の(3)で育成をめざす資質･能力については、ア　共通事項　イ　公正　ウ　協力･責任　エ　参画･共生　オ　健康･安全の**５つの指導事項**がある。各領域でどの指導事項を重点的に取り上げるかは解説に示されている。
この例では、ア～エについて、**解説の＜例示＞の文末を「～しようとしている」**に、また、オについては、**解説の＜例示＞の文末を「～している」**として評価規準を作成している。

＜学習指導要領　保健体育科　科目「体育」　２　内容　Ａ　体つくり運動　［入学年次］より＞

(1) 次の運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むこと。
ア　体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気付き、仲間と自主的に関わり合うこと。
イ　実生活に生かす運動の計画では、自己のねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立て取り組むこと。
(2) 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。
(3) 体つくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとすること、話合いに貢献しようとすることなどや、健康・安全を確保すること。

３　単元における観点別学習状況の評価の進め方

ここでは、上記の単元名「体つくり運動」を取り上げ、保健体育科「体育」における観点別学習状況の評価の進め方について紹介する。

（１）単元における指導と評価の計画

ア）　科目名：「体育」

イ）　単元名：**体つくり運動「実生活で継続できる運動を計画しよう」**　［全８時間］

ウ）　学習指導要領との関連：２　内容　Ａ　体つくり運動　［入学年次］

エ）　単元の評価規準

知識・技能（事例では運動）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
（知識） ①定期的･計画的に運動を継続することは、心身の健康、健康や体力の保持増進につながる意義があることや、運動を安全に行うには、関節への負荷がかかりすぎないようにすることや軽い運動から始めるなど、徐々に筋肉を温めてから行うことを理解している。 ②実生活への取り入れ方には、自己のねらいに応じた様々な運動の計画などがあることを理解している。	①ねらいや体力の程度を踏まえ、自己や仲間の課題に応じた強度、時間、回数、頻度を設定している。 ②課題を解決するために仲間と話し合う場面で、合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えている。 ③体つくり運動の学習生活を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を見付けている。	①体つくり運動の学習に自主的に取り組もうとしている。 ②仲間に課題を伝え合うなど、互いに助け合い教え合おうとしている。 ③一人ひとりの違いに応じた動きなどを大切にしている。

（運動） ①リズムに乗って心が弾むような運動を行うことを通して、気付いたり関わり合ったりすることができる。 ②休憩時間や家庭などで日常的に行うことができるよう効率のよい組合わせやバランスのよい組合せで運動の計画を立てて取り組むことができる。		

オ） 指導と評価の計画（全８時間）　　●…指導に生かす評価、○…記録に残す評価

時	主な学習活動	評価の観点			評価規準・評価方法 評価規準は「エ）単元の評価規準」に対応
		知	思	主	
1	オリエンテーション 前年度までのふりかえり	●			〔運①〕（観察） ・様々な運動を行うことを通して、気付いたり関わり合ったりすることができる。
2	体ほぐし運動 既習の運動の復習 運動の組合せについて知る ペアやグループで体ほぐし運動の組合せを考え実践する①	○			〔知①〕（学習カード） ・自己のねらいに応じて、効果的な成果を得るための適切な運動の行い方があることを理解している。
3	体ほぐし運動 ペアやグループで体ほぐし運動の組合せを考え実践する②	●			〔運①〕（観察） ・様々な運動を行うことを通して、気付いたり関わり合ったりすることができる。
4	体ほぐし運動 運動の計画を立てる	●			〔知②〕（学習カード） ・実生活への取り入れ方には、自己のねらいに応じた様々な運動の計画などがあることを理解している。
5	**パフォーマンス課題の提示** 10 分間継続して実践できる、実生活に生かす運動の組合せを考えよう グループ分け 課題の整理	○ **例１** **知②【課題①②】**		○	〔知②〕（観察、**学習カード**） ・課題解決の方法には、自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための運動例の選択をそれに基づく計画の作成及び実践、学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があることを理解している。 〔主①③〕（観察） ・体つくり運動の学習に自主的に取り組もうとしている。 ・一人ひとりの違いに応じた動きなどを大切にしようとしている。
6	課題の確認と実践① ・運動の組合せ ・課題解決に向けて グループ内で発表① ・良いところ ・取り入れられるところ ・アドバイス	● **例２**	○ **思②【課題③】**		〔運②〕（観察、**学習カード**） ・仲間と協力して課題を達成するなど、集団で挑戦するような運動を行うことを通して、気付いたり関わり合ったりすることができる。 〔思①②〕（観察） ・課題に応じて計画し、仲間との話し合いの場面で、合意形成ができている。
7	課題の確認と実践② ・運動の組合せ ・課題解決に向けて グループ内で発表② ・良いところ ・取り入れられるところ ・アドバイス		○ **例３**	○ **主②【課題④】**	〔思②③〕（観察、**学習カード**） ・課題を解決するために仲間と話し合う場面で、合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えている。 ・体つくり運動の学習生活を踏まえて、自己のねらいに応じた運動を、生涯にわたって楽しむための関わり方を見つけている。 〔主①②〕（観察） ・体つくり運動の学習に自主的に取り組もうとしている。 ・仲間に課題を伝え合おうとしている。
8	全グループ代表者発表と実践 単元のまとめ、ふりかえり	**※総括的な評価**			（観察、学習カード）

※「総括的な評価」の場面では、必要な観点や個々の生徒について最終確認を行う工夫をしている。

＊学習指導要領には、各年次で、<u>単元として「体つくり運動」を実施すること</u>が明記されている。
＊各運動領域の前に実践を行うことも有効であるが、年間通じて、目標を一貫している必要がある。
＊「体つくり運動」の評価規準設定に関する留意事項

・体ほぐしの運動は、技能の習得・向上をねらいとするものでないこと、体の動きを高める運動は、ねらいに応じて運動を行うとともにそれらを組み合わせることが主な目的となること、実生活に生かす運動の計画は、運動の計画を立てて取り組むことが主な目的となることから、<u>「技能」の評価規準は設定されていない。</u>
・<u>「体つくり運動」の「運動」については、主に「思考・判断・表現」に整理されている。</u>

［「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料　中学校　保健体育」（国立教育政策研究所、2020）］

（２）具体的な評価方法（評価課題や判断基準について）

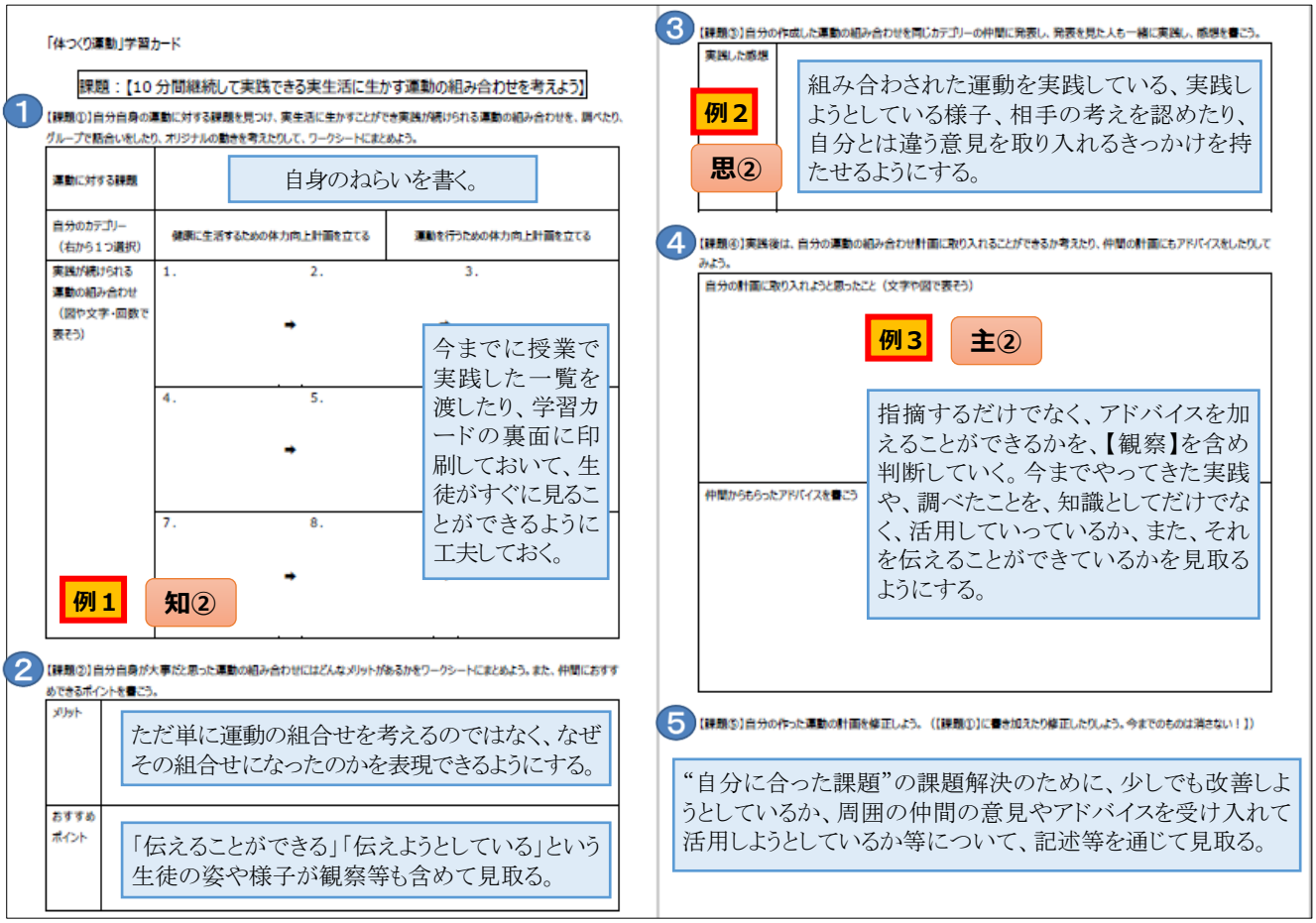
３観点をバランスよく育成する観点から、評価方法については実技テストのみで評価するのではなく、ルーブリック（判断基準表）などを活用して生徒の学習到達度を評価していくことが求められる。

【「パフォーマンス課題」について】

ここでは、第５～８時（太枠内）に実施するパフォーマンス課題について紹介する。これまで学習してきた内容をもとに、運動の計画を立案し実践することができるようなパフォーマンス課題を生徒に課し、振り返りができる「学習カード」を配付する。課題は、「10 分間継続して実践できる、実生活に生かす運動の組合せを考えよう」である。「学習カード」は、パフォーマンス課題に対する思考の流れに沿って課題①～⑤を示しており、生徒の思考を可視化し、その変容を見取ることができるように工夫している。

また、次ページに示すルーブリック（判断基準表）からもわかるように、課題①～⑤の記述は観点別学習状況評価の評価材料となる。いつ、どこで、何を、どのように評価していくのかを予め計画しておくことにより、本時は何が目標なのかを生徒と共有することにつなげることができる。

（パフォーマンス課題で使用する学習カードの例）



提示したパフォーマンス課題に対し、次の①から⑤の課題に取り組む。

①自分自身の運動に対する課題を見つけ、実生活に生かすことができ実践が続けられる運動の組合せを調べたり、グループで話合いをしたり、オリジナルの動きを考えたりして、ワークシートにまとめよう。
②自分自身が大事だと思った運動の組合せにはどんなメリットがあるかをワークシートにまとめよう。また、仲間におすすめできるポイントを書こう。
③自分の作成した運動の組合せを同じカテゴリーの仲間に発表し、発表を見た人も一緒に実践し、感想を書こう。
※実生活に生かす運動の計画の行い方でのグループわけ＜ねらい別＞

健康に生活するための体力向上計画立案グループ	運動を行うための体力向上計画立案グループ

④実践後は仲間の計画を自分の運動の組合せ計画に取り入れることができるか考えたり、仲間の計画にもアドバイスをしたりしてみよう。
⑤自分の作った運動の計画を修正しよう。

(①～⑤の課題に対するルーブリック（判断基準表）の例)

ワークシートの記述内容や授業内での生徒の様子を観察して学習状況を評価することができるよう、次のようなルーブリック（判断基準表）を予め設定しておく。

課題	「十分満足できる」状況(A)	「おおむね満足できる」状況(B)	努力を要する状況(C)と判断する生徒への手立て
【課題①】 【課題⑤】	・自己のねらいに応じた効果的な目標を設定している〔知②〕。 ・仲間との話し合いの場面で、合意形成をするための調整の仕方を見つけている〔思①〕。	・自己のねらいに応じた目標を設定している〔知②〕。 ・仲間との話し合いの場面で、合意形成ができている〔思①〕。	・自分が取り組みやすいねらいについて、もう一度考えることができるようにする。 ・今まで学んできた運動を一覧で見ることができるようにする。
【課題②】 例1	・自己のねらいに応じて、効果的な成果を得るための適切な運動を組み合わせている〔知②〕。 ・生活様式や体力の程度を踏まえ、自己のねらいに応じた運動の計画を立案できている〔思②〕。	・効果的な成果を得るための適切な運動を組み合わせている〔知②〕。 ・自己のねらいに応じた運動の計画を立案できている〔思②〕。	・単体の動きを、運動の一覧表から選ばせ、組み合わせることができるようにする。 ・単体の動きを組み合わせることの効果をもう一度確認させる。
【課題③】 例2	・生活様式や体力の程度を踏まえ、自己のねらいに応じた運動の計画を立案できている〔思②〕。 ・一人ひとりの違いに応じた動きなどを大切にしようとしている〔主①〕。	・自己のねらいに応じた運動の計画を立案できている〔思②〕。 ・自分に応じた動きを大切にしようとしている〔主①〕。	・自己のねらいを持つことができるように声かけをする。運動を継続することで、体がどう反応するのかをもう一度考えさせる。 ・運動の一覧表から、自分ができる運動を見つけることができるようにする。
【課題④】 例3	・自己に適した「する・みる・支える・知る」などの運動を、生涯にわたって楽しむための関わり方を見つけている〔思③〕。 ・仲間に課題を伝え合うなど、互いに助け合い高め合おうとしている〔主②〕。	・自己のねらいに応じた運動を、生涯にわたって楽しむための関わり方を見つけている〔思③〕。 ・仲間に課題を伝え合おうとしている〔主②〕。	・仲間の動きを一緒にやってみるように声かけをする。仲間と同じようにできない場合には、回数や強度を下げて実践できるように声かけを行う。

以下は、「おおむね満足できる」状況（B）と判断する生徒の姿である。

評価規準〔知②〕における「おおむね満足できる」状況(B)と判断する生徒の姿

例1　1から9までの運動の組合せの中で、ねらいが「健康に生活するための運動計画」であれば、例えばストレッチや全身を使った軽い筋力トレーニングを組み合わせている。

評価規準〔思②〕における「おおむね満足できる」状況(B)と判断する生徒の姿

例2　ねらいをまずグループで発表し、そのねらいにあった強度、実施時間、実施回数、実施頻度等が無理なくきちんと設定されているかどうかをワークシートの記述を通じて見取ることができ、また、グループで実践している際、仲間の動きを指摘・改善したりする様子を観察で見取ることができれば、「おおむね満足できる」状況と判断する。例えば、ねらいが「運動をおこなうための体力向上運動計画」なら、クラブ活動にも応用が効く時間・回数・頻度等が書かれており、体感した感想が書かれていればBと判断できる。

評価規準〔主②〕における「おおむね満足できる」状況(B)と判断する生徒の姿

例3　自分の計画とは異なる仲間の計画を実践することを通じて、本単元の学習の中で、多くの知識や、運動を組み合わせたり、実践したりしてきたことを踏まえて、「それはもっと○○したほうが良い」と思えるような課題を発見して、改善点やアドバイスをし合う場面である。観察やワークシートの記述から、回数や実践の仕方をアドバイスしている様子があれば「おおむね満足できる」状況(B)と判断する。また、「Mくんに○○にしたほうが、もっと脚に効果的だとアドバイスをもらった。だから、○○の動きを3番目に加えることにした」等、今までの知識や運動で経験したことを、自己のねらいに合っていると判断し、取り入れることができる様子が見取れるものも、「おおむね満足できる」状況(B)と判断できる。

（３）保健体育科（科目「体育」）における観点別学習状況評価の留意事項

観点別学習状況の評価を進めるにあたっては、評価のみを単独で捉えるのではなく、「何を教えるのか」「どのように教えるのか」といった、指導する内容や指導方法等と関連付けて検討することが大切である。生徒が“今”何ができて何ができていないのかを見極め、できていることに関してはさらにチャレンジングな課題に挑戦できるように、また、できていないことに関してはなぜできていないのかを把握し、少しでもできるように、毎時間のねらいや目標を生徒と“共有”し、そのねらいや目標に向かって生徒が成長できるように支援することが大切である。以下は、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料　中学校　保健体育」（国立教育政策研究所、2020）を基に示すものである。

指導と評価を一体的に進めるにあたっては、指導を充実させた上で評価を行うことが重要であることから、学習指導要領解説に示された以下の事項等について十分に留意すること。

ア）知識・技能

- 「知識」については、体の動かし方や用具の操作方法などの具体的な知識と、運動の実践や生涯スポーツにつながる概念や法則などの汎用的な知識が示されている。具体的な知識と汎用的な知識を関連させて指導することで、各領域の特性や魅力、運動やスポーツの価値などの理解につなげることが求められる。
- 「技能」については、「内容のまとまり」ごとに、学習指導要領解説の＜例示＞等を参考にして、運動種目等の固有の技能や動きなどを身に付けさせることが具体的なねらいとなるが、各領域及び運動種目等における技能や攻防の様相、動きの様相との関連に留意し、各領域の特性や魅力に応じた楽しさや喜びを味わうことができるようにすることが求められる。

イ）思考・判断・表現

- ＜例示＞では、例えば、「提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えること」のように「伝える」までの一連の具体的な指導内容を示したものと、「提供された練習方法から、自己の課題に応じて、技の習得に適した練習方法を選ぶこと」のように、思考力、判断力に重点を置いたものが示されている。
- 学習指導要領で示す「表現力」とは、運動の技能に関わる身体表現や表現運動系及びダンス領域における表現とは異なり、思考し判断したことを他者に言葉や文章及び動作などで表現することである。
- ＜例示＞では、「体の動かし方や運動の行い方に関する思考力、判断力、表現力等」、「体力や健康・安全に関する思考力、判断力、表現力等」、「運動実践につながる態度に関する思考力、判断力、表現力等」、「生涯スポーツの設計に関する思考力、判断力、表現力等」の中から、各領域で取り上げることが効果的な指導事項の具体例が重点化して示されている。

ウ）主体的に学習に取り組む態度

- 科目「体育」においては、豊かなスポーツライフを実現することを重視し、従前より学習指導要領には「態度」が内容として示されている。また、「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」において、各教科等の目標や内容に対応した学習評価が行われることとされており、各教科等によって、評価の対象に特性があることに留意が必要である。
- ＜例示＞については、学習に関わる「学びに向かう力、人間性等」の具体的な指導事項として示したものであり、各領域において愛好的態度及び健康・安全は共通の指導事項とし、公正（伝統的な行動の仕方）、協力、責任、参画、共生の中から、各領域で取り上げることが効果的かつ具体的な指導事項が重点化して示されている。
- 例えば、協力の場面や行動の仕方の例などの具体的な知識と、なぜ協力するのかといった協力することの意義などの汎用的な知識を関連させて指導することで、生徒自身の積極性や自主性を促し、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現していく資質・能力の育成を図ることが必要である。
- 自己の最善を尽くして運動をしたり、生涯にわたって運動に親しんだりするなどの運動への愛好的な態度は、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割や責任を果たす、参画する、一人ひとりの違いを大切にしようとするなどの意欲や、健康・安全に留意する態度などの具体的な学習を通して育成されるものであると考えられる。

これらの学習を通して、「粘り強く学習に取り組む態度」や「自ら学習を調整しようとする態度」が相互に関わり合いながら立ち現れ、運動への愛好的な態度が育まれるものと考えられる。

〔「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料　中学校　保健体育」（国立教育政策研究所、2020）を基に作成〕

芸術科（音楽）における観点別学習状況の評価の進め方について

ここでは、教科「芸術」の科目「音楽Ⅰ」を例に、「指導と評価の一体化」を実現するための観点別学習状況評価の進め方について説明する。

１　科目の「評価の観点の趣旨」の作成について

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領に示された教科・科目の目標や内容、「改善等通知」に示された教科の「評価の観点及びその趣旨」に基づき、科目の「評価の観点の趣旨」を設定することにより、その科目の学習を通して育成をめざすべき資質・能力と評価の基本的な枠組みを捉えることが大切である。

以下は、教科の目標と「評価の観点及びその趣旨」との関係性を踏まえた、「音楽Ⅰ」の目標に対する「評価の観点の趣旨」の例である。

【「第２款 第１ 音楽Ⅰ」の「評価の観点の趣旨」（例）】

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。（知識） ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。（技能）	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもってどのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組もうとしている。

２　指導と評価の年間計画（シラバス）について

指導と評価の年間計画（シラバス）の作成にあたっては、１の「音楽Ⅰ」の「評価の観点の趣旨」に基づき、題材ごとの評価規準を設定する。指導と評価の年間計画（シラバス）は教材の配列ではなく、年間を通して教科・科目の目標の実現をめざすためのものである。学校教育目標、生徒の発達段階や学習状況を考慮するとともに、季節や学校行事等と教科との関連も見通して、年間の学習内容を計画する必要がある。

※「音楽Ⅰ」指導と評価の年間計画（シラバス）＜記入例＞

学期	題材名	学習内容	題材の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
○学期	ギターの二重奏で演奏しよう	・様々なギターとその音色について ・旋律とアルペジオ ・ギターの奏法について ・二重奏について ・課題曲の演奏	a：曲想と楽器の音色や奏法との関わりについて理解している。（知識） a：ギターの奏法、基本的な身体の使い方、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付けている。（技能）	ペーパーテスト パフォーマンス課題	ワークシート パフォーマンス課題	授業観察 ワークシート

基本的には、学習指導要領に示す「２内容」において、**「知識」に関しては、「Ａ　表現」の指導事項イの(ｱ)、(ｲ)、(ｳ)、「Ｂ　鑑賞」の指導事項イの(ｱ)、(ｲ)、(ｳ)について、その文末を「～について理解している」とし、「技能」に関しては、「Ａ　表現」の指導事項ウの(ｱ)、(ｲ)、(ｳ)について、その文末を「～を身に付けている」として、「知識」と「技能」を分けて評価規準を作成する。**

※「技能」に関しては、「Ｂ　鑑賞」について評価規準は設定しない。

	ギターの二重奏で演奏しよう		b：旋律やテクスチュア、ギターの演奏や、二重奏に関わる知識や技能を得たり意識したりしながら、それらの関わりについて考え、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫している。 c：曲想と楽器の音色や奏法との関わりについて理解したり、ギターの奏法、基本的な身体の使い方、他者との調和を意識し、創意工夫して主体的・協働的に二重奏で表現する学習活動に取り組もうとしている。	

基本的には、学習指導要領に示す「２内容」において、**「A　表現」の指導事項アについて、その文末を「～について考え、〈歌唱、器楽、創作※分野によって選択〉表現を創意工夫している」とし、「B　鑑賞」の指導事項アの(ｱ)、(ｲ)、(ｳ)について、その文末を「～について考えるとともに、〈指導事項アの(ｱ)～(ｳ)〉について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている」として評価規準を作成する。**

基本的には、「改善等通知　別紙5　各教科等の評価の観点及びその趣旨＜音楽＞」における「主体的に学習に取り組む態度」をもとに、当該「内容のまとまり」等で育成をめざす**「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の指導事項などを踏まえ、「音や音楽、音楽文化と豊かに関わり、主体的・協働的に〈歌唱、器楽、創作、鑑賞〉の学習活動に取り組もうとしている」として評価規準を作成する。**

※各科目の「１　目標」(3)を参考にし、必要に応じて科目別の「評価の観点の趣旨」のうち「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分を用いて作成する。

＜学習指導要領　芸術科（音楽）　科目「音楽Ⅰ」　２ 内容　A 表現　(2) 器楽＞

(2) 器楽
　器楽に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア　器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫すること。
イ　次の(ｱ)から(ｳ)までについて理解すること。
　(ｱ) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり
　(ｲ) 曲想と楽器の音色や奏法との関わり
　(ｳ) 様々な表現形態による器楽表現の特徴
ウ　創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、次の(ｱ)から(ｳ)までの技能を身に付けること。
　(ｱ) 曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能
　(ｲ) 他者との調和を意識して演奏する技能
　(ｳ) 表現形態の特徴を生かして演奏する技能

３　題材における観点別学習状況の評価の進め方

ここでは、上の「音楽Ⅰ」題材名「ギターの二重奏で演奏しよう」を取り上げ、芸術科（音楽）における観点別学習状況の評価の進め方について紹介する。

（１）題材における指導と評価の計画

ア）科目名：「音楽Ⅰ」

イ）題材名：ギターの二重奏で演奏しよう［全６時間］

ウ）学習指導要領との関連：内容　A 表現　(2) 器楽　ア、イ(ｲ)(ｳ)、ウ(ｱ)(ｲ)

エ）題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
（知識） 曲想と楽器の音色や奏法との関わりについて理解している。 （技能） ギターの奏法、基本的な身体の使い方、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付けている。	旋律やテクスチュア、ギターの演奏や、二重奏に関わる知識や技能を得たり意識したりしながら、それらの関わりについて考え、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫している。	曲想と楽器の音色や奏法との関わりについて理解したり、ギターの奏法、基本的な身体の使い方、他者との調和を意識し、創意工夫して主体的・協働的に二重奏で表現する学習活動に取り組もうとしている。

オ）指導と評価の計画（全６時間）　　●…形成的評価、○…総括的評価

時	主な学習活動	評価の観点			評価規準・評価方法
		知	思	主	
1	様々なジャンルのギターの音色を聴き比べ、音の魅力や特質を感じ取る。	●		● 例２	〔知①〕（ワークシート、観察） ・ギターの音色を聴き比べ、音色の違いや特質について理解するために、ワークシートにまとめたり意見を交流したりしている。 〔主①〕（**観察**） ・ギターの音色を聴き比べ、音色の違いや特質について理解し、主体的・協働的に取り組もうとしている。
2	クラシックギターらしい音色を追求しながら、旋律とアルペジオによる伴奏を演奏する。	●		●	〔技①〕（観察） ・アポヤンド奏法とアル・アイレ奏法の違い、基本的な姿勢や指の形などの身体の使い方などの技能を身に付けている。 〔主②〕（観察） ・アポヤンド奏法とアル・アイレ奏法の違い、基本的な姿勢や指の形などの身体の使い方などを意識して主体的・協働的に演奏しようとしている。
3	課題曲について理解を深め、どのような演奏をめざすのかペアで明確にする。		●	●	〔思①〕（観察） ・ギターの音色や課題曲の曲想について考え、自己のイメージを表現するためにどのような演奏をするのか考え、工夫している。 〔主③〕（観察） ・課題曲の曲想とギターの音色について理解し、どのように演奏するかを考え、主体的・協働的に工夫しようとしている。
4	旋律と伴奏の役割について考え、それぞれにふさわしい音色や強弱の視点で調和を意識したより良い演奏を研究する。	○	○ 例１	●	〔知②〕（ワークシート、観察） ・旋律と伴奏の役割や課題曲の曲想について理解するために、ワークシートにまとめたり意見を交流したりしている。 〔思②〕（**ワークシート**、観察） ・旋律と伴奏の役割について考え、音色や強弱、ペアとの調和を意識した演奏をできるように工夫している。 〔主④〕（観察） ・課題曲についてより良い演奏ができるように、主体的・協働的に研究しようとしている。
5 6	ペアで課題曲を演奏し、発表する。	○		○ 例２	〔技②〕（演奏の聴取） ・課題曲にふさわしい音色や奏法で、ペアとの調和を意識して演奏する技能を身に付けている。 〔主⑤〕（**観察、ワークシート**） ・課題曲にふさわしい音色や奏法で、ペアとの調和を意識して演奏しようとしている。

学期末や学年末に評価を総括することになるが、育成すべき資質・能力を確実に育むためには、題材や内容のまとまりの中で、目標とする資質・能力が身に付いているかどうかを見取ることが必要である。

芸術科（音楽）の指導内容から見ると、知識や技能面の「見える学力」の部分は客観的な評価が可能であるが、「主体的に学習に取り組む態度」という情意的な側面や「思考・判断・表現」という感性的な側面は「見えにくい学力」であり、客観的な評価が難しい面がある。そのため、このすべての側面を一体的に捉え、より客観性・信頼性のある評価を行うことが求められる。

毎時間の授業において、指導に生かす評価（形成的評価）として生徒の行動や発言などを継続的に観察しながら、題材のまとまりにおいて育成をめざす資質・能力が発揮されやすい時期を精選し、評価する場面を設定して、様々な評価方法（行動観察、演奏聴取、ワークシートの記述、計画表、自己評価や相互評価など）を組み合わせながら、より多面的に生徒の学習状況を把握していくことが大切である。

（２）具体的な評価方法（評価課題や判断基準）について

ア）「知識・技能」の評価

「知識」を評価する際には、単なる情報の蓄積ではなく、「実感しながら理解する知識の習得」を意識する必要がある。学習指導要領解説には、「楽器の奏法の違いによる音色や響き、表情の違いについて、実感を伴った理解が重要である。」と示されていることを踏まえ、「奏法の違いによる様々な音色や響き、表情の違いを音から感じ取れること」と、「どういった奏法がそうした音色や響き、表情を生み出しているのかを意識的に知ること」とを一体化して学習させる必要がある。音から様々な知識を直観的に理解することが大切であると同時に、それを意識化し、論理的に理解させていくことが大切である。

イ）「思考・判断・表現」の評価

「思考・判断・表現」については、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進める中で、生徒が思考・判断・表現する学習場面を効果的に設定し、指導・評価を行うことが求められる。

本事例では、ギターの二重奏について、①旋律やテクスチュア、ギターの演奏や二重奏に関わる知識や技能を得たり意識したりしているか、②自己のイメージをもっているか、③器楽表現を創意工夫しているかなど、生徒が知識や技能を活かし、どのように表現するかを考え、工夫できる力を身に付けているかを評価する。授業が進むに従って、生徒は知識や技能が身に付き、曲想や演奏について具体的にイメージできるようになる。また、２人の表現意図を試しながら演奏する過程において、「音楽の特質に応じた言語活動」を適切に位置付けることができる。そのため、発表時の演奏の聴取のみならず、練習の過程における演奏の様子やワークシートの記述、ペアでの発言内容などを評価し、「楽曲をどう表現したいか」ということと「楽曲をどう表現しているか」ということを丁寧に見取っていく必要がある。

【「思考・判断・表現」評価規準〔思②〕について】

本事例では、第３、４時にペアワークの観察とワークシートにより「思考・判断・表現」についての評価を行う。評価の進め方は、ペアワークでの発言や他者の意見に対する反応・様子、ワークシートの記述内容が具体的にどこまで表現できていればよいのかなど、具体的な生徒の姿を明確にした上で、本時において評価する学習場面を決定することが重要である。ペアワークでの観察は、ワークシートの記述のみでは判断できない側面を補完できるようにする。以下は「ワークシート」の例である。

例１　「ワークシート」の例

♪曲を聴いて、音楽的な特徴や気づいたこと、感じ取ったことを書きましょう。

	旋律の部分	伴奏の部分
音楽的な特徴		
気付いたこと		
感じ取ったこと		

♪この曲を演奏するときに、どのような思いや意図をもって演奏したいか、また、そのためにはどのように表現すると良いか考えましょう。

全体的な雰囲気		
どこの部分を	どのような感じで（思いや意図）	そのためには（表現）

思①

♪二重奏でより良い演奏をするために旋律と伴奏の役割について考え、ペアでできることについて書きましょう。

思②　　ペアワークの観察とあわせて評価する

（生徒Ａの記述）
それぞれのパートが、旋律と伴奏の部分で交互になっている。この曲はゆったりと優しい音で弾いた方が良いと思うので、テンポが速くならないよう、相手の音を聴いて合わせることを意識して演奏する（特に♫のリズムで一緒に動くところ）。

「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント

【ペアワークの観察】
第４時の学習活動の際、その曲の魅力や音楽の特徴、音楽を形づくっている要素などとの関連についての生徒の発言や、他者の発言内容に対する反応の様子などを観察する。

【ワークシートの記述】
音楽を形づくっている要素を知覚・感受し、そのこととの関わりについての考えを記述し、思いや意図をもっているか。

【ペアワークで見取るポイント】

・音色や奏法の違いから生まれる響きや表情などを大切にしながら、自分が出す音の音色や試している奏法によって、どのように表現すれば楽曲のよさを表すことができるのか？

・楽曲に対する自らのイメージを膨らませたり、他者のイメージに共感したりして、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら、表したい器楽表現について考えているか？　　など

前ページに示す生徒Ａは、旋律同士の音の重なりやテンポ感、この楽曲に対するイメージや具体的な演奏法など、音楽を形づくっている要素を知覚・感受し、そのこととの関わりについての考えを記述している。また、より良い演奏に向けての自分の考えや他者の意見をまとめており、思いや意図をもっていることが読み取れるため、「おおむね満足できる」状況（Ｂ）と判断できる。

ウ）「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「主体的に学習に取り組む態度」については、表現や鑑賞の活動の中で自己調整しながら、粘り強く取り組む態度などを見取るようにする。具体的には、学習活動の中で、曲想と音楽の構造の関係を理解し、創意工夫の過程に位置付けた技能を習得し、よりよい音楽表現をめざして、曲にふさわしい発声や奏法を試したり、他者との調和や協働を意識しながら試行錯誤する姿に着目する。また、鑑賞活動では、主体的に楽曲を聴き、曲想と文化的・歴史的背景などと関わらせて考えたりする姿などに着目する。

【「主体的に学習に取り組む態度」評価規準〔主①〕～〔主⑤〕について】

ここでは、「教師用チェックリスト」を活用した評価方法を紹介する。ただし、「自己調整しようとしている様子」については、すべての生徒の状況を観察のみで把握することは困難であるため、ワークシートなどの他の評価方法とあわせて評価する。

例２

【主体的に学習に取り組む態度の評価例】
「教師用チェックリスト」

【教師用チェックリスト】※『指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料（中学校　音楽）』p.65 を参考に作成

	取組状況			取組状況	
	粘り強く取り組んでいる様子	自己調整しようとしている様子		粘り強く取り組んでいる様子	自己調整しようとしている様子
生徒１	○	○	生徒 14		△
生徒２		~~他者の助言を聞き入れようとしない。~~	生徒 15	~~あきらめがち~~	

【自己調整しようとしている様子の評価例】
「ワークシート」

発表までの見通しを立てよう

時間	本時の計画	達成度（%）	本時での発見や気付き	次回への課題
1				
2				
3				

ワークシートの記述内容とあわせて評価する

【記入方法と留意点及び判断基準】

○粘り強く取り組んでいる様子

・十分満足できる（Ａ）…「○」を記入。
　判断基準：課題曲の曲想とギターの音色や奏法との関わりについて理解し、ギターの奏法や他者との調和を強く意識して、積極的に他者と関わりながら、粘り強く取り組んでいる。
・おおむね満足できる（Ｂ）…空欄のまま。
　判断基準：課題曲の曲想とギターの音色や奏法との関わりについて理解し、ギターの奏法や他者との調和を意識して、他者と関わりながら、粘り強く取り組んでいる。
・努力を要する（Ｃ）…取組状況の欄に、具体的な状況を端的に記し、適切な指導や助言を行う。

○自己調整しようとしている様子

・十分満足できる（Ａ）…「○」を記入。
　判断基準：自己の演奏だけでなく、他者の演奏について助言したり、ペアの演奏をより高めようとしたりして、ペア全体の学習を調整しようとしている。
・おおむね満足できる（Ｂ）…空欄のまま。
　判断基準：他者からの助言を参考にしたり、ペアでの話し合いを参考に自らの演奏を振り返ったりして、自らの学習を調整しようとしている。
・努力を要する（Ｃ）…取組状況の欄に、具体的な状況を端的に記し、適切な指導や助言を行う。
・観察だけでは判断が不十分…「△」を記入。

※　なお、「努力を要する（Ｃ）」の具体的な状況について改善が見られた場合は、取り消し線で消し、「おおむね満足できる（Ｂ）」状況と判断する。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、１時間のみではなく題材全体を通して行うため、例の生徒２のように最初は「努力を要する」（Ｃ）の評価であっても、その後の取組みの状況やワークシートの記述（良かった点やできなかった点だけではなく、改善点や次への見通しを明確に記述しているなど）などから、「おおむね満足できる」（Ｂ）と判断することができる。

（３）芸術科（音楽）における観点別学習状況評価の留意事項

ア）観点別学習状況の評価の３観点について

「知識」については、「これまで得た知識」を活用して創意工夫すること、さらに学習の過程で「新たな知識」を獲得していくことが求められる。例えば、表現や鑑賞の学習の中で、“強く”という𝑓の表現にも、「柔らかい𝑓」や「鋭い𝑓」、「壮大な𝑓」など、多様な表し方があることを理解していく。このように知識を更新しながら、知識の質は深まっていく。

「技能」については「創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けること」と示されており、「思考力、判断力、表現力」の育成と深く関わる。また、技能は習得と活用の両方が求められているため、生徒が「○○のように歌いたいな、○○のように演奏したいな」といった思いや意図が伴うような活動を工夫して行うことが大切である。

【現行の４観点との対照表】

「思考・判断・表現」については、「これまでに得た知識や技能を活用しているか」、「新たな知識や技能を活用しているか」を意識する必要がある。題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な「音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成など）」を選択することが大切である。「主体的に学習に取り組む態度」については、題材で設定した「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を、生徒が学習活動の中で主体的に身に付けようとしたり、発揮しようとしたりすることに向かう態度を評価することになる。題材設定の際、扱う教材曲や曲種の特徴、学習内容など、生徒に興味・関心を持たせたい事柄を明確にすることが大切である。

イ）３観点を評価する際の留意点

「知識・技能」については、学習内容により各題材で知識と技能に軽重をつけることも考えられるが、一方に著しく偏ることがないようにし、年間を通じてバランスよく育成することに留意が必要である。

「思考・判断・表現」については、音楽を形づくっている要素の知覚・感受、また、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている状況、思いや表現意図を持つ過程、結果の状況を評価する、また、「主体的に学習に取り組む態度」については、題材の学習に関心が持てるようにしながら、各時間の学習活動に「粘り強く取り組んでいる」か、題材の目標の実現に向けて「自己の学習を調整しようとしながら取り組んでいるか」について、題材の始まりから評価することが求められる。

ウ）〔共通事項〕における「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係

芸術科（音楽）における内容のまとまりには「歌唱」「器楽」「創作」「鑑賞」の４つがあり、「歌唱」「器楽」「創作」は「A 表現」、「鑑賞」は「B 鑑賞」の領域となる。〔共通事項〕とは、表現と鑑賞の学習において共通に必要となる資質・能力であり、学習指導要領において以下のとおり示されている。

> ア　音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。
>
> イ　音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。

アは「思考・判断・表現」に関する資質・能力、イは「知識」に関する資質・能力である。「A 表現」と「B 鑑賞」は２つの領域として設定されているが、本来、「表現の能力」と「鑑賞の能力」は別々に育成されるべきものではなく、相互に関連しながら高め合っていく能力として捉える必要がある。

芸術科（美術、工芸）における観点別学習状況の評価の進め方について

ここでは、教科「芸術」の科目「美術Ⅰ」を例に、「指導と評価の一体化」を実現するための観点別学習状況評価の進め方について説明する。

1　科目の「評価の観点の趣旨」の作成について

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領に示された教科・科目の目標や内容、「改善等通知」に示された教科の「評価の観点及びその趣旨」に基づき、科目の「評価の観点の趣旨」を設定することにより、その科目の学習を通して育成をめざすべき資質・能力と評価の基本的な枠組みを捉えることが大切である。

以下は、教科の目標と「評価の観点及びその趣旨」との関係性を踏まえた、「美術Ⅰ」の目標に対する「評価の観点の趣旨」の例である。

【「第２款 第４ 美術Ⅰ」の「評価の観点及び趣旨」（例）】

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。

【「第２款 第７ 工芸Ⅰ」の評価の観点及び趣旨（例）】

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて制作方法を創意工夫し、創造的に表わしている。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組もうとしている。

2　指導と評価の年間計画（シラバス）について

指導と評価の年間計画（シラバス）の作成にあたっては、１の「美術Ⅰ」の「評価の観点の趣旨」に基づき、題材ごとの評価規準を設定する。指導と評価の年間計画（シラバス）は教材の配列ではなく、年間を通して教科・科目の目標の実現をめざすためのものである。学校教育目標、生徒の発達段階や学習状況を考慮するとともに、季節や学校行事等と教科との関連も見通して、年間の学習内容を計画する必要がある。

※「美術Ⅰ」指導と評価の年間計画（シラバス）＜記入例＞

学期	題材名	学習内容	題材の評価規準（一部）	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
○学期		1　鑑賞 ・商品のパッケージを鑑賞し、表現の意図や工夫を感じ取る	a：形や色彩、材料などの性質や、それらが人の感情にもたらす様々な効果について理解するとともに、全体のイメージで捉えることを理解している。（知識）	ワークシート アイデアスケッチ 作品	ワークシート アイデアスケッチ 作品 プレゼンテーションボード	授業観察 ワークシート 振り返りシート

基本的には、「知識」に関しては、学習指導要領に示す〔共通事項〕の内容について、その文末を「～理解している」、「技能」に関しては、学習指導要領に示す「２ 内容」指導事項イについて、その文末を「～している」として評価規準を作成する。
※「技能」に関しては、「Ｂ鑑賞」について評価規準は設定しない。

	「地域特産の〇〇のパッケージデザインを考えよう」	2　発想や構想 ・地域の特産品を一つ選択し多角的に調べ、表現したい主題を生み出す 3　構想を練る① ・アイデアスケッチ４ 4　構想を練る② ・グループでアイデアスケッチと表現の意図を発表し、意見交換する 5　制作 6　鑑賞 ・プレゼンのための構想を練る ・作品のプレゼンテーション ・友人の作品を鑑賞し、ワークシートに感想や意見をまとめる	b：目的や条件、選んだ商品の伝えたいイメージ、美しさなどから発想を深め、創造的な表現の構想を練っている。（発想や構想） b：目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。（鑑賞）	基本的には、学習指導要領に示す「２内容」において、**「A 表現」の指導事項ア および「B 鑑賞」の内容について、その文末を「～している」として評価規準を作成する。**
			c：美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に主題を生み出し、目的や機能、商品の伝えたいイメージなどを総合的に考えて構想を練り、意図に応じて創意工夫し、見通しをもって表現の創造活動に取り組もうとしている。（表現に関して）	基本的には、「改善等通知　別紙5 各教科等の評価の観点及びその趣旨＜芸術科美術、工芸＞」における「主体的に学習に取り組む態度」をもとに、当該「内容のまとまり」等で育成をめざす**「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の指導事項等を踏まえ、その文末を「～について取り組もうとしている」として評価規準を作成する。** **題材において設定した「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の資質能力を、生徒が学習活動の中で主体的に身に付けようとしたり、発揮しようとしたりすることへ向かう態度を評価することになる。**

※　題材の評価規準の作成にあたっては、「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係や趣旨を踏まえ、単なる言葉の作業にならないよう、授業のねらいを明確化しながら設定することが大切である。

＜学習指導要領　芸術科（美術）　科目「美術Ⅰ」２　内容　A　表現　(2)デザイン　ア、イ
B　鑑賞　(1)鑑賞　ア(ｲ)、〔共通事項〕より＞

A　表現 (2)　デザイン デザインに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　目的や機能などを考えた発想や構想 (ｱ)　目的や条件、美しさなどを考え、主題を生成すること。 (ｲ)　デザインの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練ること。 イ　発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能 (ｱ)　意図に応じて材料や用具の特性を生かすこと。 (ｲ)　表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的な表すこと。
B　鑑賞 (1)　鑑賞 鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　美術作品などの見方や感じ方を深める鑑賞 (ｲ)　目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めること。
共通事項 (1)　「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　造形の要素の働きを理解すること。 イ　造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること。

３　題材における観点別学習状況の評価の進め方

ここでは、上の「美術Ⅰ」題材名「地域特産の〇〇のパッケージデザインを考えよう」を取り上げ、芸術科（美術、工芸）における観点別学習状況の評価の進め方について紹介する。

（１）題材における指導と評価の計画

ア）科目名：「美術Ⅰ」

イ）題材名：「地域特産の〇〇のパッケージデザインを考えよう」［全 12 時間］

ウ）学習指導要領との関連：内容　A　表現　(2)デザイン　ア、イ、　B　鑑賞　(1)鑑賞　ア(ｲ)、〔共通事項〕

エ）題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
（知識） 形や色彩、材料などの性質や、それらが人の感情にもたらす様々な効果について理解するとともに、全体のイメージで捉えることを理解している。 （技能） 意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を創意工夫し、制作の順序などを総合的に考えながら見通しをもって創造的に表している。	（発想や構想） 目的や条件、選んだ商品の伝えたいイメージ、美しさなどから発想を深め、創造的な表現の構想を練っている。 （鑑賞） 目的や機能、伝えたいイメージとの調和のとれた美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。	（表現に関して） 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に主題を生み出し、目的や機能、商品の伝えたいイメージなどを総合的に考えて構想を練り、意図に応じて創意工夫し、見通しをもって表現の創造活動に取り組もうとしている。 （鑑賞に関して） 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に作者の表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなど、見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

オ）　指導と評価の計画（全 12 時間）　　●…形成的評価、○…総括的評価

時	主な学習活動	評価の観点			評価規準・評価方法
		知	思	主	
1	1　鑑賞 ・さまざまな商品のパッケージを鑑賞し、表現の意図や工夫を感じ取り、ワークシートにまとめる	●		●	〔知①〕（ワークシート） ・商品の特徴を伝えるための表現の意図や創造的な工夫について造形的な視点で考えている。 〔主①〕（観察、ワークシート） ・商品の特長を伝えるための表現の意図や調和のとれた美しさなどを感じ取り、創造的な工夫について読み取ろうと主体的に取り組んでいる。
2	2　主題を決める ・地域の特産品を一つ選択し、多角的に調べ、表現したい特長や内容をワークシートにまとめる		○	● 例２	〔思①〕（ワークシート） ・目的や条件、伝えるべき内容を整理、吟味し主題を生成している。 〔主②〕（観察、ワークシート） ・主題をよく知るために積極的に資料活用し、伝えたい内容をワークシートにまとめるために主体的に活動している。
3	3　構想を練る① ・伝えたい内容を効果的に相手に伝えるパッケージデザインのアイデアスケッチをする		○	● 例２	〔思②〕（アイデアスケッチ） ・伝えたい内容を形や色彩、材料などが他者に与える効果を考えながら、効果的に伝えるための独創的な表現の構想を練っている。 〔主③〕（観察、アイデアスケッチ） ・よりよい表現の追求のため、アイデアスケッチの試行錯誤を重ねながら改善を図り、構想を深めようとしている。
4～6	4　構想を練る②	○	○	●	〔知②〕（ワークシート） 〔思③〕 〔主④〕
7～10	5　制作	●	●	●	〔技①〕（作品） ・自分の表現意図に応じて表現方法を創意工夫し、材料や用具の特性を生かして制作している。 〔思④〕 〔主⑤〕

11 ・ 12	6　鑑賞 ・完成したパッケージの表現の意図や工夫をまとめ、グループでプレゼンテーションする ・作品を鑑賞し合い、作者の表現の意図や工夫を読み取り、鑑賞ワークシートにまとめる	○ 例１	○	○	〔知③〕（**ワークシート**、プレゼンボード） ・形や色彩、材料などの性質や、それらが人の感情にもたらす様々な効果や全体のイメージで捉えることを理解している。 〔思⑤〕（ワークシート、プレゼンボード） ・目的や機能、伝えたいイメージとの調和のとれた美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 〔主⑥〕（観察、ワークシート） ・自分の伝えたい内容と表現の意図や工夫などを明確にし、他者に伝えようとしている。 ・主体的に作品を鑑賞し、形や色彩などの効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとし、作者の表現の意図や表現の工夫を考えようとしている。
授業外（題材終了後）		○	○		〔知・技〕（ワークシート、作品、プレゼンボード） ・それぞれの成果物を再確認し、必要に応じて修正し総括する。 〔思〕（ワークシート、アイデアスケッチ、作品） ・発想や構想について、表現の意図や工夫などを記述したワークシート等を完成作品と併せて再度見取り、必要に応じて修正し、総括する。

題材の評価規準を設定したら、題材の指導計画に示された学習過程を考慮しながら、それぞれの評価規準に対して、いつ、どのように評価を行うかを計画する。「技能」については、制作が進む中で少しずつ作品として具体的な形となり表れてくるため、制作過程を中心に、完成作品についても再評価して生徒の「創造的に表す技能」の高まりを最終的に見取ることが必要である。ここでは、題材の終了後、表現及び鑑賞でのアイデアスケッチやワークシートなどと併せて完成作品を見取り、必要に応じて評価を見直し、修正するとしている。

（２）具体的な評価方法（評価課題や判断基準について）

ア）「知識・技能」の評価

第１時では、様々なパッケージデザインを鑑賞し、形や色彩、材料などの造形の要素が感情にもたらす効果や統一感など全体のイメージで捉えることの理解を促す。ここでは、生徒一人ひとりの学習状況を見取り、すべての生徒が造形の要素の働きについて意識を向けて考えたり、大きな視点に立って対象のイメージを捉えたりするなど、これからの学習を深めることができるよう指導することに重点を置く。このように、第１時のワークシートは生徒の理解度を把握し、理解できていない生徒の指導に生かす材料として形成的に評価し、総括的評価については第 11、12 時のワークシートで行うこととする。

【「知識・技能」評価規準〔知③〕について】

この題材での「知識」に関する評価規準は、「形や色彩、材料などの性質や、それらが人の感情にもたらす様々な効果について理解するとともに、全体のイメージで捉えることを理解している」であることから、第 11、12 時での鑑賞のワークシートには、それらが表出することを促すような「問い」を投げなければならない。例えば、次のような「問い」の設定が考えられる。

例１ ワークシート　（第 11、12 時の設問例）

①（自分の作品に対して）

伝えたいイメージはどんなものでしたか？また、それを伝えるために形や色彩、配色で工夫したことは何ですか？

②（他者の作品に対して）

作者が伝えたいイメージは何だろう。また、そのイメージを伝えるための表現の意図や工夫は何だろう。

次のキーワードを使って書いてみよう。　【キーワード】 形、色彩、配色、全体のイメージ、レタリング

単に「作品の感想を書きなさい」という「問い」では、評価規準に対する判断基準の設定が難しい。このように、評価を見取るための資料とする場合は、ワークシートの内容や生徒に投げかける設問が、その題材の学習のねらいと整合性を持つものであるかどうか、あるいは造形的な見方・考え方が意識できるような内容であるかなど、十分な吟味が必要となる。

イ）「思考・判断・表現」の評価

「思考・判断・表現」として評価する「発想や構想」については、制作が進む中で具体的な形になったり、改善が加えられ深まったりするため、完成作品のみではなく、「何を表現したいか」という表現のプロセスと、「どう表しているか」という技能における表現の過程を丁寧に見取ることが大切である。

ここでは、制作途中段階の作品に加えて、生徒の発想や構想を可視化するための「ワークシート」や「アイデアスケッチ」を活用して、発想や構想に関する資質・能力の高まりを評価している。

鑑賞については、表現のように作品となって表出されるものではない。そのため、〔共通事項〕に示されている造形的な視点における理解や「思考力・判断力・表現力等」の鑑賞に関する資質・能力の見取りについては、生徒の行動や発言、ワークシートなどの記述内容が中心となる。ここでは、授業中は生徒の行動観察などにより学習状況を把握し、鑑賞が深まっていない視点や意識してほしい造形的な視点に関して助言することに重点を置き、総括的評価については題材終了後に行うこととした。

ウ）「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「主体的な学習に取り組む態度」の評価にあたっては、表現や鑑賞の活動の中で自己調整をしながら、粘り強く取り組む態度などに注目することが求められる。具体的には、表現活動においては、発想や構想を練るためにアイデアスケッチを熱心に繰り返し描いたり、創造的に表す技能を働かせるために、よりよい表現をめざし、絵の具で色を試したり、塗り重ねたりするなどの試行錯誤する姿が想定される。また、鑑賞活動においては、主体的に作品に向き合う、積極的に発言する、じっくりと考える姿が想定される。机間指導などの際に、このような学習に対して自己調整を図りつつ、粘り強く取り組む姿を捉えながら、指導と評価を行うことが大切である。

【「主体的に学習に取り組む態度」評価規準〔主②〕〔主③〕について】 例２

以下は第２、３時における「構想を練る表現の活動」での判断基準（例）と「努力を要する」状況（C）と判断した生徒への手立てである。「おおむね満足できる」状況（B）については、題材の評価規準から、「目的や機能、商品の伝えたいイメージなどを主体的に考えながら、構想を練ろうとしている」とする。

この学習の過程については形成的評価とするため、特に、「努力を要する」状況（C）の生徒に対して求められる手立てを考えておく必要がある。また、「十分満足できる」状況（A）に示している具体的な姿（特に、波線部分）をあらかじめ想定した上で授業に臨むことが大切である。

評価規準〔主②〕〔主③〕の判断基準（例）

「十分満足できる」状況（A）	「おおむね満足できる」状況（B）
主体的に表現の活動に取り組み、主題を生成するために参考となる資料を自ら準備するなどして、独創的な視点から主題を深めようとし、試行錯誤を重ねながら、粘り強く構想を練ろうとしている。	目的や機能、商品の伝えたいイメージなどを主体的に考えながら、構想を練ろうとしている。

⇨

「努力を要する」状況（C）と判断した生徒への手立て
実感を持ちながら表現活動ができるよう、身近な生活の中にあるパッケージデザインを用いて、形や色彩などの効果を意識させたり、鑑賞活動の振り返りをさせたりしながら、実際に新しく商品のパッケージを見せるなどして表現の意図と工夫に気づかせ、表現への意欲を高めるよう個別に指導をする。

（３）芸術科（美術、工芸）における観点別学習状況評価の留意事項

ア）「知識・技能」

「知識」については、すでに評価規準の作成のところで記述したとおり、学習指導要領の〔共通事項〕に示されている。〔共通事項〕は表現や鑑賞の学習に共通に必要となる資質・能力を育成する観点から、新学習指導要領（平成 30 年度告示）において新設された項目であり、生徒が多様な視点から造形を豊かに捉えることができるよう、造形的な視点を豊かにするために必要な知識が示されている。

学習指導要領における「知識」とは、作者の名前、筆や彫刻刀の種類、技法や表現形式を知っているといったことのみならず、「造形的な見方を豊かにする知識のこと」である。したがって、「知識」について評価するにあたっては、単に暗記することに終始するのではなく、美術や工芸の学習の中で、「生きて働く知識」として実感的に理解しているか、その実現状況を評価することが求められる。

「技能」については、材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて自分の表現方法を工夫し、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表している状況を評価するものである。「技能」はこれまで通り、「創造的に表す技能」のことであり、のこぎりの使い方を知るといった性質のものだけではなく、生徒自身が発想や構想したことを創意工夫したり、創造的に表す技能のことである。

イ）「思考・判断・表現」

「美術Ⅰ」の「評価の観点の趣旨」では、「思考・判断・表現」について、「造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。」としている。

すなわち、「思考・判断・表現」では、**「発想や構想に関する資質・能力」**と**「鑑賞に関する資質・能力」**をそれぞれ評価することになる。

「発想や構想」の観点では、自己の内面などを見つめて感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出し創造的な構成を工夫したり、あるいはデザインの分野では、目的や条件などを基に主題を生み出し、分かりやすさや使いやすさ、そして美しさとの調和を考えたりするなどの発想や構想に関する資質・能力を評価することが求められる。また、**「鑑賞」**の観点では、自然や生活の中の造形、美術作品や文化遺産などから、そのよさや美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫、生活や社会の中の美術の働きや美術文化について考えるなどして、見方や感じ方を広げたり深めたりする鑑賞に関する資質・能力を評価することが求められる。

ウ）「主体的に学習に取り組む態度」

「主体的に学習に取り組む態度」とは、題材において設定した「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を身に付けようとしたり、発揮しようとしたりすることへ向かう主体的な学習に対する態度のことである。継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するのではなく、芸術科（美術、工芸）の「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、知識や技能を習得したり、 思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、自己調整しながら粘り強く取り組もうとしているかという観点で評価することが求められる。

妥当性・信頼性の高い評価を行うために重要となるのは、題材ごとに具体化した「評価規準」を適切に設定し、その評価規準に対する「判断基準」を明確にすることである。そのため、実際の評価を行った後で「十分に満足できる」（A）、「おおむね満足できる」（B）、努力を要する状況（C）、それぞれの判断基準に対する典型的な成果物の例と判断基準にあてはめることが困難であった成果物の例について、他の教員と協議したり、時期を変えて改めて見直してみたりするなど、判断基準の改善を図る継続的な取組みが大切となる。

芸術科（書道）における観点別学習状況の評価の進め方について

ここでは、教科「芸術」の科目「書道Ⅰ」を例に、「指導と評価の一体化」を実現するための観点別学習状況評価の進め方について説明する。

1　科目の「評価の観点の趣旨」の作成について

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領に示された教科・科目の目標や内容、「改善等通知」に示された教科の「評価の観点及びその趣旨」に基づき、科目の「評価の観点の趣旨」を設定することにより、その科目の学習を通して育成をめざすべき資質・能力と評価の基本的な枠組みを捉えることが大切である。

以下は、教科の目標と「評価の観点及びその趣旨」との関係性を踏まえた、「書道Ⅰ」の目標に対する「評価の観点の趣旨」の例である。

【「第２款 第 10 書道Ⅰ」の「評価の観点の趣旨」（例）】

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。	書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

※　「知識・技能」は、芸術科（書道）の評価の観点において、「書の表現の方法や形式、書表現の多様性への理解を深める知識」と「効果的・創造的に表す技能」とに整理されていることから、２つに分けて示している。
「思考・判断・表現」は、「Ａ 表現」において育成する構想や表現の工夫に関する資質・能力と、「Ｂ 鑑賞」において育成する鑑賞に関する資質・能力とに整理されているが、構想や表現の工夫と鑑賞の双方に重なる資質・能力の育成を重視していることから、まとめて示している。

2　指導と評価の年間計画（シラバス）について

指導と評価の年間計画（シラバス）の作成にあたっては、１の「書道Ⅰ」の「評価の観点の趣旨」に基づき、題材ごとの評価規準を設定する。指導と評価の年間計画（シラバス）は教材の配列ではなく、年間を通して教科・科目の目標の実現をめざすためのものである。学校教育目標、生徒の発達段階や学習状況を考慮するとともに、季節や学校行事等と教科との関連も見通して、年間の学習内容を計画する必要がある。

※「書道Ⅰ」指導と評価の年間計画（シラバス）＜記入例＞

学期	題材名	学習内容	題材の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
○学期	漢字の書	〔鑑賞〕 ・古典の学習を通して、基本的な点画や線質の表し方、用筆法・運筆法を学ぶ。 ・各古典の表現の違いを理解し、その特徴を時代と人物を通して鑑賞する。 〔表現の構想〕 古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付ける。	a：用具・用材の特徴と表現効果との関わり、書体や書風と用筆・運筆との関わりなどについて、書の創造的活動を通して理解を深めている。（知識） a：古典に基づく基本的な用筆・運筆や、古典の線質、字形や構成を生かした表現など、書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付けている。（技能）	古典観察シート 作品	古典観察シート 相互批評 記録	振り返りシート 作品

基本的には、学習指導要領に示す「２内容」において、**「知識」に関しては、「Ａ 表現」の指導事項イの(ｱ)及び(ｲ)の文末を「～について理解している」とし、「技能」に関しては、指導事項ウの(ｱ)及び(ｲ)の文末を「～をするための技能を身に付け、表している」として評価規準を作成する。**

漢字の書	〔作品の完成〕 古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成を工夫しながら、表現する。	b：古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成、意図に基づいた表現など、書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫している。 c：漢字の書の伝統と文化に豊かに関わり、主体的に表現の創造的活動に取り組もうとしている。	基本的には、学習指導要領に示す「２内容」において、**「Ａ　表現」の指導事項アの(ｱ)から(ｳ)（「漢字の書」及び「仮名の書」では(ｱ)及び(ｲ)）を「書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し、～を工夫している」として評価規準を作成する。**	

基本的には、「改善等通知　別紙5　各教科等の評価の観点及びその趣旨＜書道＞」における「主体的に学習に取り組む態度」をもとに、当該「内容のまとまり」等で育成をめざす**「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の指導事項等を踏まえ、「漢字の書の伝統と文化に豊かに関わり、主体的に表現の創造的活動に取り組もうとしている」として評価規準を作成する。**

※各科目の「１　目標」(3)を参考にし、必要に応じて科目別の「評価の観点の趣旨」のうち「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分を用いて作成する。

＜学習指導要領　芸術科（書道）　科目「書道Ⅰ」　２　内容　Ａ　表現　(2) 漢字の書、〔共通事項〕より＞

Ａ　表現 (2) 漢字の書 漢字の書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ｱ)及び(ｲ)について構想し工夫すること。 (ｱ) 古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成 (ｲ) 意図に基づいた表現 イ　次の(ｱ)及び(ｲ)について理解すること。 (ｱ) 用具・用材の特徴と表現効果との関わり (ｲ) 書体や書風と用筆・運筆との関わり ウ　次の(ｱ)及び(ｲ)の技能を身に付けること。 (ｱ) 古典に基づく基本的な用筆・運筆 (ｲ) 古典の線質、字形や構成を生かした表現
共通事項 (1)　「Ａ　表現」及び「Ｂ　鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解すること。 イ　書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解すること。

３　題材における観点別学習状況の評価の進め方

ここでは、上の「書道Ⅰ」題材名「漢字の書」を取り上げ、芸術科（書道）における観点別学習状況の評価の進め方について紹介する。

（１）題材における指導と評価の計画

ア）科目名：「書道Ⅰ」

イ）題材名：漢字の書［全６時間］

ウ）学習指導要領との関連：内容　Ａ　表現　(2)漢字の書 ア、イ、ウ、　共通事項（1）ア、イ

エ）題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・「漢字の書」における用具・用材の特徴と表現効果との関わり、書体と書風と用筆・運筆との関わりについて、理解している。 ・古典に基づく基本的な用筆・運筆、線質、字形や構成を生かした表現について、作品を効果的に表現するために必要な技能を身に付けている。	・字形の構成や全体の構成について多面的・多角的に考察、構想している。 ・漢字の書における線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて、自らの意図に基づいて表現を構想し、工夫している。	・書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。

オ）指導と評価の計画（全６時間）　　●…形成的評価、○…総括的評価

時	主な学習活動	評価の観点			評価規準・評価方法
		知	思	主	
1 2	・古典の作品を、時代や人物を通して鑑賞し、各古典の表現の違いを理解する。 ・臨書活動 ・古典と臨書作品とを比較し、自己評価する。	● ●	例１ ●	●	〔知①〕（**古典観察シート**） ・字形の構成について、理解している。 〔知②〕（授業観察） ・基本的な用筆・運筆などの技能を身に付けている。 〔思①〕（**古典観察シート**） ・身に付けた知識や技能を表現効果と関連付けて考察している。 〔主①〕（**古典観察シート**・作品） ・字形の構成や全体の構成を工夫して臨書しようとしている。
3 4	・臨書活動 ・古典と臨書作品とを比較し、相互批評する。	●	● 例２	●	〔知③〕（授業観察） ・古典の作品から、その特徴を捉えて表現する技能を身に付けている。 〔思②〕（**相互評価シート**） ・古典と臨書とを比較し、表現できている部分と改善すべき部分について多面的・多角的に考察している。 〔主②〕（**相互評価シート**・作品） ・相互評価をもとに、自分のパフォーマンスを改善し修正しようとしている。
5 6	・臨書活動 ・（鑑賞）臨書作品から感じたことや考えたことを説明し合う	○ ○	○	○ ○	〔知④〕（作品） ・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付けている。 〔知⑤〕（振り返りシート） ・書体と書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 〔思③〕（振り返りシート） ・漢字の書の構築的な構造や変化と統一などを理解し、字形の構成や全体の構成を工夫している。 〔主③〕（授業観察） ・他者と協働し、学びを深めあおうとしている。 〔主④〕（授業観察・振り返りシート） ・自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら、学ぼうとしている。

題材の評価規準を設定したら、題材の指導計画に示された学習過程を考慮しながら、それぞれの評価規準に対して、いつ、どのように評価を行うかを計画する。生徒の学習改善につながる学習評価とするためには、完成した作品のみで評価を行うのではなく、生徒一人ひとりの制作の過程や意図などを細やかに見取る必要がある。そのため、完成作品を学習過程や振り返りにおけるワークシートの記述内容と見比べながら確認することも大切である。

観点別学習状況の評価を進めるにあたっては、学習過程における多様な評価が求められており、ワークシートの工夫、自己評価や相互批評、発問や応答などの言語活動を一層充実した指導と評価が重要となる。

本事例では、第１時～第４時は授業観察や作品、古典観察シートや相互批評記録における生徒の記述などによる形成的評価を行い、生徒一人ひとりの学習状況を把握して、つまずきがあれば支援していくこととした。

■ワークシート等の記録を残す

・記録を残すことで、時間の経緯による自らの作品の変化を確認できる。
・前時で積み残した課題を次時へ引き継ぐことが容易となり、学習の継続性が保たれる。

■相互批評を取り入れる

・相互批評により、自分がその時間の目標や課題を理解しているか確認することができる。
・学習した内容を確認し他者に伝えることにより、学習者自身が自らの学びを確認できる。
・コミュニケーションを取りながら学びを共有できる。

（２）具体的な評価方法（評価課題や判断基準）について

ア）「知識・技能」の評価

書の「知識」や「技能」は、作品を構想し表現を工夫する過程を通した、実感的な理解と習得によって育成されていくものである。完成した作品がより自分の意図した表現に近づいていくためには、知識・技能の習得とともに、それらを生かしながら発想し、構想を練り、作品を制作していくという、それぞれの学習が確実に行われることが重要である。本事例では、「知識・技能」を他の２つの観点と関連付けながら、生徒をしっかりと伸ばしていくことに重点を置き、特に、単元前半の「知識・技能」の評価はあくまで暫定的な評価に留めておくこととした。

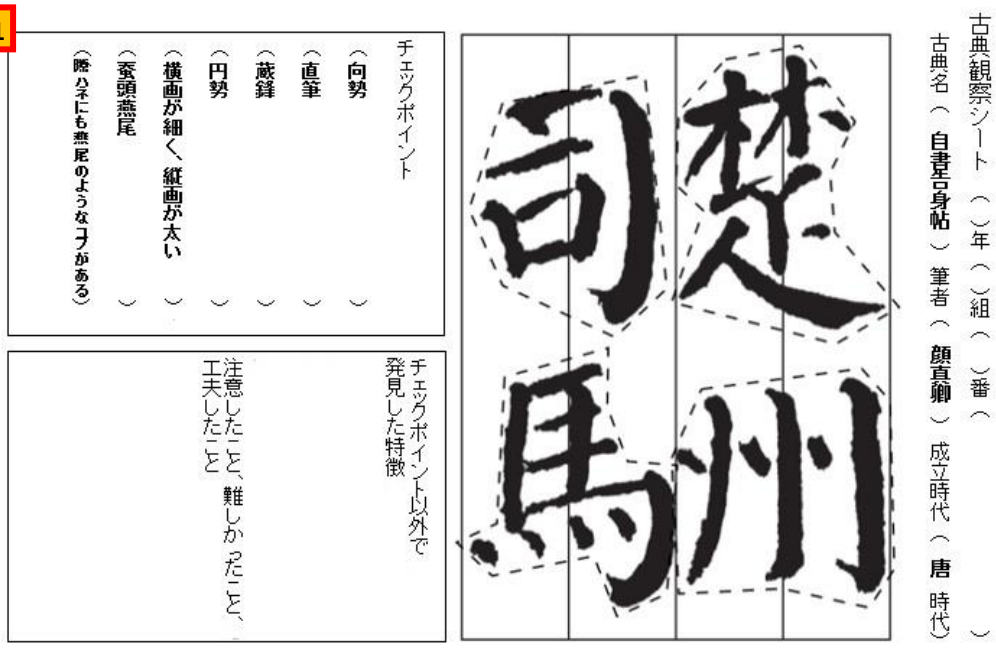
【「知識・技能」評価規準〔知①〕について】

「古典観察シート」の活用例を紹介する。以下のとおり、右側に古典の書、左側の上段に「チェックポイント」、下段に「チェックポイント以外で発見した特徴」と自己評価を記入する欄を設けている。

左上段には、古典の書を鑑賞し、古典の書体や書風、用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて、鑑賞のチェックポイント（視点）を教員が明示して生徒に記入、確認させる。その上で、チェックポイント以外で発見した特徴の欄に、生徒が発見した特徴を書き込ませる。

この活動の後、臨書活動に移り、臨書を終えたら、生徒は中段の「注意したこと、難しかったこと、工夫したこと」の３点について、自分が書いた臨書作品について自己評価を行う。

例１



こうしたワークシートを活用することで、各生徒がどこまで古典の書の特徴が捉えられているかを把握できるとともに〔知①〕、この基本となる視点を生かして、実感的に身に付けた知識や技能を表現効果と関連付けて考察できるように促し〔思①〕、生徒の自己調整力を育てることにもつながる〔主①〕。

「知識・技能」の総括的評価については、単元終了後、以下の評価規準により、完成作品と振り返りシートで行うこととする。なお、「古典観察シート」における記述を、「知識」として総括的評価することも考えられる。

・用具・用材の特徴と表現効果との関わり、書体と書風と用筆・運筆との関わりについて理解しているか。 ・古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成など、書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付けているか。

イ）「思考・判断・表現」の評価

「思考・判断・表現」については、現行の４観点における「書表現の構想と工夫」、「鑑賞の能力」にあたるものと捉えられる。「書表現を構想し工夫すること」「書のよさや美しさを味わって捉えること」に関する観点であり、「知識」や「技能」を生かしながら、発揮されるものである。

第１、２時は、古典の書の鑑賞活動を設定し、作品の価値と根拠について、「知識」や「技能」を生かしながら「書のよさや美しさを味わって」捉えさせ、古典観察シートに取り組ませる。そしてシートの記述や授業中の生徒の発言・様子などから「思考・判断・表現」を形成的に評価する〔思①〕。

第３、４時は実際に、表現の意図に合わせ、書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きを意識して制作をさせる。この場面では、古典の特徴をグループで話し合って発表したり、古典と臨書作品とを比較したり、作品の感想を書いたり、作品集を作ったりするなど、様々な学習課題に展開していくことが考えられる。本事例では、古典と臨書作品を比較する相互批評を行い、両者の違いを思考・判断し表現効果を高めるための改善点を具体的に言葉として表現しているかを見取ることとした。

【「思考・判断・表現」評価規準〔思②〕について】

「相互評価シート」の活用例を紹介する。「相互評価シート」の「気付いたこと」では、班ごとに臨書に対する相互批評を行い、指摘されたことを書き込む。

自己評価やグループのメンバー間の相互評価を通して、自分のパフォーマンスを改善し修正していく機会と時間を保障することで、生徒の自己調整力を育てることにもつながる〔主②〕。また、この欄の生徒の記述から、どのような観点で表現や鑑賞を捉えることができるようになったのか、また、観点の変化や深まりなどを確認することができる〔思②〕。

例２

相互評価シート

① 気付いたこと(グループのメンバーからもらったアドバイス)

(　　)さんから言われたこと
(　　)さんから言われたこと
(　　)さんから言われたこと

「思考・判断・表現」

② 今日の授業で気付いたことや、次回、改善したいこと等

・
・
・

「主体的に学習に取り組む態度」

年　組　番　名前

なお、評価規準〔思②〕〔主②〕における「おおむね満足できる」状況（B）及び「努力を要する」状況（C）とその生徒への手立てについては以下のとおりである。

	「おおむね満足できる」状況(B)	「努力を要する」状況(C) その生徒への手立て
〔思②〕	背勢・向勢について比較し、表現できている部分を指摘したり、次に向けて改善する部分をアドバイスできる。	背勢・向勢に触れられておらず、具体的なアドバイスもできなかったが、選別はできる。 ⇒(手立て)参考とする名筆のよさや美しさを理解し、表現を支える技能を確認して表すように指導する。
〔主②〕	参考とする書のよさに関心をもって、鑑賞の創造的活動に意欲的、主体的に取り組もうとしている。	自分の作品について、優れた点や課題が明確にできず、次回に向けた目標を立てることが難しい。 ⇒(手立て)参考とする古典の特徴を捉え、構想から完成に至ることの大切さを促し、構想の柱を示し確認する。

次に、評価規準〔思②〕において「おおむね満足できる」状況（B）と判断した生徒の具体例を示す。評価規準〔思②〕については、「相互評価シート」の「①気づいたこと」の記述内容から、「思考・判断・表現」の観点で評価を行うこととしている。

右に示すＤさんの相互評価シートの記述から、Ａさん、Ｂさん、Ｃさんは、Ｄさんの臨書作品に対して、線の太細について、古典の線質と比較して違いを思考・判断し、表現効果を高めるための改善点を具体的に言葉にして表現することができていることから、概ね満足できる状況（B）と判断した。

Dさんの 相互評価シート から

① **気付いたこと(グループのメンバーからもらったアドバイス)**

・**Aさん**から言われたこと
細いところは少し細くして、太いところは、太く表現する練習をする

・**Bさん**から言われたこと
蚕頭燕尾のところをもっときれいにするために練習をしよう。

・**Cさん**から言われたこと
「少」の払いをもっと滑らかにする

ウ）「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「主体的に学習に取り組む態度」については独立して評価を行うのではなく、他の２つの観点と関連させて見取っていく。現行の４観点の「書への関心・意欲・態度」に含まれていた意思的な側面に加え、自己調整力に関わる主体的な取組みが加わっており、題材で設定した「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を、生徒が書を表現したり鑑賞したりすることの「楽しさ」や「価値」を実感しながら、主体的に身に付けようとしたり、発揮したりすることへ向かう態度について評価する。

ここでは、第３、４時の「相互評価シート」の記録を用いて、鑑賞の「主体的に学習に取り組む態度」を「思考・判断・表現」と一体的に捉えて評価を行うこととした。表現の「主体的に学習に取り組む態度」については、臨書活動の段階で、よりよい表現をめざして試行錯誤する姿や、知識や技能を身に付けようと継続的に意欲を発揮している姿などを評価する。

ここでは、評価規準〔主②〕において「おおむね満足できる」状況（Ｂ）と判断した生徒の具体例を示す。評価規準〔主②〕については、「相互評価シート」の「②今日の授業で気付いたことや、次回、改善したいこと等」の記述内容から、「主体的に学習に取り組む態度」の観点で評価を行うこととしている。

右に示す相互評価シートの記述において、下線部は主体的に取り組もうとする気持ちの表れであり、継続して学習に取り組もうとする気持ちも表れていることから、Ｄさんは概ね満足できる状況（Ｂ）と判断した。

Dさんの 相互評価シート から

② 今日の授業で気付いたことや、次回、改善したいこと等

今まで考えて、点画を書いたことがなかったけれど、先生のアドバイスで、しっかり書く時に**意識して**書くことができました。**もっと丁寧に**気をつけるところや、ハネでも**細かいところにまで集中して**書けるように努力を重ねていきたいと思います。又、「少」の払いは前回通りもっと集中して上手くいったというように**納得した字**をめざして書いていきたいです。

（３）芸術科（書道）における観点別学習状況評価の留意事項

ア）学習指導要領における指導内容の明確化

学習指導要領に示されている「内容」は「Ａ 表現」、「Ｂ 鑑賞」の２つの領域と〔共通事項〕で構成され、表現領域では「知識」「技能」「思考力、判断力、表現力等」に、鑑賞領域では「知識」「思考力、判断力、表現力等」に分けて指導事項が示されている。このように、従来は一体的に示されていた各事項が３つの柱からなる資質・能力と対応する形で再整理され、指導すべき内容が一層明確になっている。

例えば、「知識」に関する指導内容については、「書の表現の方法や形式、多様性」を理解することなどの具体的な内容が、表現領域の３分野と鑑賞領域ごとに示されている。

「技能」に関する指導内容については、作品を構想し表現を工夫するために必要な技能として、例えば、「漢字仮名交じりの書」においては「目的や用途に即した効果的な表現」の技能、「漢字と仮名の調和した線質による表現」の技能などの具体的な内容が示されている。したがって、「技能」については、「思考力、判断力、表現力等」の育成と関わらせて習得できるようにすることが重要である。

イ）〔共通事項〕における「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係

〔共通事項〕には「Ａ 表現」「Ｂ 鑑賞」の２つの領域の学習において共通に必要となる「知識」に関する資質・能力が位置づけられており、以下のとおり示されている。

ア　用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解すること。
イ　書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解すること。

このように、今回の改訂では、「Ａ表現」、「Ｂ鑑賞」及び〔共通事項〕の指導を通して、生徒が書に関する見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を高め、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わることができるようになることをめざしており、生徒が感性を働かせて感じ取ったことをもとに、思考、判断、表現したり、鑑賞したりする一連の学習過程を大切にすることが重要である。

外国語における観点別学習状況の評価の進め方について

ここでは、教科「外国語」の科目「英語コミュニケーションⅠ」を例に、「指導と評価の一体化」を実現するための観点別学習状況評価の進め方について、説明する。

１．科目の観点及びその趣旨の作成について

「指導と評価の一体化」を図るためには、はじめに学習指導要領に示された教科・科目の目標や内容と合わせて、「改善通知」に示された「教科の評価の観点及びその趣旨」に基づき「科目の評価の観点の趣旨」を設定し、外国語科の学習を通して育成をめざすべき資質・能力と評価の基本的な枠組みを捉えることが大切である。

以下は、教科の目標と「評価の観点及びその趣旨」との関係性を踏まえた、「外国語」の科目の目標に対する「評価の観点の趣旨」の例である。

【「第２款 第１　英語コミュニケーションⅠ」の評価の観点の趣旨（例）】

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

２．指導と評価の年間計画（シラバス）について

指導と評価の計画（シラバス）の作成に当たっては、１.の「外国語」の評価の観点の趣旨に基づき、内容のまとまり又は単元(題材)の評価規準を設定する。指導と評価の計画（シラバス）は教材の配列ではなく、年間を通して教科・科目の目標の実現をめざしていくためのものである。学校教育目標や生徒の発達段階や学習状況を考慮するとともに、季節や学校行事等と教科との関連も見通して年間の学習内容を計画する必要がある。

※「外国語」指導と評価の年間計画（シラバス）　＜記入例＞

学期	課 “題材名”	領域	評価規準 (a:知識・技能 b:思考・判断・表現　c 主体的に学習に取り組む態度)	評価方法
○学期	Lesson ○ “○○○○”	聞くこと	a: 感情を表す表現の意味や働きを理解している。 b: 日常的な話題（話し手の好きなもの等）についての説明を、視覚情報などを参考にしながら理解している。 c: 日常的な話題（話し手の好きなもの等）についての説明を、視覚情報などを参考にしながら理解しようとしている。	定期考査 （リスニング）
	Lesson ○ “○○○○”	読むこと	a: 受動態の意味や働きの理解を基に、英文の概要を読み取る技能を身に付けている。 b: ごく身近な話題（絵画や本、漫画等）について書かれた文章を読んで、概要を捉えている。 c: ごく身近な話題（絵画や本、漫画等）について書かれた文章を読んで、概要を捉えようとしている。	定期考査 （リーディング）

	話すこと（発表）	a: ごく身近な事柄（絵画や本、漫画等）について受動態などを用いて話す技能を身に付けている。 b: ごく身近な事柄（絵画や本、漫画等）について簡単な語句や文を用いて話している。 c: ごく身近な事柄（絵画や本、漫画等）について聞き手を配慮しながら簡単な語句や文を用いて話そうとしている。	スピーキングテスト
	書くこと	a: 不定詞、動名詞の特徴やきまりに関する事項を理解している。 b: 日常的な話題（学校生活や将来の夢等）について、簡単な語句や文を用いて書いている。 c: 日常的な話題（学校生活や将来の夢等）について、簡単な語句や文を用いて書こうとしている。	ライティング課題 定期考査 （ライティング）
	定期考査		

学習指導要領「１　目標」に示される内容のまとまり（五つの領域）別の目標の記述が観点ごとにどのように整理されているかを確認した上で、各課で取り扱う題材、言語の特徴や決まりに関する事項（言語材料）、言語材料において設定するコミュニケーションを行う目的や場面、状況など、また、取り扱う話題などに即して「内容のまとまり（五つの領域）ごとの評価規準」を作成する。

a（知識・技能）の評価規準

「知識」については、学習指導要領「外国語」p.164「２　内容」の〔知識及び技能〕における「(1)英語の特徴やきまりに関する事項」の内容を基に、「【言語材料】の特徴やきまりに関する事項を理解している」と記述することが基本的な形になる。言語材料の種類に応じて「○○の意味や働きを理解している」など適宜置き換えて当てはめる。

「技能」については、「【言語材料】などを活用して【話題】について～する技能を身に付けている」と記述することが基本的な形になる。

b（思考・判断・表現）の評価規準

学習指導要領に示されている「言語の使用場面の例」や「言語の働きの例」を踏まえ、「【話題】について～している」と記述することが基本的な形になる。

c（主体的に学習に取り組む態度）の評価規準

「改善等通知　別紙5 各教科等の評価の観点及びその趣旨<外国語>」における「主体的に学習に取り組む態度」をもとに、当該「内容のまとまり」等で育成をめざす「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の指導事項等を踏まえ、「【話題】について～しようとしている」と記述することが基本的な形になる。

３．単元（題材）における観点別学習状況の評価の進め方

ここでは、「２．指導と評価の年間計画（シラバス）について」で取り上げた「英語コミュニケーションⅠ」における評価事例を示し、外国語科における観点別学習状況の評価の進め方について紹介する。

（１）指導と評価の計画

ア）　科　目　名　：「英語コミュニケーションⅠ」

イ）　課（題材名）　：Lesson ○、“○○○○”

ウ）　領　　域　：「読むこと」「話すこと（発表）」

エ）　評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【読むこと】 受動態等の特徴やきまりに関する事項を理解している。（知識） 【話すこと（発表）】 ごく身近な事柄（絵画や本、漫画等）について受動態などを用いて話す技能を身に付けている。（技能）	【読むこと】 ごく身近な話題（絵画や本、漫画等）について書かれた文章を読んで、概要を捉えている。 【話すこと（発表）】 ごく身近な事柄（絵画や本、漫画等）について簡単な語句や文を用いて話している。	【読むこと】 ごく身近な話題（絵画や本、漫画等）について書かれた文章を読んで、概要を捉えようとしている。 【読むこと（発表）】 ごく身近な事柄（絵画や本、漫画等）について聞き手に配慮しながら簡単な語句や文を用いて話そうとしている。

オ） 指導と評価の計画　　○…総括的評価

時	ねらい（■）、言語活動（丸数字）	評価の観点			備考
		知	思	態	
1 2 3	■教科書本文から必要な情報を読み取り、読み取った内容を伝えあう。 【読むこと】 ①浮世絵の内容に関する英文を読み、説明されている浮世絵を選ぶ。 ②本文を音読する。 ③浮世絵について自分の言葉で説明する。 ④ペアで別々の浮世絵に関する説明文を読み、その内容を伝え合う。				記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見取り指導に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにならないよう十分留意する。
4 5 6	■日常的な話題（絵画や本、漫画等）について、英語を読んで得られた情報を活用しながら自分の考えを話して伝える。 【話すこと（発表）】 ①教員によるオーラルイントロダクションを聞き、読むべきポイントを理解する。（質問の提示） ②本文を読んで内容を理解する。（英語によるＱ＆Ａ） ③本文を音読する。 ④本文のフォーマットを活用し、ペアで絵画や本、漫画等について英語で説明し合う。				
7 8	■受動態の意味や働きとともに、受動態を用いた文に関する英語の特徴やきまりを理解する。 【読むこと、話すこと（発表）】 ①受動態が使われた日常的な話題について書かれた英文を読み、何について書かれているかを理解する。 ②受動態の意味や働き、受動態を用いた文に関する英語の特徴やきまりを理解する。 ③好きな映画や本等について話し合う。				
後日	ペーパーテスト（考査）【読むこと】	○	○	○	「（２）①『読むこと』に関する評価」参照
後日	スピーキングテスト【話すこと（発表）】	○	○	○	「（２）②『話すこと（発表）』に関する評価」参照

（２）具体的な評価方法（評価課題や判断基準）について

① 「読むこと」に関する評価

ア） 知識・技能の評価（ペーパーテスト）

1 あなたは留学先において、日本のものについて写真を見せながら紹介することになり、説明の読み原稿を作成しました。空所に入る語を選びなさい。

> Hello, everyone.　I would like to talk about things people use in Japan.
>
> The first one is this.　This is called (　1　).　It is used when you drink hot tea.　It does not have a handle.　The second one is this.　This is called (　2　).　It is used when you carry things.　Some people use it because it is eco-friendly.　The third one is this.　This is called (　3　).　It is made from soybeans.　It is often used to make miso soup.　A lot of people eat it because it is healthy.　The fourth one is this.　It is called (　4　).　It is known as Japanese chess.　It is played by two people.
>
> If you are interested in Japanese culture, you should try these things.　Thank you for listening.

選択肢　(a) a *furoshiki*　(b) a *yunomi*　(c) *shogi*　(d) *tofu*

考査（ペーパーテスト）で 1 の問題を出題した場合、正答数により、考査における「知識・技能」の評価結果を以下のように行うことが考えられる。

	「知識・技能」の評価結果
４問とも正解だった場合	a
２～３問正解だった場合	b
０～１問正解だった場合	c

イ）思考・判断・表現の評価（ペーパーテスト）

2 アメリカから来た留学生の David が旅行先からあなたに次のようなメールを送りました。
メールを読み、選択肢から最も適切なものを選びなさい。

2021/10/07 Thu. 19:30
David Moore
My Trip to Europe

the sign in Belgium
230 KB

the Euro note
170 KB

Hello. How are you doing?
I am having a great time in Europe. This is my first time to come to Europe and things are very different from the US and Japan.
Three days ago, my father and I got to France. I saw the Eiffel Tower and it was very nice. The next day, we enjoyed art works in the Louvre Museum. The Louvre Museum was very large and my feet were very tired when I left the museum.
Yesterday we left France and came to Belgium. Do you know anything about Belgium? It is located in central Europe. It is surrounded by Germany, France and the Netherlands. In this country, three languages are spoken. People speak Dutch, French and German. English is also used for business. There, I found an interesting sign. Four languages are written on it so that everyone can understand it.
Tomorrow we will leave Belgium and go to Switzerland. We are going to go hiking. When I was in junior high school, my teacher told me people can enjoy beautiful scenery in Switzerland. Therefore I am looking forward to going there.
Oh, I almost forgot to talk about money used in Europe. Euro is used in many countries in Europe. We exchanged money in Osaka right before we left for Europe. At that time my father told me an interesting story about Euro notes. On Euro notes, windows or gates of various styles from ancient times to modern times are printed. And on the back side, bridges are printed in the same way. However, all of them are not real ones. They are not seen anywhere in Europe.
With this email, I am going to send a picture of the sign I saw in Belgium and a picture of the Euro note.
You are in Hokkaido right now. Let me know your experience there!

問１ David wrote this email in [1].

① Belgium ② France ③ Japan ④ Switzerland

問２ 起こった出来事順に並べ替えなさい。（完答）

[2] → [3] → [4] → [5]

① David and his father saw art works in France.
② David heard that scenery in Switzerland is beautiful.
③ David learned about the European notes from his father.
④ David took a picture of a sign in Belgium.

問３ If you reply to David's email, the title of your email will be "[6]".

① My trip to Belgium ② My trip to Hokkaido
③ My trip to Osaka ④ My Trip to the US

考査（ペーパーテスト）で2の問題を出題した場合、正答数により、考査における「思考・判断・表現」の評価結果を以下のように行うことが考えられる。

	「思考・判断・表現」の評価結果
３問とも正解だった場合	a
１～２問正解だった場合	b
０問正解だった場合	c

ウ）主体的に学習に取り組む態度の評価（ペーパーテストの振り返り）

2の問題について以下の質問に回答してください。
質問１　あなたが2の英文を読んだときにつまずいたところや、読む際の工夫等について書いてください。

質問２　今後、読む力をつけるためにどのような学習を行うことが必要だと思いますか。

考査（ペーパーテスト）後、振り返りをさせた場合、振り返りの文章を基に、以下の基準で「主体的に学習に取り組む態度」を評価することが考えられる。

	「主体的に学習に取り組む態度」の評価結果
場面を意識するなど、英文の概要を理解する工夫を十分していた	a
場面を意識するなど、英文の概要を理解する工夫をしていた	b
「b」を満たしていない。	c

※振り返りが困難な生徒に対しては、個別に対話をしながら具体的に振り返るポイントや振り返りで書く文章の構成について助言を与える。

②「話すこと（発表）」に関する評価

以下に、パフォーマンステスト（スピーキングテスト）の例を示す。今回は、生徒１人に担当教員もしくはALTがインタビューを行う形式でテストを実施し、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する方法について示す。

ア　準備するもの

・浮世絵等の絵画や本に関する情報が記載されたカード（各クラス１枚）

（例）

浮世絵に興味を持っているALTに、以下の絵について説明してください。
（20秒間考えたあと、１分間で説明してください。）

作者：葛飾北斎（かつしか　ほくさい）（1760-1849）
絵画名：神奈川沖浪裏（かながわおきなみうら）
描かれているもの：波、３隻の船、富士山
その他：多くの切手に印刷されている。
2024年発行予定の1000円札に印刷される予定。
※ “This is a very famous *ukiyoe* print.”から始めてください。

イ　内容

・生徒がカードを20秒間見た後、１分間でその内容を説明

・生徒自身の好きな本や映画等に関する質疑応答

ウ　評価の規準

以下の評価基準に基づいて評価する。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	受動態等を、目的や場面、状況などに応じて適切に使用しながら話すことできる。	カードの内容、生徒自身の好きな本や映画等の両方について内容を伝えることができる。	カードの内容、生徒自身の好きな本や映画等の両方について聞き手に配慮して話そうとしている。
b	受動態等の使用について一部適切でない部分があるが、コミュニケーションに支障なく話すことができる。	カードの内容、生徒自身の好きな本や映画等のどちらかについて内容を伝えることができる。	カードの内容、生徒自身の好きな本や映画等の両方について話そうとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

エ　教員と生徒の発話例及び評価結果

ア）教員と生徒の発話例　（T: Teacher　S: Student）※挨拶等は除く

T: First, look at the card and think about what to say for 20 seconds.
After that, please explain it to me.
（20 秒後）Please begin.
S: This is a very famous *ukiyoe* print.　It … created by Katsushika Hokusai.
Katsushika Hokusai was born in seventeen ….　Wave、 ship and Mt. Fuji are printed.
This *Ukiyoe* is printed on stamps.　It will … one thousand yen …
T: Thank you.　Now I will ask you some questions about you.
What is your favorite book?
S: I like “Harry Potter”.
T: Can you tell me more about Harry Potter?
S: Harry Potter was write by J.K Rolling.　Harry Potter is my favorite.
It … is … read by many people all over the world.
T: That’s it for today’s speaking test.　You may go now.

イ）採点の結果

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	b	a	a
理由	受動態等の使用に一部適切でない部分があるが、語順等については適切に話している。	カードの内容、生徒自身の好きな本の両方について内容を伝えている。	伝えたいところは強く発音するなど、聞き手を意識して話している。

（３）外国語科における観点別学習状況評価の留意事項

①「話すこと（やり取り）」、「話すこと（発表）」、「書くこと」の評価について

「知識・技能」については「英語使用の適切さ」、「思考・判断・表現」については「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じた表現内容の適切さ」を評価する。「主体的に学習に取り組む態度」については、基本的には「思考・判断・表現」と一体的に評価を行うが、例えば「話すこと（やり取り）」の評価の場面において、適切に表現することができなかったが、表現しようとする態度が見られる場合、「思考・判断・表現」の評価を「c」、「主体的に取り組む態度」の評価を「b」とするなど、異なる評価を行うことも可能である。

② 「聞くこと」「読むこと」の評価について

「知識・技能」については、「話されたり書かれたりしている内容を聞き取ったり読み取ったりできるか」、「思考・判断・表現」については、「話されたり書かれたりしている内容を聞き取ったり読み取ったりしたうえで、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、必要な情報や概要、要点を捉えることができるか」を評価する。「主体的に学習に取り組む態度」については「話すこと（やり取り）」、「話すこと（発表）」、「書くこと」と同様に評価を行う。

家庭科における観点別学習状況の評価の進め方について

ここでは、各学科に共通する教科「家庭」の科目「家庭基礎」を例に、「指導と評価の一体化」を実現するための観点別学習状況評価の進め方について説明する。

1　科目の「評価の観点の趣旨」の作成について

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領に示された教科・科目の目標や内容、「改善等通知」に示された教科の「評価の観点及びその趣旨」に基づき、科目の「評価の観点の趣旨」を設定することにより、その科目の学習を通して育成をめざすべき資質・能力と評価の基本的な枠組みを捉えることが大切である。

以下は、教科の目標と「評価の観点及びその趣旨」との関係性を踏まえた、「家庭基礎」の目標に対する「評価の観点の趣旨」の例である。

【「第２款 第１ 家庭基礎」の「評価の観点の趣旨」(例)】

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

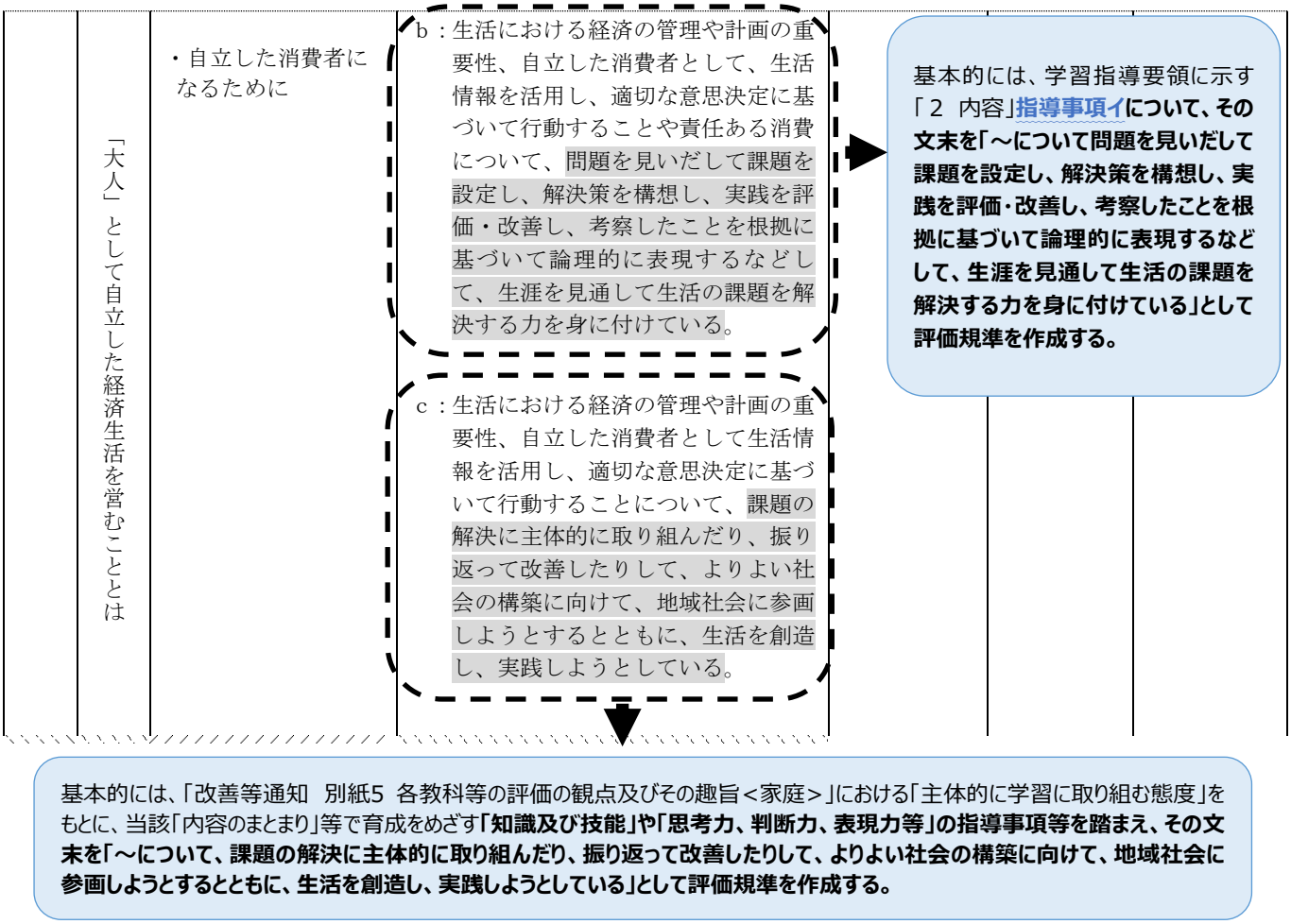
2　指導と評価の年間計画（シラバス）について

指導と評価の年間計画（シラバス）の作成にあたっては、１の「家庭基礎」の「評価の観点の趣旨」に基づき、題材ごとの評価規準を設定する。指導と評価の年間計画（シラバス）は教材の配列ではなく、年間を通して教科・科目の目標の実現をめざすためのものである。学校教育目標、生徒の発達段階や学習状況を考慮するとともに、季節や学校行事等と教科との関連も見通して、年間の学習内容を計画する必要がある。

※「家庭基礎」指導と評価の年間計画（シラバス）＜記入例＞

学期	題材名	学習内容	題材の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
○学期	「大人」として自立した経済生活を営むこととは	・18 歳で大人? ・契約で成り立つ消費生活 ・契約を解除できる条件 ・家計とその特徴、家計管理 ・キャッシュレス決済の仕組み、使い方 ・若者によくある消費者被害	a：家計の構造や生活おける経済と社会との関わり、家計管理、消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定の重要性、消費者保護の仕組みなどについて理解するとともに、生活情報の収集・整理が適切にできる。	ペーパーテスト	ワークシート パフォーマンス課題	授業観察 ワークシート ポートフォリオ

基本的には、学習指導要領に示す「２　内容」**指導事項アに示される「知識」については、その文末を「～について理解している」、「技能」については、その文末を「～を身に付けている(情報の収集・整理ができる)」として評価規準を作成する。**



＜学習指導要領　家庭科　科目「家庭基礎」

２ 内容　Ｃ 持続可能な消費生活・環境　(1) 生活における経済の計画、(2) 消費行動と意思決定より＞

(1) 生活における経済の計画

ア　家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について**理解する**こと。

イ　生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージや社会保障制度などと関連付けて**考察する**こと。

(2) 消費行動と意思決定

ア　消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて**理解する**とともに、生活情報を適切に**収集・整理できる**こと。

イ　自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について**考察し、工夫する**こと。

３　題材における観点別学習状況の評価の進め方

ここでは、上の「家庭基礎」題材名「『大人』として自立した経済生活を営むこととは」を取り上げ、家庭科における観点別学習状況の評価の進め方について紹介する。

（１）題材における指導と評価の計画

ア）科目名：「家庭基礎」

イ）題材名：「大人」として自立した経済生活を営むこととは［全９時間］

ウ）学習指導要領との関連：内容　Ｃ 持続可能な消費生活・環境

(1) 生活における経済の計画 ア、イ　　(2) 消費行動と意思決定 ア、イ

エ）題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
家計の構造や生活おける経済と社会との関わり、家計管理、消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定の重要性、消費者保護の仕組みなどについて理解するとともに、生活情報の収集・整理が適切にできる。	生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について、問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして、生涯を見通して生活の課題を解決する力を身に付けている。	生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活を創造し、実践しようとしている。

オ）指導と評価の計画（全９時間）　　●…形成的評価、○…総括的評価

時	主な学習活動	評価の観点			評価規準・評価方法
		知	思	主	
1	成年年齢引下げに伴う生活事象の変化を総合的に捉え、学習の見通しをもつ。		●		〔思①〕（ワークシート、観察） ・生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として、適切な意思決定に基づき行動することなどについて、問題を見いだして課題を設定している。
	【題材を貫く課題】 **成人として、健康・快適・安全かつ持続可能な自立した消費生活を営むためには、何をどのようにできるようになればよいのだろうか。**				
2	若者に多い契約トラブル事例を基に、契約とは何か、また消費者保護の仕組みについて理解する。	○ ○		● **例３**	〔知①〕（ペーパーテスト） ・契約するときの注意点、契約における未成年と成年の法律上の責任の違い、消費者保護の仕組みについて理解している。 〔知②〕（ペーパーテスト） ・クーリング・オフ制度の他、契約がキャンセルできる場合を理解している。 〔主①〕（**振り返りシート**、観察） ・自らの消費行動における意思決定や契約の重要性について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
3 4	給与明細を教材にして、社会人の収入と支出（家計管理）について理解し、ライフステージと関連付けた経済計画を考える。 **＊1 カ月の家計シミュレーション**	○	●	●	〔知③〕（ペーパーテスト） ・給料の仕組み、家計の構造（可処分所得、非消費支出）、家計管理の基本（収支バランスの重要性、リスク管理）について理解している。 〔思②〕（ワークシート、観察） ・ライフステージの特徴や課題を踏まえ、生涯を見通した経済の管理や計画の重要性について、問題を見いだして課題を設定するとともに、課題解決に向けて考え、工夫している。 〔主②〕（振り返りシート、観察） ・生涯を見通した経済の管理や計画の重要性について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
5 6	キャッシュレス決済の特徴やクレジットカードの仕組みなど、多様な契約について理解し、計画性のある使い方・合理的な使い方を考える。 **＊ロールプレイング**	○	●	●	〔知④〕（ペーパーテスト） ・電子マネーやクレジットカードなど多様な契約の支払いの仕組みや利用方法を理解している。 〔思③〕（ワークシート、観察） ・キャッシュレス化の進行による家計管理や計画の重要性について、問題を見いだして課題を設定するとともに、解決策を考え工夫している。 〔主③〕（振り返りシート、観察） ・キャッシュレス化の進行による家計管理や計画の重要性について、課題解決に主体的に取り組み、解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。

7 8	個人で、若者に多い消費者トラブルや相談事例について、インターネットから情報を収集し、その対応策を考える。 グループで、若者に多い消費者トラブルや相談事例に対して、解決策や未然防止策を考える。 **＊事例研究**	○	●	●	〔知⑤〕（ペーパーテスト） ・財やサービスに関する正確な情報、被害防止策について、国民生活センターや消費生活センターの Web サイトから情報を適切に収集・整理できる。 〔思④〕（ワークシート、観察） ・自立した消費者としての消費行動や意思決定について問題を見いだして課題を設定するとともに、解決策を考え工夫している。 〔主④〕（**振り返りシート**、観察） ・消費行動における意思決定や契約の重要性について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。
9	個人で、消費者トラブルの問題解決に取り組む。また、自立した消費者になるための行動目標を立てる。		○ **例１**	○ **例２**	〔思⑤〕（**家庭基礎レポート　＊パフォーマンス課題**） ・自立した消費者としての消費行動や意思決定についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。 〔主⑤〕（**家庭基礎レポート**） ・自立した消費者をめざして消費者の権利と責任や消費者問題に関心を持ち、自らの消費生活や消費行動、意思決定について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や地域の生活を創造し、実践しようとしている。

※「知識・技能」の総括的評価は、ペーパーテストとして、ある程度の内容のまとまりについて実施する。

題材の評価規準を設定したら、題材の指導計画に示された学習過程を考慮しながら、それぞれの評価規準に対して、いつ、どのように評価を行うかを計画する。生徒全員について、毎時間「ワークシートの記述」を確認し記録を残すような評価の在り方は多大な時間を要し現実的には困難である。本事例では、日々の授業の中では、生徒の学習状況を把握して指導に生かすこと（形成的評価）に重点を置きつつ、評価の記録（総括的評価）については、基本的に題材のまとまりにおいて、それぞれの評価規準の実現状況が把握できる段階で効率的・効果的に評価を行う計画としている。

（２）具体的な評価方法（評価課題や判断基準）について

ア）「思考・判断・表現」の評価

本事例は、第１時に「題材を貫く課題」を設定して、本題材を学習する動機付けを行い、見通しをもたせた上で、各自の課題解決に向けて「１カ月の家計シミュレーション」「キャッシュレス決済のロールプレイング」「若者に多い様々な消費者問題（事例研究）」の３つの学習課題を設定して、問題解決の学習過程のステップを丁寧に押さえ、生徒が自分事として考え続けながら学習し、「主体的・対話的で深い学び」が実現されるような構成となっている。

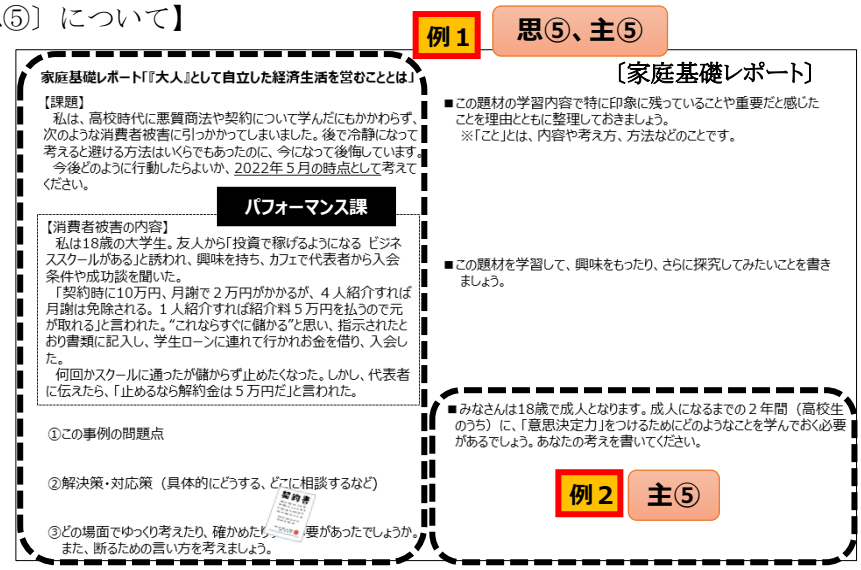
「思考・判断・表現」については、これら一連の学習過程を繰り返す中で、内容 Ｃの(1)「生活における経済の計画」や (2)「消費行動と意思決定」について、①問題を見いだして課題を設定しているか、②様々な解決方法を検討し、計画、立案しているか、③実践を評価・改善しているか、④考察したことを根拠に基づいて論理的に表現しているかなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けているかを評価することになる。

この観点で評価する資質・能力は短期的に伸びるものではなく、時間をかけて伸びていくものであるため、題材前半の評価規準〔思①〕～〔思④〕については形成的評価としている。３つの学習課題に取り組む学習活動の中で、行動観察やワークシートの記述内容から主に「努力を要する」状況と判断される生徒を把握して、生徒全員が思考を深めていく授業の流れを大切にしながら、学びを進展・改善させたり、学習の方法をつかませたりするなどの手立てを講じ指導に生かす。その上で、題材のまとめとして第９時にパフォーマンス課題（**例１**）を設定し、評価規準〔思⑤〕で総括的な評価を行っている。

【「思考・判断・表現」評価規準〔思⑤〕について】

パフォーマンス課題を生徒に提示する際には、「授業で学んだ知識を使うこと」「自分の考えも述べること」「具体例を挙げること」といった簡単な規準を示している。

生徒Aは、これまでに学習してきた契約の重要性や消費者保護の仕組みなどに関する「知識・技能」を生かして、被害状況や問題点について原理・原則に基づき客観的・批判的に分析し、トラブルの特徴を捉えている。自分の被害を消費生活センターに相談し、同様の被害を防ごうとする記述からは、消費者市民としての行動が読み取れる。また、様々な問題点と関連付けながら解決策・対応策や断るための言い方を具体的に考察して、根拠や理由を明確にし、筋道を立てて表現していることから、「十分満足できる」状況（A）と判断した。



生徒 A＜「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒の具体的な例＞

①この事例の問題点

もう 18 歳になっているので、未成年者取消権で守られていない。なのに、友人の誘いに乗り、高収入につられてカフェに行ってしまった。安易に書類に記入し、ローンを組み借金してまでして入会してしまっている。４人紹介すれば月謝が免除され、一人紹介すれば紹介料がもらえて元が取れると言っているけど、友だちを誘うとこれからの人間関係を壊す恐れがある。楽に稼げるとかたくさんの収入を稼げると言いながら、先に 10 万円の支払いを要求している部分には、おかしさを感じる。メリットのみを聞かされているけど、そんなにうまい話はないと思う。

②解決策・対応策（具体的にどうする、どこに相談するなど）

被害にあってしまっているので、すぐに近くの消費生活センターに行って、解約できないか相談する。自分が行動することで、同じような被害が広がることを防ぐことにつながるから、絶対に泣き寝入りしない。

被害にあう前に、知らされていないデメリットがないかどうか考えて、わからないことがあるときは理解できるまで確認する。おかしいと感じたら、すぐに返事をせず、信頼できる大人（親や先生など）に相談したり、消費生活センターなどに相談して、ビジネススクールの情報や評判を確認したらよかった。

③どの場面でゆっくり考えたり、確かめたりする必要があったでしょうか。また、断るための言い方を考えましょう。

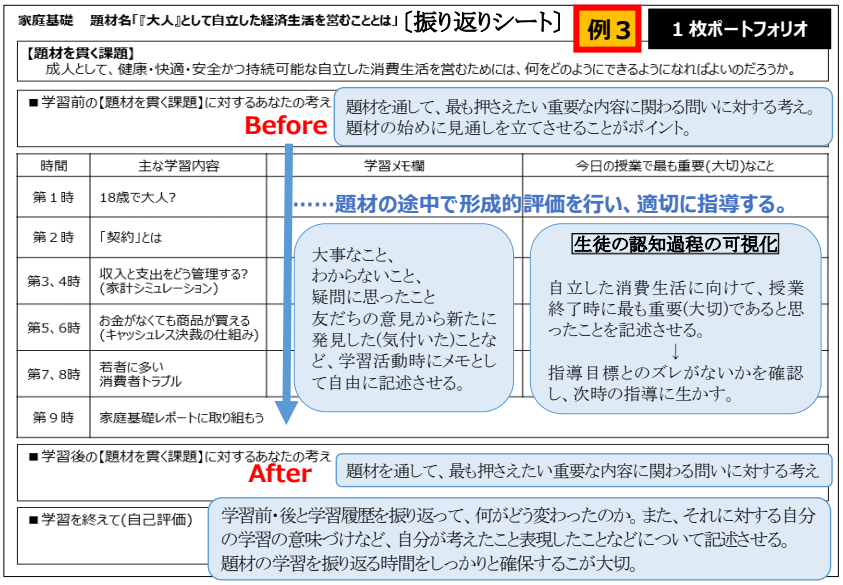
友だちから誘われたとき、「怪しいから、やめとくわ。」「ちょっと考えさせて」とか、「投資とかようわからんし、ややこしそうやからやめとくわ。ごめんな。」と、私はしないということをはっきりと伝えて断る。

イ）「主体的に学習に取り組む態度」の評価

家庭科の「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、「①粘り強さ（知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組みを行おうとする側面）」、「②自らの学習の調整（①の粘り強い取組みを行う中で、自らの学習を調整しようとする側面）」に加え、「③実践しようとする態度」を含めて評価することが重要である。

評価規準〔主①〕～〔主④〕については、行動観察や「振り返りシート（１枚ポートフォリオ）」（例３）により、生徒の学習状況を継続的に確認して形成的に評価するとともに、題材後や学年末に総括的評価を行う際の参考資料としている。

【題材を貫く課題】は、題材を通して最も押さえたい内容（「生活の営みに係る見方・考え方」が参考となる）を問いの形で示している。学習前・後に【題材を貫く課題】に対する生徒の考えを記入させることで、当該の学習内容に関する知識及び技能や生活を捉える視点がどのように変容したのかなど、生徒の理解や思考の質の深まり、広がりを確認することができる。



「学習メモ欄」と「今日の授業で最も重要（大切）なこと」の記述内容からは、成人として自立した消費者になることを自分事として意識し、主体的に粘り強く取り組もうとしているか、家計シミュレーションやキャッシュレス決済のロールプレイ、消費者被害の事例研究の場面でうまくできなかったことを振り返って改善しようとしているかなど、自らの学習を調整しようとしているかを確認する。

「①粘り強さ」と「②自らの学習の調整」の学びの姿は、相互に関わり合いながら立ち現れることに留意し、授業のまとめとして振り返る活動や主体的・協働的な学びの中で自らの学習を自己調整する機会を題材全体の学習活動の中に位置付けることで、①と②の２つの側面に継続的に働きかけ、「自ら学び、自ら考える力」を育成していくことが大切である。

評価規準〔主⑤〕について、「①粘り強さ」や「②自らの学習の調整」の側面は、第９時に行った「パフォーマンス課題」（**例１**）の記述内容から「思考・判断・表現」と一体的に評価する。また、「③実践しようとする態度」の側面については、家庭基礎レポートに設けた「問い」（**例２**）の記述内容を分析し、①～③を合わせて題材の総括的評価とする。

【「主体的に学習に取り組む態度」評価規準〔主⑤〕「③実践しようとする態度」の側面について】

第９時、家庭基礎レポートの問い（**例２**）の記述分析例を紹介する。

生徒Ｂは、題材を通して学んだことの中から自分が身に付けておきたい知識や考え方などに触れ、これからの生活に生かしていきたいことを考え記述していることから、「おおむね満足できる」状況（Ｂ）と判断した。また、生徒Ｃは、意思決定力を身に付けた自立した消費者になるために、自分の日常生活を掘り下げて捉え、実践できることを具体的に考え記述していることから、「十分満足できる」状況（Ａ）と判断した。

「おおむね満足できる」状況（B）と判断した生徒の具体的な例	**生徒Ｂ** 「もっと法律やお金の仕組みについて勉強しておく。生活情報を集めて、いろいろな中から選択し、活用できるように情報を見極める力をつける。自分で判断する力を付けたい。」
「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒の具体的な例	**生徒Ｃ** 「友だちなどに誘われたりお願いされたりした時に、したくなかったり嫌やと思うことはきちんと断ることが大切だと思った。友だちとどっか行く時とかみんなで考えたりする時、自分の意見をもってそれを伝えるようにしていこうと思う。」

（３）家庭科における観点別学習状況評価の留意事項

ア）問題解決のプロセスを踏まえた指導と評価の充実

実生活との関連を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れて、家庭科で育成をめざす３つの資質・能力をバランスよく育むことが大切である。そのためには、生活の課題発見→解決方法の検討・計画→課題解決に向けた実践活動→評価・改善という一連の学習活動の中で、家庭生活や地域の生活の中で活用できる知識及び技能の習得、生涯を見通して生活の課題を解決する力や生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を評価する場面を、頻度を精選しながら位置付けることが重要である。

イ）「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

「主体的に学習に取り組む態度」の観点については、本事例のように、題材を学習するにあたっての見通しを立てる場面や学習してきたことをしっかりと振り返る場面を設定し、適切に指導した上で、前述のとおり、「①粘り強さ」「②自らの学習の調整」「③実践しようとする態度」の３つの側面から評価することが重要である。「自らの学習の調整」は新たに入った考え方であるが、自己の学習プロセスに能動的に関与し方向付ける重要な要素である。「一連の活動を振り返って評価・改善しようとしているか」という視点から、その姿を積極的に評価し、生徒の自己調整力を高めていくことが求められる。

また、教員や他の生徒による評価を伝えることが、生徒にとって自らの学びの過程を捉える上で力強いサポートとなりうる。優れた部分や成長の見られた部分、改善が必要な部分に気付かせることが大切であるため、生徒が互いの学びの過程を評価し合う相互評価なども効果的に取り入れていただきたい。

情報科における観点別学習状況の評価の進め方について

ここでは、各学科に共通する教科「情報」の科目「情報Ⅰ」を例に、「指導と評価の一体化」を実現するための観点別学習状況評価の進め方について説明する。

1　科目の「評価の観点の趣旨」の作成について

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領に示された教科・科目の目標や内容、「改善等通知」に示された教科の「評価の観点及びその趣旨」に基づき、科目の「評価の観点の趣旨」を設定することにより、その科目の学習を通して育成をめざすべき資質・能力と評価の基本的な枠組みを捉えることが大切である。

以下は、教科の目標と「評価の観点及びその趣旨」との関係性を踏まえた、「情報Ⅰ」の目標に対する「評価の観点の趣旨」の例である。

【「第２款 第１ 情報Ⅰ」の「評価の観点の趣旨」(例)】

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報科の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見･解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

2　指導と評価の年間計画（シラバス）について

指導と評価の年間計画（シラバス）の作成にあたっては、１の「情報Ⅰ」の「評価の観点の趣旨」に基づき、単元ごとの評価規準を設定する。指導と評価の年間計画（シラバス）は教材の配列ではなく、年間を通して教科・科目の目標の実現をめざすためのものである。学校教育目標、生徒の発達段階や学習状況を考慮するとともに、学習内容や学習時期などについて、公民科や数学科をはじめ他教科との連携を図りながら、年間の学習内容を計画する必要がある。

※「情報Ⅰ」指導と評価の年間計画（シラバス）＜記入例＞

学期	単元（題材）	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
○学期	コミュニケーションと情報デザイン	・情報のデジタル化 ・コミュニケーション手段の特徴 ・コミュニケーションツールの特徴 ・情報デザインの役割 ・情報の抽象、可視化、構造化 ・情報伝達の方法 ・情報デザインの考え方を活かしたコミュニケーション	a：メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴、情報デザインが人や社会に果たしている役割について理解している。また、効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を理解し、表現する技能を身に付けている。 b：メディアとコミュニケーション手段の関係を科学的に捉え、それらを目的や状況に応じて適切に選択しており、コミュニケーションの目的を明確にして、適切かつ効果的な情報デザインを考えることができる。さらに、効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法に基づいて表現し、評価し改善することができる。	ペーパーテスト	ワークシート パフォーマンス課題	授業観察 ワークシート 振り返り

基本的には、学習指導要領に示す「２内容」**指導事項アに示される「知識」については、その文末を「～について理解している」、「技能」については、その文末を「～を身に付けている」として評価規準を作成する。**

基本的には、学習指導要領に示す「２内容」**指導事項イについて、その文末を「～している」「～することができる」として評価規準を作成する。**

		・コンテンツ制作の過程 ・コンテンツの評価、改善	c：コミュニケーションと情報デザインについて、情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養おうとしている。			

基本的には、「改善等通知　別紙5　各教科等の評価の観点及びその趣旨＜情報＞」における「主体的に学習に取り組む態度」をもとに、当該「内容のまとまり」等で育成をめざす**「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の指導事項等を踏まえ、その文末を「～しようとしている」として評価規準を作成する。**

＜学習指導要領　情報科　科目「情報Ⅰ」　２　内容　(2) コミュニケーションと情報デザイン＞

(2) コミュニケーションと情報デザイン

メディアとコミュニケーション手段及び情報デザインに着目し、目的や状況に応じて受け手に分かりやすく情報を伝える活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

(ｱ) メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴について、その変遷も踏まえて科学的に理解すること。

(ｲ) 情報デザインが人や社会に果たしている役割を理解すること。

(ｳ) 効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を理解し表現する技能を身に付けること。

イ　次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ｱ) メディアとコミュニケーション手段の関係を科学的に捉え、それらを目的や状況に応じて適切に選択すること。

(ｲ) コミュニケーションの目的を明確にして、適切かつ効果的な情報デザインを考えること。

(ｳ) 効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法に基づいて表現し、評価し改善すること。

３　単元（題材）における観点別学習状況の評価の進め方

ここでは、上の「情報Ⅰ」単元名「コミュニケーションと情報デザイン」を取り上げ、情報科における観点別学習状況の評価の進め方について紹介する。

（１）単元（題材）における指導と評価の計画

ア）科目名：「情報Ⅰ」

イ）単元名：コミュニケーションと情報デザイン［全 18 時間］

ウ）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴について、その変遷も踏まえて科学的に理解している。 ・情報デザインが人や社会に果たしている役割を理解している。 ・効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を理解し表現する技能を身に付けている。	・メディアとコミュニケーション手段の関係を科学的に捉え、それらを目的や状況に応じて適切に選択している。 ・コミュニケーションの目的を明確にして、適切かつ効果的な情報デザインを考えている。 ・効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法に基づいて表現し、評価し改善している。	・情報デザインが人や社会に果たしている役割を理解し、情報社会に主体的に参画しようとしている。 ・コミュニケーションの目的を明確にして、適切かつ効果的な情報デザインを考えようとしている。 ・情報デザインの考え方に基づいて効果的なコミュニケーションを行おうとしている。 ・情報デザインの考え方に基づいてコミュニケーションを改善しようとしている。

エ）指導と評価の計画（全 18 時間）　　●…形成的評価、○…総括的評価

時	主な学習活動	評価の観点			評価規準・評価方法
		知	思	主	
1	情報伝達手段の変遷と社会の変化 ・メディアの特性 ・同期・非同期/1対1、1対多 ・個人による情報発信の可能性と課題	●	○	●	〔知①〕（確認テスト） ・メディアの特性について理解している。 〔思①〕（振り返りシート） ・個人の情報発信により社会を変えることの可能性を考えている。 〔主①〕（行動観察） ・情報発信者として個人が直面している課題を考えようとしている。

2	問題の発見 問題の解決① 「制作する Web サイト」のテーマを考える ・ブレーンストーミング(発想法) ・問題の解決	●	○	●	〔知②〕(振り返りシート) ・発想法について理解している。 〔思②〕(振り返りシート) ・ウェブサイトを作ることで解決できる身近な問題に気づいている。 〔主②〕(行動観察) ・問題の解決に向かって、主体的に学習に取り組もうとしている。
3 4	問題の解決② ・現状分析と課題解決に向けての情報収集と分析 ・課題への問題提起、解決に向けての情報収集 ・設定したテーマでの Web サイト制作		●	●	〔思③〕(振り返りシート) ・問題解決に必要な情報を収集し、分析することができる。 ・解決すべき問題が何か、その解決法を判断し、決めることができる。 〔主③〕(行動観察) ・問題の解決に向かって、主体的に学習に取り組もうとしている。
5 6	Web 制作に必要なツールの確認 ・画像の種類、静止画、レイヤー ・画像編集とロゴ、地図の制作	●	●		〔知③〕(確認テスト) ・情報のデジタル化の仕組みを理解している。 ・レイヤーの概念を理解している。 〔思④〕(制作物・振り返りシート) ・地図の制作を通して、初めて見た人でもわかりやすいデザインの工夫を行っている。
7 8	Web 制作に必要なツールの確認 ・HTML と CSS ・保存時の文字コード(テキストエディタ)	●	●		〔知④〕(制作物) ・HTML と CSS の基本的文法を理解している。 〔思⑤〕(制作物) ・HTML と CSS の役割(関係)を理解している。 ・指定された条件に基づき、Web サイトのコードを記述することができる。
9 10	動画制作に必要なツールの確認 ・静止画と動画の関係 ・ファイルの圧縮方法 ・簡易な動画編集	● 例1	●		〔知⑤〕(制作物、**確認テスト**) ・静止画と動画の関係について理解している。 ・ファイルの圧縮方法について理解している。 ・動画編集の方法を理解している 〔思⑥〕(振り返りシート) ・情報の受け手に与える効果を考えた動画編集ができる。
11 12	Web 制作の課題提示 要件定義 デザインの立案 ・ラフスケッチ ・プロトタイプ ・ユニバーサルデザイン	●	○		〔知⑥〕(ワークシート) ・情報の構造化について理解している。 〔思⑦〕(企画書・ラフスケッチ、制作物) ・提示された要件定義や作成したラフスケッチに基づき、サイトのデザインを表現することができる。 ・ユニバーサルデザインをふまえた Web デザインが表現できる。
13 14 15	Web サイト制作		○	○	〔思⑨〕(企画書・制作物) ・前の時間までに企画したデザインを基に、表現することができる。 〔主④〕(振り返りシート) ・著作権等を考慮した作品制作に取り組もうとしている。
16 17	相互評価、改善 ・相互評価 ・完成に向けて修正(改善)		○	○ 例3	〔思⑩〕(作品・振り返りシート) ・現時点の生徒同士の相互評価をふまえて、作品を改善している。 ・相互の意見を素直に受け入れることができる。 〔主⑤〕(**振り返りシート**) ・これまでの進捗を踏まえて、自分の学びを改善しようとしている。
18	相互評価(最終) 振り返り 確認テスト	○ 例2	○ ○	○ ○	〔知⑦・思⑪〕(**確認テスト　＊パフォーマンス課題**) ・HTML と CSS の基本的文法を理解している。 ・HTML と CSS の役割(関係)を理解している。 ・指定された条件に基づき、Web サイトのコードを記述することができる。 〔思⑫・主⑥〕(振り返りシート) ・著作権のことを、他の人の権利と相手の権利を尊重しようとしている。 〔主⑦〕(振り返りシート) ・これまでの学びを振り返ろうとしている。

※「知識・技能」の総括的評価は、第 18 時の確認テストで内容のまとまりについて実施する。

本単元においては、情報の構造と関係性を適切に表現したデザインを選んだ上で、Web 制作ができるようになり、制作後も評価改善に取り組むことができるようになることをねらいとしている。

第１～４時で問題の発見、制作する Web の対象の設定、情報の収集と分析を行い、第５～10 時では Web 制作に取り組むために必要な知識・技能について、その原理を説明できるようにする。そして、第 11～18 時では実際に Web 制作を行った後、相互評価等による制作物の改善を行い、振り返りを行う計画とした。

（２）具体的な評価方法（評価課題や判断基準）について

ア）「知識・技能」の評価

「知識・技能」については、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図りつつ、多様な評価方法を取り入れていくことが重要である。

【「知識・技能」評価規準〔知⑤〕について】

ここでは、第９、10 時の評価規準〔知⑤〕について、第 18 時の確認テストで問う課題を紹介する。この課題は、第５、６時で学習した「知識・技能」の内容がベースとなっており、「データ量の単位を理解し、画像のデジタル化と動画のデジタル化の関係について、問題で示された数値を基に必要なデータ量を求められるか」を評価する。また、「概念理解を問う」問題として、(2)では単に計算式を書くだけではなく、解答とともに説明することを求めている。

例１

【静止画・動画とデータ量の関係の問題】

解像度が 1920×1080 の 24 ビットフルカラーの画像がある。

(1) この画像のデータ量は何 MB になるか求めよ（ただし、1GB＝1024MB、1MB＝1024KB、1KB＝1024 バイトとし、小数点以下第２位で四捨五入せよ）。

(2) (1)で求めたデータ量の画像を１フレームとして、30fps で１分間の動画を作成すると、データは何 GB になるか求めよ。その際、途中の式を、単位を付けて記せ。

(3) (2)で作成したデータを市販の DVD ディスク（4.7GB）に記録して再生できるようにしたい。その際、ファイルサイズを小さくするためにはどのような工夫が可能か説明せよ。なお、必ず「量子化」「ビット」「フレームレート」の言葉を用いること。

以下は、「おおむね満足できる」状況（B）、「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒の解答例である。

「おおむね満足できる」状況（B）と判断した生徒の解答例		
(1) 1920×1080×３＝6220800 6220800÷1024÷1024＝ 5.9326… 四捨五入して 5.9MB	(2) 5.9×30×60÷1024 ＝ 10.371… 四捨五入して 10.4GB	(3) サイズを減らすには、数字を減らせばいい。

(1)では正しい数値が求められており、(2)でも正しい数値が導き出されているが、静止画と動画のデータ量の関係について、計算式でしか述べられていない。また、(3)の説明は指定した条件を満たさず不十分であるため、「おおむね満足できる」状況（B）と判断した。

「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒の解答例		
(1) 1920×1080×３ ＝ 6220800 （24 ビット＝３バイト） 6220800÷1024÷1024 ＝ 5.9326… 四捨五入して 5.9MB	(2) １秒間の動画のデータ量は 5.9MB×30(フレームレート)＝177MB １分間の動画のデータ量は 177MB×60（秒）＝10620MB 1GB ＝1024MB だから 10620MB÷1024 ＝10.371… 四捨五入して 10.4GB	(3) データサイズを減らすためには、フレームレートを下げることで、動画の鮮明さが荒くなるが可能だ。また、色の量子化を８ビットから減らすことで色の表わせる種類が減るものの、データ量を減らすことも可能であり、これらを両方同時にすることによっても可能。

(1)では正しい数値が求められ、(2)でも静止画と動画の関係について十分に述べられている。また、(3)の記述からも十分に理解していることがわかるため、「十分満足できる」状況（A）と判断した。

イ）「思考・判断・表現」の評価

「思考・判断・表現」を評価するにあたっては、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、生徒が思考・判断・表現する場面を効果的に設定し、指導・評価することが求められる。具体的な評価方法としては、論述やレポートの作成、発表、グループでの話合い、作品の制作や表現等の多様な活動の導入や、単元や内容のまとまりにおいて、現実的で真実味のある場面を設定し、生徒が自分事として取り組むことができる課題を行い、それに対する活動のプロセスや成果物を評価するなどの工夫が求められる。

【「知識・技能」及び「思考・判断・表現」　評価規準〔知⑦〕〔思⑪〕について】

ここでは、第 18 時の評価規準〔知⑦〕〔思⑪〕の評価例を紹介する。この単元で学んだ「知識・技能」を確認するため、以下に示す「パフォーマンス課題」（第７、８時で取り組んだ課題を生徒自身が一人で取り組めるか）を設定し取り組ませることにより、「知識・技能」に加えて、その取組みの過程や結果で発揮される「思考・判断・表現」もあわせて捉え評価する。

例２

目的：第７・８時で取り組んだ以下のことを理解しているかの課題を出題する。また、課題の中で CSS の設定により、「情報の構造化」を意識したコンテンツ配置がなされているかを問う。

〔知④〕（制作物）HTML と CSS の基本的文法を理解している。

〔思⑤〕（制作物）HTML と CSS の役割（関係）を理解している。

（制作物）指定された条件に基づき、Web サイトのコードを記述することができる。

■フォルダ名「museum」内に、以下のテキストファイルと画像ファイルがあるとき、次の設問(1)～(3)に答えよ。

設問(1)　フォルダ内の文章（museum.txt）を、Web ブラウザで表示させるため、html を用いてマークアップし、ファイル名「museum.html」で保存せよ。その上で、見本（省略）の通りのレイアウトで表示させるために、layout.css を作成せよ」

※評価規準〔知④〕の内容をベースに、文書構造を記述する HTML と文章のレイアウトや装飾など見ためを指定するための言語である CSS の役割を理解しているかを問う。

設問(2)　新たにフォルダ「city」を作成し、設問(1)で加工したフォルダ「museum」を入れよ。その上で、フォルダ「museum」を３つコピーし、各フォルダ内のファイルを指定のファイル名に書き換えよ。その上で、各フォルダ内に新たに CSS ファイル(color_museum.css, color_theater.css, color_park.css, color_zoo.css)を作成し、見本（省略）の通り、各 html ファイルのヘッダーなどを指定の色とレイアウトに変更せよ。

※評価規準〔思⑤〕の内容をベースに、CSS は「セレクタ」「プロパティ」「値」の３つで構成されていることを理解し、HTML 文書の特定の箇所を指定して色や大きさを変え、表示位置を指定することができることを問う。

設問(3)　設問(2)で作成した Web サイトを PC 用サイトとスマートフォン用サイトで運用したい。この時、PC サイト用 CSS(PC.css)とスマートフォンサイト用 CSS(smartphone.css)、２つの CSS ファイルで表示を切り替えるとき、それぞれのコードを記せ。なお、切り替える幅は 500 ピクセルとする。

※評価規準〔思⑤〕の内容をベースに、Web サイト（複数の Web ページ）において、レスポンシブルデザイン（１つの HTML ファイルを複数の CSS を用いて、PC 用とスマートフォン用に切り替える）の CSS を問う。

上記の課題に対して、以下の判断基準で評価する。

	「十分満足できる」状況（A）と判断する生徒の具体的な例	「おおむね満足できる」状況（B）と判断する生徒の具体的な例
設問(1)	・HTML と CSS の基本的文法を理解し、いずれのコードも正しく記述している。	・HTML と CSS の基本的文法を理解し、いずれかのコードが正しく記述している。
設問(2)	・CSS の「セレクタ」「プロパティ」「値」を、HTML と CSS の関係を理解し、全ての CSS ファイルのコードを正しく記述している。	・CSS の「セレクタ」「プロパティ」「値」を、HTML と CSS の関係を理解し、CSS ファイルのコードを記述している。
設問(3)	・PC 用サイト、スマートフォン用サイト、いずれの CSS ファイルも、指定された条件でコードを記述している。	・PC 用サイト、スマートフォン用サイト、いずれかの CSS ファイルを、指定された条件でコードを記述している。

以下は、「努力を要する」状況（C）と判断する生徒への手立てへの方策である。

「努力を要する」状況（C）と判断する生徒への手立てへの方策
「静止画のデータ量は縦の画素数と横の画素数と１枚の量子化ビット数で定められていること」、「動画は複数枚の静止画の連続で成り立っていること」、「静止画１枚のことをフレームといい、１秒あたりのフレームの数をフレームレートということ」、といった学習活動で学んだ知識が身に付いていないことが理由で、この問題を理解できず設問に答えられないのではと考えられる。したがって、個別に基礎的な内容から指導を行うなどの支援が必要である。正答が導けない生徒に対しては、この段階で復習させ、支援をすることが大切である。

ウ）「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「主体的に学習に取り組む態度」の評価に際しては、単に継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するのではなく、情報科の「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、知識や技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかという意思的な側面を評価することが重要である。そのため、生徒が課題解決の過程を振り返り、既習の内容を関連付けたり、これからの学習を見通したりする学習活動を設定していく必要がある。

【「主体的に学習に取り組む態度」評価規準〔主⑤〕について】 **例３**

ここでは、第 16、17 時の評価規準〔主⑤〕の評価例を紹介する。制作された他の生徒の作品（WEB ページ）を見て気づいたことをまとめるとともに、その気づきを自身の作品の改善に生かすことができているかを「振り返りシート」に記述させる。評価は「グループ内の他の人の作品を見て気づいたことを書きましょう。また、自分の作品の改善に生かせると感じた点を書きましょう。」の記述内容より行う。

右に示す生徒Ａは、相互評価を受けて改善すべき点があることに気が付いていることから、「おおむね満足できる」状況（Ｂ）と判断した。

生徒Ｂは、相互評価を受けて、自分の改善すべき点を、これまで学んできたことと照らし合わせて、課題を解決しようとする姿勢が伺えることから、「十分満足できる」状況（Ａ）と判断した。

「おおむね満足できる」状況（B）と判断した生徒Ａの記述例	友達のページと比べて気がついたのは、リンク先のクリックボタンの色が見えづらかったことだ。他の人にも操作しやすいように改善したい。
「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒Ｂの記述例	他の人の課題を見ていると、自分ができているところもあったが、できていないところに気付いた。特に、ボタンに用いた色や大きさが、一部の人にとって使いにくいものになっていた。また、「alt」属性の入力し忘れもあった。授業で学んだ Web アクセシビリティの考え方を再確認して、これらを修正して完成を迎えたい。

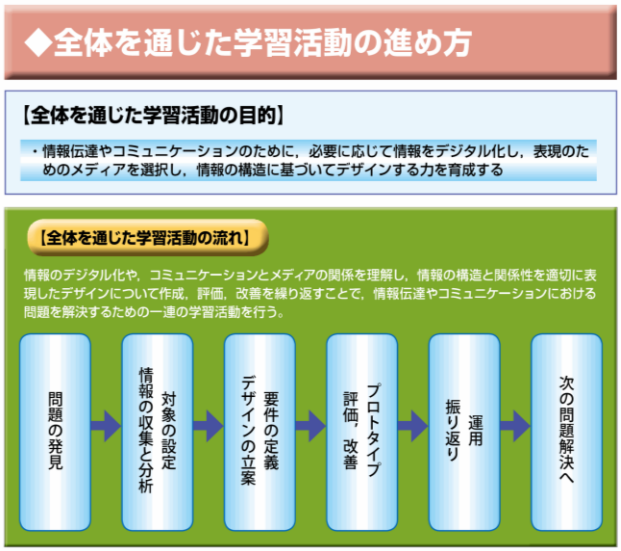
以下は、「努力を要する」状況（Ｃ）と判断する生徒への手立てについてである。

「努力を要する」状況（Ｃ）と判断する生徒への手立て
まず、生徒にこれまでに学んだこと、取り組んだことを、ノートや過去のワークシートなどを見返し確認するよう促す。その上で、生徒の「理解できていたこと」と「理解できていなかったこと」、「なぜ、それができなかったのか」について生徒自身に気付かせることが大切である。中には、自分でその気付きに至らないこともある。その際は教員がこれまでの生徒の状況（形成的評価）を確認しながら、生徒とともに振り返ることも大切である。

（３）情報科における観点別学習状況評価の留意事項

情報科の学習活動は、「情報と情報技術を活用して問題を発見し、問題解決に向けた探究を行う」過程を通して行われることが前提となっている。学習指導要領解説の各単元（内容の取扱い）には、「単元全体にわたる学習活動」の事例が示されている。例えば、「コミュニケーションと情報デザイン」の単元では、「情報と情報技術を活用して問題を発見し、その解決に向けて適切かつ効果的なメディアやコミュニケーション手段を選択し、情報デザインの考え方や方法に基づいてコンテンツを設計、制作、実行、評価、改善するなどの一連の過程に取り組むこと」が挙げられている。

右に示した「全体を通じた学習活動の進め方」にあるとおり、作成、評価、改善を繰り返すなどの「一連の学習活動」に取り組む中で、生徒が単元全体の学習活動に必要な知識・技能を身に付けるとともに、思考力、判断力、表現力等が養われ、主体的に学習に取り組む態度が涵養される必要がある。



【参考】 高等学校情報科「情報Ⅰ」教員研修用教材より
（他の単元においても同様の図がある）

農業科における観点別学習状況の評価の進め方について

ここでは、教科「農業」の科目「農業と環境」を例に、「指導と評価の一体化」を実現するための観点別学習状況評価の進め方について説明する。

１．科目の観点及びその趣旨の作成について

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領に示された教科・科目の目標や内容、「改善等通知」に示された教科の「評価の観点及びその趣旨」に基づき、科目の「評価の観点の趣旨」を設定することにより、その科目の学習を通して育成をめざすべき資質・能力と評価の基本的な枠組みを捉えることが大切である。

以下は、教科の目標と「評価の観点及びその趣旨」との関係性を踏まえた、「農業と環境」の目標に対する「評価の観点の趣旨」の例である。

【「第２款 第１ 農業と環境」の評価の観点の趣旨（例）】

観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	農業と環境について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

２．指導と評価の年間計画（シラバス）について

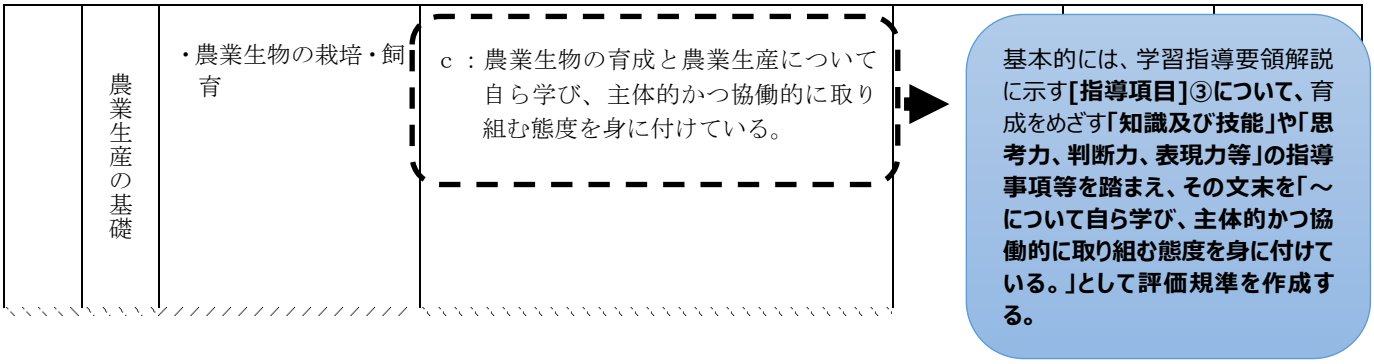
指導と評価の計画（シラバス）の作成に当たっては、１の「農業と環境」の「評価の観点の趣旨」に基づき、題材ごとの評価規準を設定する。指導と評価の計画（シラバス）は教材の配列ではなく、年間を通して教科・科目の目標の実現をめざすためのものである。学校教育目標、生徒の発達段階や学習状況を考慮するとともに、季節や学校行事等と教科との関連も見通して、年間の学習内容を計画する必要がある。

※「農業と環境」指導と評価の年間計画（シラバス）　＜記入例＞

学期	単元（題材）名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知（a）	思（b）	主（c）
○学期	農業生産の基礎	・農業生物の種類と特性 ・農業生物の育成と環境要素 ・農業生産の計画と工程管理・評価	a：農業生物の育成と農業生産について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 b：農業生物の育成と農業生産に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	ペーパーテスト	ワークシート パフォーマンス課題	授業観察 ワークシート ポートフォリオ

基本的には、学習指導要領解説に示す**[指導項目]①について、「知識」についてはその文末を「～について理解している」、「技術」についてはその文末を「～を身に付けている」として、評価規準を作成する。**

基本的には、学習指導要領解説に示す**[指導項目]②について、その文末を「～に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。」として、評価規準を作成する。**



＜学習指導要領　農業科・同解説　科目「農業と環境」　２内容　（３）農業生産の基礎より＞

〔指導項目〕

(3) 農業生産の基礎

ア　農業生物の種類と特性

イ　農業生物の育成と環境要素

ウ　農業生産の計画と工程管理・評価

エ　農業生物の栽培・飼育

ここでは、プロジェクト学習を通して、農業生産に関する基礎的な知識と技術について理解し、農業生産ができるようにすることをねらいとしている。

このねらいを実現するため、次の①から③までの事項を身に付けることができるよう、〔指導項目〕を指導する。

①　農業生物の育成と農業生産について理解するとともに、関連する技術を身に付けること。

②　農業生物の育成と農業生産に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決すること。

③　農業生物の育成と農業生産について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むこと。

３．題材における観点別学習状況の評価の進め方

ここでは、上の「農業と環境」題材名「農業生産の基礎」（秋冬野菜の栽培）を取り上げ、農業科における観点別学習状況の評価の進め方について紹介する。

（１）単元（題材）における指導と評価の計画

ア）　科目名：「農業と環境」（４単位）

イ）　題材名：「農業生産の基礎」（秋冬野菜の栽培）［全 24 時間：10 月下旬～12 月上旬を想定］

ウ）　学習指導要領との関連：　内容（指導項目）（３）農業生産の基礎

ウ　農業生産の計画と工程管理・評価、エ　農業生物の栽培・飼育

エ）　題材の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
農業生物の育成と農業生産について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	農業生物の育成と農業生産に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	農業生物の育成と農業生産について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

オ） 指導と評価の計画（全 24 時間）　　●…形成的評価、○…総括的評価

時	主な学習活動	評価の観点			評価規準・評価方法
		知	思	主	
1 2	・２学期前半で学習したダイコン、ハクサイ等の秋冬野菜の種類と特性を踏まえ、今後の生育管理について学ぶ。 ・生育と環境要素の変化を総合的に捉え、学習の見通しをもつ。	●	●		〔知①〕　（ワークシート） ・ダイコン、ハクサイ等の病害虫防除や生育障害対策について、理解している。 〔思①〕　（ワークシート、観察） ・既習の栽培管理の留意点を踏まえ、今後の課題について検討する。
3 4	**【実習】** ・ダイコン、ハクサイ等の栽培管理について学ぶ。 ・ホウレンソウ、シュンギク等の播種について学ぶ。	●		○	〔知②〕　（実習シート、観察） ・２学期前半で学習した栽培管理の留意点を踏まえ、栽培管理に係る技術を身に付けている。 〔主①〕　（実習シート、観察） ・秋冬野菜の栽培管理等について、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
5 6	・ホウレンソウとシュンギクの種類と特性及び今後の生育管理について学ぶ。 ・秋冬野菜の収穫や品質保持について学ぶ。	○			〔知③〕　（ワークシート・ペーパーテスト） ・ホウレンソウとシュンギクの種類と特性、病害虫防除、生育障害対策について、理解している。 ・２学期に取り扱った冬野菜の収穫や品質保持について理解している。
7 8	**【実習】** ・秋冬野菜の生育段階に応じた栽培管理について学ぶ。	●		○	〔知④〕　（実習シート、観察） ・生育段階に応じた栽培管理に係る技術を身に付けている。 〔主②〕　（実習シート、観察） ・秋冬野菜の栽培管理等について、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
9 10	・秋冬野菜の生産と消費の動向、栽培管理等について調べ学習を行い、班ごとに課題テーマを設定するとともに、解決の根拠となる情報を収集し、分析を行う。 **（プロジェクト課題の設定・計画）**		●	●	〔思②〕　（ワークシート） ・秋冬野菜の生産と消費の動向、栽培管理等に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。 〔主③〕　（ポートフォリオ） ・秋冬野菜の生産と消費の動向、栽培管理等について、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
11 12	**【実習】** ・秋冬野菜の収穫や品質保持に係る技術について学ぶ。 ・生産計画の作成、管理の手順、調査と観察、記録と分析の方法、まとめと評価の方法について、基礎的な内容を取り上げる。	○		○	〔知⑤〕　（実習シート、観察） ・秋冬野菜の収穫や品質保持に係る技術を身に付けている。 〔主④〕　（実習シート、観察） ・生産計画の作成、管理の手順、調査と観察、記録と分析の方法、まとめと評価の方法について、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
13 14	・秋冬野菜の生産と消費の動向、栽培管理等について、班ごとに設定した課題テーマについて、検討し解決策についてまとめる。 **（プロジェクト課題の実施）**		●	●	〔思③〕　（ワークシート） ・秋冬野菜の生産と消費の動向、栽培管理等に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。 〔主⑤〕　（ポートフォリオ） ・秋冬野菜の生産と消費の動向、栽培管理等について、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
15 16	**【実習】** ・秋冬野菜の収穫や品質保持に係る技術について学ぶ。	●		○	〔知⑥〕　（実習シート、観察） ・秋冬野菜の収穫や品質保持に係る技術を身に付けている。 〔主⑥〕　（実習シート、観察） ・生産計画の作成、管理の手順、調査と観察、記録と分析の方法、まとめと評価の方法について、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
17 18	・秋冬野菜の生産と消費の動向、栽培管理等について、班ごとに設定した課題テーマについて、検討し解決策についてまとめる。 **（プロジェクト課題の実施・評価）**		○	○	〔思④〕　（プロジェクトシート） ・秋冬野菜の生産と消費の動向、栽培管理等に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。 〔主⑦〕　（プロジェクトシート） ・秋冬野菜の生産と消費の動向、栽培管理等について、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

19 20	**【実習】** ・秋冬野菜の収穫や品質保持に係る技術について学ぶ。	●		○	〔知⑦〕　（実習シート、観察） ・秋冬野菜の収穫や品質保持に係る技術を身に付けている。 〔主⑧〕　（実習シート、観察） ・生産計画の作成、管理の手順、調査と観察、記録と分析の方法、まとめと評価の方法について、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
21 22	・秋冬野菜の加工技術について学ぶ。 ・秋冬野菜の加工と利用、品質と安全性について考察する学習活動を取り入れる。		○		〔思⑤〕　（ワークシート） ・秋冬野菜の加工と利用、品質と安全性について、課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。
23 24	**【実習】** ・秋冬野菜の保存や加工技術について学ぶ。	○		○	〔知⑧〕　（実習シート、観察） ・秋冬野菜の保存や加工に係る技術を身に付けている。 〔主⑨〕　（実習シート、観察） ・秋冬野菜の保存や加工に係る技術について、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

※「知識・技術」の総括的評価は、ペーパーテスト及び実技テスト・観察により、ある程度の内容のまとまりについて実施する。

題材の評価規準を設定したら、題材の指導計画に示された学習過程を考慮しながら、それぞれの評価規準に対して、いつ、どのように評価を行うかを計画する。生徒全員について、毎時間「ワークシート」や「実習シート」の記述を確認し、記録を残すような評価の在り方は、多大な時間を要し現実的には困難である。

日々の授業の中では、生徒の学習状況を把握して指導に生かすこと（形成的評価）に重点を置きつつ、評価の記録（総括的評価）については、基本的に題材のまとまりごとにそれぞれの評価規準の実現状況が把握できる段階で効率的・効果的に評価を行っていくことが必要である。

なお、本事例のように、実習を取り入れていく学習活動においては、定期的に「主体的に学習に取り組む態度」等について、観察等により評価していくことは重要である。

（２）具体的な評価方法（評価課題や判断基準）について

ア）「知識・技術」の評価

秋冬野菜の各品目について、成長の仕組みや栽培と環境の相互関係等を理解しているとともに、その種類や特性を踏まえ、栽培技術を身に付けているかを見取ることが大切である。また、取り扱う題材を相互に関連させることで理解を深めるとともに、各科目において、農業生産工程管理（ＧＡＰ）や起業、六次産業化、ブランド化について取り扱うことを踏まえ、各科目の題材についての横断的な理解を問うことが必要である。「技術」については、各品目の栽培管理を継続して行っていく中で身についていくものであることから、栽培管理の過程を中心に評価していく。

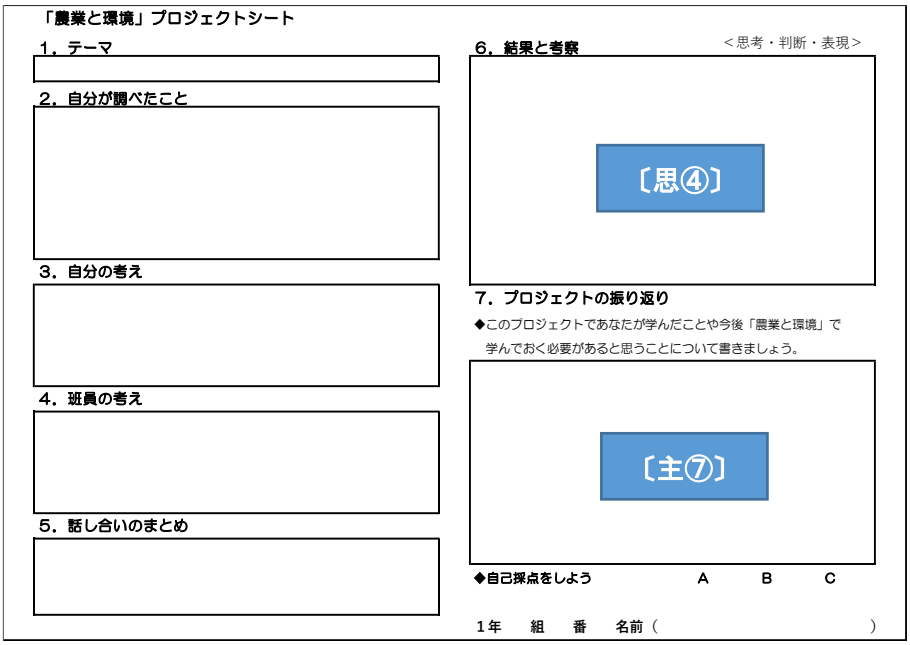
イ）「思考・判断・表現」の評価

本事例では、２学期後半（10 月下旬～12 月上旬）の授業を想定し、２学期前半で取り扱った秋冬野菜の播種・植え付け及び種類・特性に係る内容を踏まえ、今後の生育管理について見通しをもたせた上で、生育段階に応じた栽培管理、収穫、品質保持、加工・利用、品質・安全性について実習を組み合わせながら学習する。加えて、秋冬野菜の生産と消費の動向、栽培管理等について、班ごとに設定した課題テーマについて検討し、解決策についてまとめるプロジェクト学習に取り組むことで、生徒が自分事として考え続けながら学習し、「主体的・対話的で深い学び」が実現されるような構成となっている。

思考・判断・表現の評価は、特にプロジェクト学習において、秋冬野菜の生産と消費の動向、栽培管理等について、ａ）問題を見いだして課題を設定しているか、ｂ）様々な解決方法を検討し、計画、立

案しているか、c）実践を評価・改善しているか、d）考察したことを根拠に基づいて科学的・論理的に表現しているかなど、創造的に課題を解決する力を身に付けているかを評価することになる。

この観点で評価する資質・能力は、短期的に伸びるものではなく、時間をかけて伸びていくものであるため、前半の評価規準〔思①〕～〔思③〕については形成的な評価としている。プロジェクト学習活動の中で、行動観察やワークシートの記述内容から主に「努力を要する」状況と判断される生徒を把握して、生徒全員が思考を深めていく授業の流れを大切にしながら、学びを進展・改善させたり、学習の方法をつかませたりする等の手立てを講じ指導に生かす。その上で、プロジェクト学習のまとめとして評価規準〔思④〕で総括的な評価を行っている。


「農業と環境」プロジェクトシート

1．テーマ

2．自分が調べたこと

3．自分の考え

4．班員の考え

5．話し合いのまとめ

6．結果と考察　＜思考・判断・表現＞

〔思④〕

7．プロジェクトの振り返り

◆このプロジェクトであなたが学んだことや今後「農業と環境」で学んでおく必要があると思うことについて書きましょう。

〔主⑦〕

◆自己採点をしよう　A　B　C

1年　組　番　名前（　　）

【「思考・判断・表現」評価規準〔思④〕について】

上記プロジェクトシート「6．結果と考察」における記述分析例を紹介する。ここでは「ダイコンの全国の栽培品種」について調査した班の生徒による記述を想定している。

「おおむね満足できる」状況（B）と判断した生徒の記述例	生徒D 各地に根付いた地方品種が多くあるが、一代雑種の青首ダイコンは、病気抵抗力やス入りの課題を改良できたので市場での主流になったのだと思う。
「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒の記述例	生徒E 各地に根付いた地方品種が多くあるが、一代雑種の青首ダイコンは、病気抵抗力やス入りの課題を改良できたので市場での主流になったのだと思う。市場で流通するには、食感や味も大事だが、栽培のしやすさの方が重要と思った。

この班では、全国に数多くある地方品種について、その種類と特性を調べたうえで、現在、主流となっている品種の特性と比較した。その中で、生徒Dは、一代雑種の青首ダイコンが主流となった理由について、病気抵抗力やス入りの課題を改良したことと考え、記述していることから「おおむね満足できる」状況（B）と判断した。

生徒Eは、生徒Dが記述した内容に加え、主流となった理由についてさらに踏み込んで考えたことを記述していることから「十分満足できる」状況（A）と判断した。

なお、主流となった理由について、調べたら分かること（「知識・技術」）とも考えられるが、学年と内容によっては、班で検討し生徒が考えた結果として「思考・判断・表現」の観点で評価して差し支えない。

【プロジェクト学習について】

プロジェクト学習について、基礎的な科目である「農業と環境」では導入的な取り扱いをすることから、より具体的な統一テーマを示すとともに、取り組みやすい調べ学習を組み合わせるなどの工夫が必要である。本事例では、テーマを「秋冬野菜の生産と消費の動向、栽培管理等について」とし、そのテーマの中から生徒が自由に課題を設定することとした。課題の設定の際には、品種と地域（気候）との関連や地域別の生産量、大阪での栽培種・生産量等、様々な切り口で検証するよう助言することが考えられる。

なお、評価についてはプロジェクトシートや観察等により、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」について行う。

【パフォーマンス課題について】

本プロジェクト学習後に、例えば「ある年のハクサイ生産に係る収入が大幅に減少した。その原因として考えられることと対応策についてあなたの考えを書きなさい。」といった課題を出すことが考えられる。その際、「授業で学んだ知識を使うこと」「自分の考えも述べること」「具体例を挙げること」といった簡単な規準を示すことが必要である。

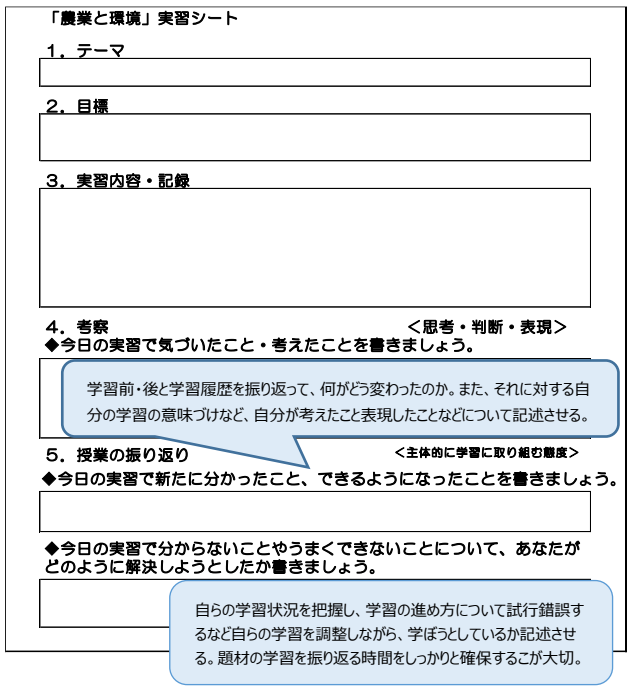
［評価のポイント］

収入が減少する理由として、育苗期における降雨量や病害虫の発生による生産量の減少、暖冬での生産増による市場価格の低下等が考えられる。それらについて、授業で学んだ知識を使いながら、科学的な根拠に基づいて創造的に解決できるよう解答できているかがポイントとなる。これを生徒が解答するにあたり、「知識・技術」に関連する力も必要となるが、それらや本プロジェクト学習での学びを組み合わせ、解決方法を導き出す力を「思考・判断・表現」の観点で測ることとしている。

なお、定期考査（小テスト）に加え、夏・春休み等に課すホームプロジェクト等において、専攻や学年に応じた課題を出していくことが大切である。

イ）「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「主体的に学習に取り組む態度」の評価に際しては、単に継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するということではなく、農業科の「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、知識及び技能を習得したり、 思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが重要である。


「農業と環境」実習シート

1．テーマ

2．目標

3．実習内容・記録

4．考察　＜思考・判断・表現＞

◆今日の実習で気づいたこと・考えたことを書きましょう。

学習前・後と学習履歴を振り返って、何がどう変わったのか。また、それに対する自分の学習の意味づけなど、自分が考えたこと表現したことなどについて記述させる。

5．授業の振り返り　＜主体的に学習に取り組む態度＞

◆今日の実習で新たに分かったこと、できるようになったことを書きましょう。

◆今日の実習で分からないことやうまくできないことについて、あなたがどのように解決しようとしたか書きましょう。

自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているか記述させる。題材の学習を振り返る時間をしっかりと確保するこが大切。

（３）農業科における観点別学習状況評価の留意事項

ア）プロジェクト学習を踏まえた指導と評価の充実

各科目に位置付けられているプロジェクト学習を効果的に取り入れて、農業科で育成をめざす３つの資質・能力をバランスよく育む。課題発見→解決方法の検討・計画→計画の実施→評価・改善という一連の学習活動の中で、農業の各分野に関連する技術の習得、課題を合理的かつ創造的に解決する力や農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を評価する場面や頻度を精選し位置付けることが重要である。

イ）「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

「主体的に学習に取り組む態度」は、他の２つの観点と同様、指導した上で評価することが重要である。見通しを立てる場面、しっかりと振り返る場面を設定し、適切に指導した上でこの観点を評価する。また、実験・実習の場面において、生徒の学習に取り組む態度をしっかり観察し、教員や他の生徒による評価を伝えることが、生徒にとって自らの学びの過程を捉える上で力強いサポートとなりうる。優れた部分、成長の見られた部分、改善が必要な部分に気付かせることや、生徒が互いの学びの過程を評価し合う相互評価などを効果的に取り入れたい。

工業科における観点別学習状況の評価の進め方について

ここでは、教科「工業」の科目「工業技術基礎」を例に、「指導と評価の一体化」を実現するための観点別学習状況評価の進め方について、説明する。

１．科目の観点及びその趣旨の作成について

「指導と評価の一体化」を図るためには、はじめに学習指導要領に示された教科・科目の目標や内容と合わせて、「改善通知」に示された「教科の評価の観点及びその趣旨」に基づき「科目の評価の観点の趣旨」を設定し、工業科の学習を通して育成をめざすべき資質・能力と評価の基本的な枠組みを捉えることが大切である。

以下は、教科の目標と「評価の観点及びその趣旨」との関係性を踏まえた、「工業技術基礎」の科目の目標に対する「評価の観点の趣旨」の例である。

【「第２章 第１節 工業技術基礎」の評価の観点の趣旨（例）】

観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	工業技術について工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	工業技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の発展に対応し解決する力を身に付けている。。	工業技術に関する広い視野をもつことをめざして自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

２．指導と評価の年間計画（シラバス）について

指導と評価の計画（シラバス）の作成に当たっては、１.の「工業技術基礎」の評価の観点の趣旨に基づき、内容のまとまり又は単元(題材)の評価規準を設定する。指導と評価の計画（シラバス）は教材の配列ではなく、年間を通して教科・科目の目標の実現をめざしていくためのものである。学校教育目標や生徒の発達段階や学習状況を考慮するとともに、季節や学校行事等と教科との関連も見通して年間の学習内容を計画する必要がある。

※「工業技術基礎」指導と評価の年間計画（シラバス）　＜記入例＞

学期	単元(題材)名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
○学期	直流・交流回路の実験	・直流回路の基礎について理解する。 ・直流回路に流れる電流・電圧の測定を行う。 ・オームの法則を調べる実験を行う。 ・交流回路の基礎について理解する。 ・交流回路に流れる電流・電圧の測定を行う。 ・オームの法則を調べる実験を行う。	a：相互に関連する実験や実習内容を取り上げるよう留意し、工業の各分野に関する要素を総合的に理解している。 b：日常生活に関わる身近な製品の製作例を取り上げ、工業技術への問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして、工具や器具を用いた加工及び機械や装置類を活用した加工を身に付けている。アについては、塑性加工など、形態を変化させる加工を身に付けている。イについては、化学変化など、材料の質を変化させる加工を身に付けている。	ペーパーテスト	ワークシート パフォーマンス課題	ワークシート 振り返りシート ポートフォリオ

基本的には、学習指導要領に示す**「知識」についてはその文末を「～について理解している」、「技術」についてはその文末を「～を身に付けている」として、評価規準を作成する。**

基本的には、学習指導要領に示す「内容の範囲や程度」**について、その文末を「～について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして、課題を解決する力を身に付けている」として、評価規準を作成する。**

	／プリント配線について学ぼう	・プリント基板の製作方法について理解する。 ・感光基板による方法を用いてプリント基板を製作する。 ・はんだ付けについて理解する。 ・プリント基板に電子部品のはんだ付けを行い、スピーカを完成させる。	c：生産の仕組みについて自ら学び、工業の発展を図ることに主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			

基本的には、学習指導要領解説に示す**[指導項目]③について、育成をめざす「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の指導事項等を踏まえ、その文末を「～について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。」として評価規準を作成する。**

＜学習指導要領　工業科　科目「工業技術基礎」　２内容　(2)加工技術、(3)生産の仕組み＞

（内容を取り扱う際の配慮事項）

ア　〔指導項目〕の（1）のアについては、産業社会、職業生活、産業技術に関する調査や見学を通して、働くことの社会的意義や役割、工業技術と人間との関わり及び工業技術が日本の発展に果たした役割について理解できるよう工夫して指導すること。イについては、安全な製品の製作や構造物の設計・施工、法令遵守など、工業における技術者に求められる職業人としての倫理観や使命と責任について理解できるよう工夫して指導すること。

イ　〔指導項目〕の（2）及び（3）については、相互に関連する実験や実習内容を取り上げるよう留意し、工業の各分野に関する要素を総合的に理解できるよう工夫して指導すること。

（内容の範囲や程度）

ア　〔指導項目〕の（1）のアについては、工業の各分野に関連する職業資格及び知的財産権についても扱うこと。ウについては、環境に配慮した工業技術について、身近な事例を通して、その意義や必要性を扱うこと。

イ　〔指導項目〕の（2）については、日常生活に関わる身近な製品の製作例を取り上げ、工業技術への興味・関心を高めさせるとともに、工具や器具を用いた加工及び機械や装置類を活用した加工を扱うこと。アについては、塑性加工など、形態を変化させる加工を扱うこと。イについては、化学変化など、材料の質を変化させる加工を扱うこと。

ウ　〔指導項目〕の（3）のアについては、工業製品の製作を通して、生産に関する技術を扱うこと。イについては、工業製品の製作を通して、生産に関わる材料の分析及び測定技術を扱うこと。

３．単元（題材）における観点別学習状況の評価の進め方

ここでは、上の「工業技術基礎」単元（題材）名「直流・交流回路の実験」の評価事例を示し、工業科における観点別学習状況の評価の進め方について紹介する。

（１）単元（題材）における指導と評価の計画

ア）　科　目　名　：「工業技術基礎」

イ）　単元(題材)名：直流・交流回路の実験（回路計・オシロスコープの取り扱いかた）［全６時間］
プリント配線について学ぼう（増幅器を内蔵したスピーカの製作）［全６時間］

ウ）　学習指導要領との関連：内容（2)加工技術、(3)生産の仕組み

エ）　単元（題材）の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
加工技術について工具や器具の扱い方及び機械や装置類の活	材料の形態や質が変化することに着目して、加工技術に関する	加工技術、生産の仕組みについて自ら学び、工業の発展を図るこ

用、生産の仕組みについて工業製品の製作を踏まえて理解するとともに、工業に携わる者として必要な基礎的な技術を身に付けている。	課題、生産に関する技術と生産の過程における材料の分析や製作途中での測定に着目して、生産の仕組みに関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善できる。	とに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

オ）　指導と評価の計画（全６時間）　　●…形成的評価、○…総括的評価

時	主な学習活動	評価の観点			評価規準・評価方法
		知	思	主	
1	直流回路の基礎について理解する。	●			［知①］　（ペーパーテスト） ・直流回路における電圧、電流、抵抗の関係について理解し、回路図を読み取り、合成抵抗値を求めることができる。 ・回路計の取り扱いについて、理解している。
2 3	直流回路に流れる電流・電圧の測定を行う。 オームの法則を調べる実験を行う。		●	●	〔思①〕　（ワークシート、実習） ・主体的に直流回路をつくり、電流及び電圧の測定を行い、電流と電圧の関係について、グラフを用いて理解している。 ・抵抗にかかる電流と電圧の値から電力値を求め、オームの法則について理解している。 ・直流電流計、直流電圧計を用いて、抵抗の直列接続と並列接続における特性について理解している。 〔主①〕　（グループワーク、ポートフォリオ） ・実習の測定値から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
4	交流回路の基礎について理解する。	●			［知②］　（ペーパーテスト） ・交流回路における電流、電圧、電力の関係について理解し、回路図を読み取り、力率を求めることができる。 ・オシロスコープの取り扱いについて、理解している。
5 6	交流回路に流れる電流・電圧の測定を行う。 オームの法則を調べる実験を行う。	●	●	●	〔知③〕〔思②〕　（ワークシート、実習） ・オシロスコープを用いて交流電源の波形の測定を主体的に取り組もうとしている。 ・主体的に交流回路をつくり、電流及び電圧の測定を行い、電流と電圧、電力の関係について、表にまとめ、理論値と測定値と比較する。 ・各電気器具の力率の値を求める。 〔主②〕　（グループワーク、ポートフォリオ） ・実習の測定値から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
7	プリント基板の製作方法について理解する。	●			［知④］　（ペーパーテスト） ・生基板にパターンをかく方法について理解している。 ・感光基板による方法について理解している。
8 9	感光基板による方法を用いてプリント基板を製作する。		●	●	〔思③〕　（ワークシート、実習） ・エッチングについて理解している。 ・基板の仕上げについて理解している。 〔主③〕　（ワークシート、ポートフォリオ） ・プリント基板の製作過程から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて、課題の解決に主体的に取り組もうとして

					いる。
10	はんだ付けについて理解する。	●	●	●	［知⑤］　（ペーパーテスト） ・はんだ付けについて理解している。 ［思④］　（ワークシート、実習） ・主体的に電子部品をはんだ付けしようとしている。 ［主④］　（ワークシート、ポートフォリオ） ・はんだ付けの点検を行い、問題を見いだして評価・改善し、主体的に取り組もうとしている。
11 12	プリント基板に電子部品のはんだ付けを行い、スピーカを完成させる。	○	○	○	〔知⑥〕〔思⑤〕　（グループワーク、ワークシート） ・スピーカの製作に主体的に取り組もうとしている。 〔主⑤〕　（振り返りシート、ポートフォリオ） ・スピーカの製作過程から問題を見いだして解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。

※「知識・技術」の総括的評価は、「実習」でのペーパーテスト、行動観察及びワークシートの内容により「ある程度の内容のまとまり」について実施する。

単元(題材)の評価規準を設定したら、単元(題材)の指導計画に示された学習過程を考慮しながら、それぞれの評価規準に対して、いつ、どのように評価を行うかを計画する。生徒全員について、「ワークシート」の内容を毎時間確認し、記録を残すような評価の在り方は、多大な時間を要し現実的には困難である。

日々の授業の中では、生徒の学習状況を把握して指導に生かすこと(形成的評価)に重点を置きつつ、評価の記録（総括的評価）については、基本的に題材のまとまりごとにそれぞれの評価規準の実現状況が把握できる段階で効率的・効果的に評価を行っていくことが必要である。

なお、本事例のように、実習を取り入れていく学習活動においては、定期的に「主体的に学習に取り組む態度」等について、観察等により評価していくことは重要である。

【ルーブリック（例）について】

実習の評価をするにあたって、事前にルーブリックを活用して、基準を示す方法が考えられる。

本事例では、実習を行うにあたり、１日の実習レポートとしてワークシートを作成させ、形成的評価とし、スピーカの製作が完了した際に、「ある程度の内容のまとまり」として、振り返りシートを作成させ、総括的評価を実施する構成とした。

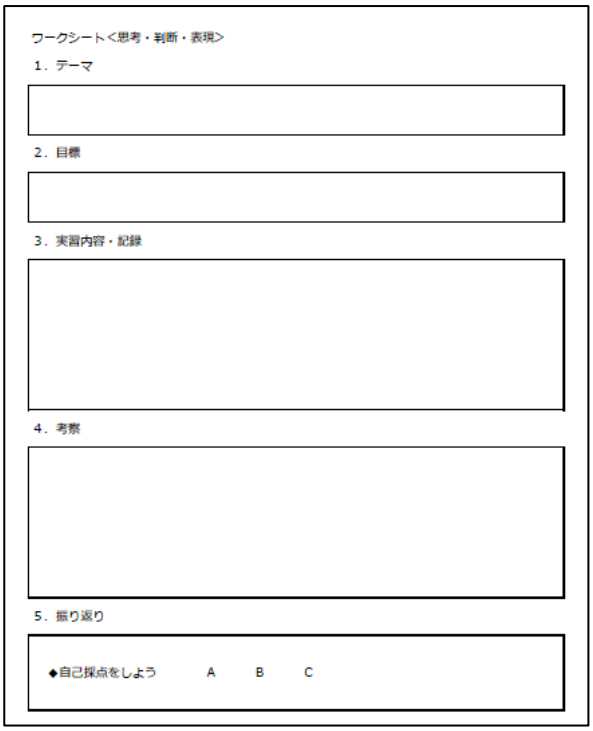
観点	十分到達できている（A）	到達できている（B）	到達に相当の努力を要する（C）
「思考・判断・表現」	製作したスピーカの良・不良を判断し、原因を考察して科学的な根拠に基づいて改善できている	製作したスピーカの良・不良を判断し、改善できている	製作したスピーカの良・不良を判断しているが、改善できていない
「主体的に学習に取り組む態度」	自分の製作したスピーカだけでなく、班員のスピーカについても互いに比較し、課題の解決に取り組んでいる	自分の製作したスピーカだけでなく、班員のスピーカについても課題の解決に取組もうとしている	自分の製作したスピーカ以外の課題の解決に取り組もうとしていない

（２）具体的な評価方法（評価課題や判断基準）について

ア）　「思考・判断・表現」の評価

本事例では、電気回路の基礎的な実習を想定し、冒頭での原理や理論の説明に対しては、ペーパーテスト等により「知識・技術」を見取ったうえで、実習中の行動観察を行い、グループワークと組み合わせながら学習する。班ごとに設定した課題テーマについて検討し、解決策についてまとめるグループワークに取り組むことで、生徒が考えながら学習し、「主体的・対話的で深い学び」が実現されるような構成となっている。

思考・判断・表現の評価は、グループワークにおいて、実習内容について、a）問題を見いだして課題を設定しているか、b）様々な解決方法を検討し、計画、立案しているか、c）実践を評価・改善しているか、d）考察したことを根拠に基づいて科学的・論理的に表現しているかなど、創造的に課題を解決する力を身に付けているかを評価することになる。


ワークシート<思考・判断・表現>

1．テーマ

2．目標

3．実習内容・記録

4．考察

5．振り返り

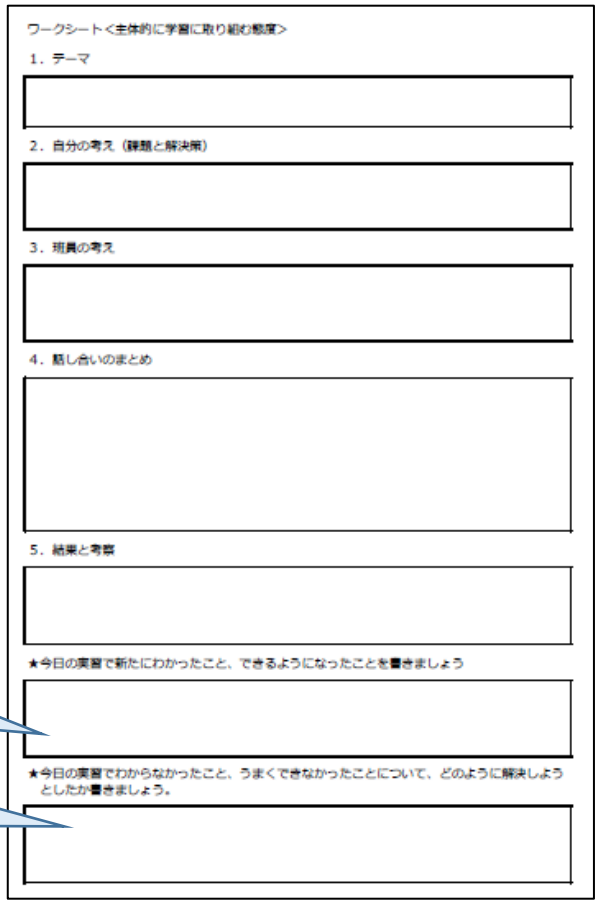
◆自己採点をしよう　A　B　C

この観点で評価する資質・能力は、短期的に伸びるものではなく、時間をかけて伸びていくものであるため、各実習の前半の評価規準については形成的な評価としている。グループワークの中で、行動観察やワークシートの記述内容から主に「努力を要する」状況と判断される生徒を把握して、生徒全員が思考を深めていく授業の流れを大切にしながら、学びを進展・改善させたり、学習の方法をつかませたりする等の手立てを講じ指導に生かす。その上で、事前に示したルーブリック（**例**）から実習のまとめとして、第 12 時に振り返りシートを活用して、評価規準〔知⑥〕〔思⑤〕〔主⑤〕で総括的な評価を行っている。

イ）「主体的に学習に取り組む態度」の評価

【グループワークについて】

基礎的な科目である「工業技術基礎」では導入的な取り扱いをすることから、より具体的な統一テーマを示すとともに、取り組みやすい調べ学習を組み合わせるなどの工夫が必要である。本事例では、テーマを前半では「電気回路の測定結果の精度について」とし、後半では「スピーカのノイズについて」とし、そのテーマの中から生徒が自由に課題を設定することとした。課題の設定の際には、測定誤差をどのように扱うのか、なぜ測定誤差がうまれるのか、どのような状況のときにノイズが発生するのかなど様々な切り口で検証するよう助言することが考えられる。


ワークシート<主体的に学習に取り組む態度>

1．テーマ

2．自分の考え（課題と解決策）

3．班員の考え

4．話し合いのまとめ

5．結果と考察

★今日の実習で新たにわかったこと、できるようになったことを書きましょう

★今日の実習でわからなかったこと、うまくできなかったことについて、どのように解決しようとしたか書きましょう。

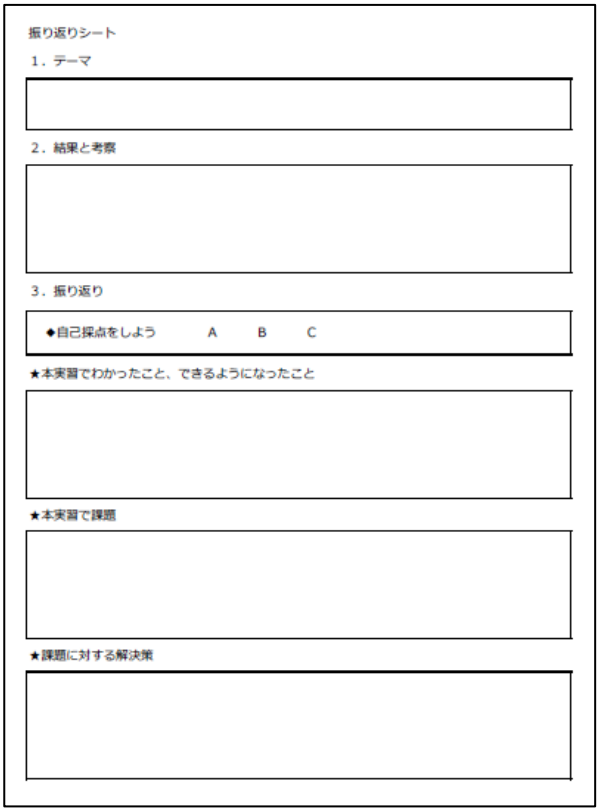
学習前・後と学習履歴を振り返って、何がどう変わったのか。また、それに対する自分の学習の意味づけなど、自分が考えたこと表現したことなどについて記述させる。

自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているか記述させる。題材の学習を振り返る時間をしっかりと確保するこが大切。

【パフォーマンス課題について】

パフォーマンス課題を生徒に提示する際には、「授業で学んだ知識を使うこと」「自分の考えも述べること」「具体例を挙げること」といった簡単な規準を示すことが必要である。本事例での課題は、「スピーカを作成したがノイズをなくすにはどうすれば良いのか。ノイズの原因として考えられることと対応策についてあなたの考えを書きなさい。」とした。

ノイズが発生する理由として、抵抗値が増大した等が考えられる。それらについて、授業で学んだ知識を使いながら、科学的な根拠に基づいて創造的に解決できるよう回答できているかがポイントとなる。これを生徒が回答するにあたり、「知識・技術」に関連する力も必要となるが、それらやグループワークでの学びを組み合わせ、解決方法を導き出す力を「思考・判断・表現」の観点で測ることとしている。


振り返りシート

1．テーマ

2．結果と考察

3．振り返り

◆自己採点をしよう　A　B　C

★本実習でわかったこと、できるようになったこと

★本実習で課題

★課題に対する解決策

「主体的に学習に取り組む態度」の評価に際しては、単に継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するということではなく、工業科の「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、知識及び技術を習得したり、 思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが重要である。

【評価別記述（例）】

評価	記述例	理由例
A	今回、ノイズの出る原因は、①オームの法則から抵抗値が高くなり電圧降下のせいではないかと考え、②回路の配線部分の電圧を測定し、理論値と比較した。	下線①学んだ知識をもとに考察し、波線②具体的な対策を立てて実践している。
B	ノイズの量の多い人と少ない人の回路の差は、③はんだがきれいにできているからだと考える。	波線③他者の製作物をもとに考察しようとしているが、科学的根拠に欠ける。

（３）工業科における観点別学習状況評価の留意事項

ア）グループワークを踏まえた指導と評価の充実

各科目に位置付けられているグループワークを効果的に取り入れて、工業科で育成をめざす３つの資質・能力をバランスよく育む。課題発見→解決方法の検討・計画→計画の実施→評価・改善という一連の学習活動の中で、工業の各分野に関連する技術の習得、課題を合理的かつ創造的に解決する力や工業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を評価する場面や頻度を精選し、位置付ける。

イ）「主体的に取り組む態度」の評価方法や評価の時期

実践的・体験的な学習活動を行う中で、見通しを立てる場面、しっかりと振り返る場面を設定し、適切に指導した上でこの観点を評価する。優れた部分、成長の見られた部分、改善が必要な部分に気付かせることや、グループでの実験実習や協働学習を通し、生徒が互いの学びの過程を評価し合う相互評価などを効果的に取り入れていくことが求められる。

商業科における観点別学習状況の評価の進め方について

ここでは、教科「商業」の科目「ビジネス基礎」を例に、「指導と評価の一体化」を実現するための観点別学習状況評価の進め方について説明する。

１．科目の観点及びその趣旨の作成について

「指導と評価の一体化」を図るためには、はじめに学習指導要領に示された教科・科目の目標や内容と合わせて、「改善通知」に示された「教科の評価の観点及びその趣旨」に基づき「科目の評価の観点の趣旨」を設定し、商業科の学習を通して育成をめざすべき資質・能力と評価の基本的な枠組みを捉えることが大切である。

以下は、教科の目標と「評価の観点及びその趣旨」との関係性を踏まえた、「ビジネス基礎」の科目の目標に対する「評価の観点の趣旨」の例である。

【「第３章　第３節　第２款 第１　ビジネス基礎」の評価の観点の趣旨（例）】

観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に**理解している**とともに、関連する技術を**身に付けている。**	ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を**身に付けている。**	ビジネスを適切に展開する力の向上をめざして自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取組む態度を**身に付けている。**

２．指導と評価の年間計画（シラバス）について

指導と評価の計画（シラバス）の作成に当たっては、１.の「ビジネス基礎」の評価の観点の趣旨に基づき、内容のまとまりまたは単元の評価規準を設定する。指導と評価の計画（シラバス）は、年間を通して教科・科目の目標の実現をめざしていくために策定する。学校教育目標や生徒の発達段階や学習状況を考慮するとともに、季節や学校行事等と教科との関連も見通して年間の学習内容を計画する必要がある。

※「ビジネス基礎」指導と評価の年間計画（シラバス）　＜記入例（一部）＞

学期	単元(題材)名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
		(５)企業活動の基礎 ア　企業の形態と経営組織				
２学期	企業活動の基礎	カ　雇用 ・雇用の形態 ・雇用に伴う企業責任	a：企業活動について経済社会における事例と関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 b：企業活動に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案している。 c：企業活動について自ら学び、企業活動に関する事例などを踏まえ、企業活動に主体的かつ協働的に取組もうとしている。	ペーパーテスト ワークシート 課題レポート	ワークシート パフォーマンス課題	授業観察 ワークシート ポートフォリオ

＜学習指導要領　商業科　科目「ビジネス基礎」　２　内容　（５）企業活動　より＞

（５）　企業活動 　ア　企業の形態と組織 　イ　マーケティングの重要性と流れ 　ウ　資金調達 　エ　財務諸表の役割 　オ　企業に対する税 　カ　雇用

３．単元（題材）における観点別学習状況の評価の進め方

ここでは、上の「ビジネス基礎」単元（題材）名「（５）企業活動」の評価事例を示し、商業科における観点別学習状況の評価の進め方について紹介する。

（１）単元（題材）における指導と評価の計画

ア）　科　目　名　：「ビジネス基礎」

イ）　単元(題材)名：企業活動［全 18 時間］

ウ）　学習指導要領との関連：内容(５)企業活動

ア　企業の形態と組織　　イ　マーケティングの重要性と流れ

ウ　資金調達　　エ　財務諸表の役割

オ　企業活動に対する税　　カ　雇用

エ）　単元（題材）の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
企業活動について経済社会における事例と関連付けて**理解している**とともに、関連する技術を**身に付けている。**	企業活動に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を**考案している。**	企業活動について自ら学び、企業活動に関する事例などを踏まえ、企業活動に主体的かつ協働的に**取組もうとしている。**

オ）　指導と評価の計画「企業活動」雇用（全 18 時間のうち６時間）

●…形成的評価、○…総括的評価

時	主な学習活動	評価の観点			評価規準・評価方法
		知	思	主	
1	雇用形態の種類と特徴について理解する。	○		●	〔知①〕（ペーパーテスト） ・雇用の形態には、正規雇用および契約社員やパートタイマーなどの非正規雇用があることを理解している。 〔主①〕（ワークシート、観察） ・様々な雇用形態や勤務形態について、その特徴や人々のライフスタイルとの関連について探求しようとしている。
2 3	雇用に伴う企業の社会的責任および、企業が順守すべき労働に関する法令の概要について理解する。	○	○	●	〔思①〕（レポート） ・企業の社会的責任にはどのようなものがあるかを理解し、その課題への対応策について考察している。 〔主②〕（ワークシート、観察） ・労働基準法をはじめとする労働関係の法律や男女雇用機会均等法等の意義について探求しようとしている。 〔知②〕（ペーパーテスト） ・企業が順守すべき労働に関する法令の概要について、内容を理解している。

4 5	企業が行う福利厚生の種類と内容について理解する。 法律で義務付けられている社会保障制度について理解する。	○	●	○	〔主③〕（ワークシート、観察） ・企業が任意に設ける福利厚生と、法律で義務付けられている社会保険制度の種類と内容について探求しようとしている。 〔知③〕（ペーパーテスト） ・企業が行う福利厚生の種類と内容について理解している。 〔思②〕（レポート） ・企業の福利厚生が従業員にどのような影響を与えるかを思考し、その課題への対応策について考察している。
6	職業に対する理解に基づいて、自己の勤労観や職業観、働く目的について理解する。 自己を見つめ、卒業後の進路を展望し、自らの職業適性を理解する。		●		〔思③〕（**＊パフォーマンス課題**） ・これまで学習した内容に基づき自己の勤労観や職業観、働く目的について考察している。 ・商業の学習分野と職業との関連について思考を深め、卒業後の進路について考察し、自らの職業適性に基づき判断しようとしている。

※ペーパーテストについては、ある程度の内容のまとまりについて実施する。

単元(題材)の評価規準を設定したら、単元(題材)の指導計画に示された学習過程を考慮しながら、それぞれの評価規準に対して、いつ、どのように評価を行うかを計画する。設定した評価規準によっては、学習活動において評価するものもあれば、ペーパーテスト(学習のまとまりごとの小テスト・定期考査)などを用いて評価するものもある。

生徒全員について、毎時間「ワークシートの記述」を確認し記録を残すような評価の在り方は、多大な時間を要し現実的には困難である。ここでは、日々の授業の中においては、生徒の学習状況を把握して指導に生かすことに重点を置きつつ、評価の記録については、基本的に単元(題材)のまとまりごとにそれぞれの評価規準の実現状況が把握できる段階で評価を行う事例を示している。

本単元(題材)の総括的な評価の計画をまとめると次のようになる。ペーパーテストやレポート、ワークシート、ノート、作品など、授業後に教員が確認しながら全員の評価を無理なく行えるような方法を検討し、活用していくことが効果的である。

時　間	第１～５時	第２時	第４時
単元（題材） の評価規準	知①～知③	思①	主③
評価時期	複数の単元（題材）が 終了した時点で評価する	単元（題材）の学習活動内容で評価する	
評価課題	ペーパーテスト（定期考査）	レポート	ワークシート

（２）具体的な評価方法（評価課題や判断基準）について

ア）　知識・技能の評価

この単元（題材）では、雇用の形態について学ぶとともに、労働に関する法令、雇用に関して企業が負う責任についても理解させることが目標である。

具体的な学習内容は、

（１）正規雇用と非正規雇用
（２）非正規雇用である①契約社員、②パートタイマー・アルバイト、③派遣社員、④請負労働者
（３）企業の社会的責任と労働に関する主な法令とその内容
（４）企業の福利厚生と社会保険制度
である。

具体的な評価の方法として、理解度の評価のためのワークシート、知識の定着度を測るための単元ごとの小テストや一定期間ごとの定期テストなどがある。

雇用に関して基礎的・基本的なことがらについて理解しているかどうかを学習評価の観点とする。

次に示すのは、知①・知②を評価するためのペーパーテストの問題（例）である。

【知識の定着度を測る問題】

次の各問に答えなさい。

（問１）非正規雇用の労働者の一般的な呼称を４つ答えなさい。

（問２）労働基準法は何について定めているか、述べなさい。

本事例では、「知識・技能」に関する「ワークシートの記述」を「指導に生かす評価」（形成的評価）として授業中の指導の改善に生かすために用いることとし、ある程度の内容のまとまりについてペーパーテストを実施し、「知識・理解」の「記録に残す評価」（総括的評価）とすることとしているが、「ワークシートの記述」を単元の学習活動内で「記録に残す評価」とすることもできる。各校の生徒の実態に応じて、適切な方法により評価する。

イ） 思考・判断・表現の評価

この単元では、現代社会における新たなビジネスの創造に向けて、①問題を見いだして課題を設定しているか、②様々な解決方法を検討し、計画、立案しているか、③実践を評価・改善しているか、④考察したことを根拠に基づいて論理的に表現しているかなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けているかを評価する。

具体的な評価の方法としては、ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループでの話合い等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど評価方法を工夫することが考えられる。

「思考・判断・表現」を評価するためには、教員は「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善をする中で、生徒が思考・判断・表現する場面を効果的に設計するなどしたうえで、指導・評価することが求められる。

次に示すのは、単元末（第６時）に授業内で実施するパフォーマンス課題（例）である。それらの雇用形態によるメリット・デメリットについて、自らのライフサイクルを考えながら探求し、発表につなげる。そのためには、商業の各分野（マーケティング・ビジネス経済・会計・ビジネス情報）の学習内容が職業にどのようにつながっていくのかについて理解していることが重要である。

【パフォーマンス課題】

（課題）あなたは将来、わが国の経済発展のために、ビジネス社会に対してどのように貢献したいと考えていますか。自らの興味・関心、思い描くライフプラン、将来の夢や希望をもとに、これまで学習した「商業の分野」と「ビジネスに関する職業」との関係もふまえ、「ビジネスのスペシャリスト」になったつもりで発表してください。

ウ） 主体的に学習に取り組む態度の評価

「主体的に学習に取り組む態度」の評価に際しては、単に継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するということではなく、商業科の「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが重要である。

ここでの評価は、生徒の学習の調整が「適切に行われているか」を必ずしも判断するものではなく、学習の調整が知識及び技能の習得などに結び付いていない場合には、教員が学習の進め方を適切に指導することが求められる。 具体的な評価の方法としては、ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教員による行動観察や生徒による自己評価や相互評価等の状況を、教員が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることなどが考えられる。

ワークシート（1）

学年	組	番	名　前

1　求人票を見て、どの企業で働きたいか考えてみよう。

働きたい会社	選んだ理由

2　雇用形態についてまとめてみよう

雇用形態	種類	定義	メリット	デメリット
正規雇用	正社員			
非正規雇用	契約社員			
	パートタイマー アルバイト			
	派遣労働者			
	請負労働者			

■考えみよう

企業が、非正規雇用をする理由は何だと思いますか？

■次の言葉の意味を調べてみよう

・終 身 雇 用 制 度・・・
・年功序列型賃金制度・・・
・成果主義の賃金制度・・・
・フレックスタイム制・・・
・月給制・・・
・日給制・・・
・時給制・・・

（３）商業科における観点別学習状況評価の留意事項

ア） 問題解決のプロセスをふまえた指導と評価の充実

特に実業系高等学校において強く意識される職業選択について、雇用形態や制度、さらには自らのライフプランをふまえながら考えることができる力を育む。

将来設計→雇用に関する制度→雇用形態のメリット・デメリット→課題発見→解決方法の検討・計画→評価・改善という一連の学習活動の中で、職業選択のための知識の習得、生涯を見通して生活の課題を解決する力や人生を主体的にプランニングしようとする実践的な態度を評価する。

イ）「主体的に取り組む態度」の評価方法や評価の時期

「主体的に取り組む態度」は他の２つの観点と同様、指導したうえで評価することが重要である。見通しを立てる場面、しっかりと振り返る場面を設定し、適切に指導したうえでこの観点を評価する。また、教員や他の生徒による評価を伝えることが、生徒にとって自らの学びの課程を捉えるうえで力強いサポートとなりうる。優れた部分、成長の見られた部分、改善が必要な部分に気付かせることや、生徒が互いの学びの過程を評価し合う相互評価などを効果的に取り入れたい。

ウ） 偏りのないバランスの取れた評価の実施

評価にあたっては、三要素のバランスのとれた学習評価を行うことが重要である。指導と評価の一体化を図る中で、論述やレポートの作成、発表、グループでの話合い、作品の制作等といった多様な活動に取り組ませるパフォーマンス評価を取り入れ、ペーパーテストの結果だけを重視するのではなく、多面的な評価を行っていくことが必要である。さらには、総括的な評価のみならず、一人一人の学びの多様性に応じて、学習の過程における形成的な評価を行い、子供たちの資質・能力がどのように伸びているかについて、例えば、日々の記録やポートフォリオなどを通じて、生徒自身が把握できるようにしていく工夫も必要である。

福祉科における観点別学習状況の評価の進め方について

ここでは、教科「福祉」の科目「社会福祉基礎」を例に、「指導と評価の一体化」を実現するための観点別学習状況評価の進め方について、説明する。

１．科目の観点及びその趣旨の作成について

「指導と評価の一体化」を図るためには、はじめに学習指導要領に示された教科・科目の目標や内容と合わせて、「改善通知」に示された「教科の評価の観点及びその趣旨」に基づき「科目の評価の観点の趣旨」を設定し、福祉科の学習を通して育成をめざすべき資質・能力と評価の基本的な枠組みを捉えることが大切である。

以下は、教科の目標と「評価の観点及びその趣旨」との関係性を踏まえた、「社会福祉基礎」の科目の目標に対する「評価の観点の趣旨」の例である。

【「第２款」　第１節 社会福祉基礎」の評価の観点の趣旨（例）】

観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	社会福祉について体系的・系統的に理解しているともに、関連する技術を身に付けている。	社会福祉の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観をふまえ科学的な根拠に基づいて、創造的に解決する力を身に付けている。	健全で持続的な社会の構築をめざして自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

２．指導と評価の年間計画（シラバス）について

指導と評価の計画（シラバス）の作成に当たっては、１.の「社会福祉基礎」の評価の観点の趣旨に基づき、内容のまとまり又は単元(題材)の評価規準を設定する。指導と評価の計画（シラバス）は教材の配列ではなく、年間を通して教科・科目の目標の実現をめざしていくためのものである。学校教育目標や生徒の発達段階や学習状況を考慮するとともに、季節や学校行事等と教科との関連も見通して年間の学習内容を計画する必要がある。

※「社会福祉基礎」指導と評価の年間計画（シラバス）　＜記入例＞

学期	単元(題材)名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	社会福祉の理念と人間の尊厳について考える	●社会福祉の理念と意義 【生活と福祉】 1　少子高齢化の人口減少社会の到来 2　地域社会の変化 3　生活の変化 【社会福祉の理念】 1　日本国憲法と社会福祉 2　現代の福祉理念 3　社会福祉を支える諸原理 【人間の尊厳と自立】 1　人間としての尊厳 2　自立生活支援	a：生活や自立の概念、日常生活と福祉、社会福祉理念の変遷などについて、理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 b：社会福祉の理念や意義、尊厳の保持や自立支援などに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観をふまえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。 c：社会福祉の理念や意義、尊厳の保持や自立支援などについて自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	ワークシート ペーパーテスト	ワークシート パフォーマンス課題	授業観察 ワークシート ポートフォリオ

基本的には、学習指導要領に示す「２　内容」指導事項aについて、「知識」についてはその文末を「**～について理解している**」、「技能」についてはその文末を「**～を身に付けている**(情報の収集・整理ができる)」として、評価規準を作成する。
「２　内容」指導事項bについて、その文末を「**…職業人に求められる倫理観をふまえ科学的な根拠に基づいて、創造的に解決する力を身に付けている。**」として、評価規準を作成する。
「２　内容」指導事項cについて「主体的に学習に取り組む態度」をもとに、当該「内容のまとまり」等で育成をめざす「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の指導事項等を踏まえ、その文末を「**…自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている**」として評価規準を作成する。

＜学習指導要領　福祉　科目「社会福祉基礎」　２　内容　（１）社会福祉の理念と意義
ア　生活と福祉　イ　社会福祉の理念　ウ　人間の尊厳と自立より　＞

（１）社会福祉の理念と意義

ア　生活と福祉

・家族の形態や家族の機能と役割、社会と組織、地域社会における社会構造やライフスタイルの変容、ヘルスプロモーションなどの健康の考え方や疾病構造の変化について理解すること。

・自立した生活と地域社会との関わり、少子高齢化の進行と介護の社会化について、自助・互助・共助・公助と関連付けて考察すること。

イ　社会福祉の理念

・日本国憲法や社会福祉法、地域共生社会、近年の国際的な福祉の考え方を取りあげ、経済的救済中心から自立生活支援への変化、サービス利用者と地域がつながる支援など社会福祉の理念や在り方について理解すること。

・わが国の社会保障制度と国民生活について課題を発見し、地域福祉および職業人の視点から考察するするとともに、職業人に求められる倫理観をふまえ科学的な根拠に基づいて解決方法を提案すること。

ウ　人間の尊厳と自立

・日本国憲法や世界人権宣言、障害者の権利宣言、国際障害者年、障害者の権利に関する条約から、自立の意味や自己決定の重要性について理解すること。

・権利擁護と人権尊重の視点をふまえた人間の尊厳、自立支援について課題を発見し、当事者および職業人の視点から考察するとともに、職業人に求められる倫理観をふまえ科学的な根拠に基づいて解決方法を提案すること。

３．単元（題材）における観点別学習状況の評価の進め方

ここでは、上の「社会福祉基礎」題材名「社会福祉の理念と人間の尊厳について考える」の評価事例を示し、福祉科における観点別学習状況の評価の進め方について紹介する。

（１）単元（題材）における指導と評価の計画

ア）　科　目　名　：「社会福祉基礎」

イ）　単元(題材)名：「社会福祉の理念と人間の尊厳について考える」［全 16 時間］

ウ）　学習指導要領との関連：（１）社会福祉の理念と意義　　ウ　人間の尊厳と自立

エ）　単元（題材）の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活や自立の概念、日常生活と福祉、社会福祉理念の変遷などについて、理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	社会福祉の理念や意義、尊厳の保持や自立支援などに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観をふまえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。	社会福祉の理念や意義、尊厳の保持や自立支援などについて自ら学び、主体的にかつ協働的に取り組もうとしている。

オ） 指導と評価の計画（全１６時間） ●…形成的評価、○…総括的評価

時	主な学習活動	評価の観点			評価規準・評価方法
		知	思	主	
1 2	わが国の人口構成の推移を理解し、少子高齢化が及ぼす影響を総合的に捉える。	●		●	【知①】（ワークシート） ・人口構成の推移等のグラフを正しく読み取ることにより、少子高齢社会について理解しているとともに正しい知識を身に付けている。 【主①】（ワークシート）（授業観察） ・人口構成の推移等のグラフを読み取ることで自ら、少子高齢化の及ぼす正確な知識の理解に向けて主体的に取り組もうとしている。
8 9	グループワークを通じて、福祉サービスの提供の場面で、社会福祉の理念である生活の質（ＱＯＬ）を向上させる支援方法について考える。		○	●	【思④】（ワークシート） ・デイケアにおける事例を通じて、職業人として生活の質（ＱＯＬ）を向上させる課題を発見し、科学的根拠に基づいて支援方法を提案している。 【主④】（ワークシート）（授業観察） ・デイケアにおける事例を通じて、課題解決ついて主体的に取り組もうとし、解決に向けた一連の活動を振り返り、改善しようとしている。
10	社会福祉を実践していくうえで重視する点と、その諸原理について理解する。	●			【知④】（ワークシート） ・災害時における事例を通じて、職業人として社会福祉における実践や支援方法について理解している。
11 12	人間の尊厳とは何か、理解するともにグループワークを通じて、人間の尊厳を傷つける問題について未然防止策を考える。		●	●	【思⑤】（ワークシート） ・新聞記事などを活用して虐待や差別といった社会の中で顕在化または潜在化している問題を発見し、その事象が発生した原因と職業人に求められる倫理観をふまえ科学的な根拠に基づいた創造的な解決策や未然防止策を考え、工夫をしている。 【主⑤】（ポートフォリオ）（授業観察） ・人間の尊厳を傷つける問題について、課題解決ついて主体的に取り組もうとし、解決に向けた一連の活動を振り返り、改善しようとしている。
13 14	自立の定義を理解するとともに、グループワークを通じて自立した生活を支援する方法について考える。	●	●		【知⑤】（ワークシート） ・経済的な自立、身体的な自立、精神的な自立と社会福祉における自立との相違について理解している。 【思⑥】（ワークシート） ・介護が必要とする難病患者の方の事例から、自立生活の支援に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観をふまえ科学的根拠に基づいて方法を創造的に解決している。
15 16	学習のまとめ	○	○	○	【知①～⑤】（ペーパーテスト・定期考査） ・学習のまとめとして、生活や自立の概念、日常生活と福祉、社会福祉理念の変遷などについて、理解している。 【思①～⑤】（ペーパーテスト・定期考査） ・尊厳の保持や自立支援などの課題に関する事例を読み、職業人に求められる倫理観をふまえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。 【主⑥】（ポートフォリオ） ・自らの学びを自己評価するとともに、一連の活動を振り返り、課題解決について主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

※ペーパーテストについては、ある程度の内容のまとまりについて実施する。

単元（題材）の評価規準を設定したら、単元（題材）の指導計画に示された学習過程を考慮しながら、それぞれの評価規準に対して、いつ、どのように評価を行うかを計画する。本事例では、日々の授業の中では生徒の学習状況を把握して指導に生かすこと（形成的評価）に重点を置きつつ、評価の記録（総括的評価）については、基本的に単元(題材)のまとまりごとにそれぞれの評価規準の実現状況が把握できる段階で評価を行う事例を示している。

（２）具体的な評価方法（評価課題や判断基準）について

ア）　「知識・技術」の評価

この単元(題材)では、生活や自立の概念、日常生活と福祉、社会福祉理念の変遷などについて理解しているとともに、関連する技術を身に付けているかを評価する。具体的な評価の方法としては、例えば、授業において生徒が文章による説明をしたり、図で表現したりするなど、実際に知識や技能を用いる場面を設けたり、ペーパーテストにおいても事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図るなど、多様な方法を適切に取り入れていくことが考えられる。

ここでは、知⑤・思⑥を評価するために実施した、ペーパーテストの問題を紹介する。

問題例　次の事例を読んで、問いに答えなさい。

【事例】　Ｃさん（５５歳、男性）は５年前に、食事中に箸が持ちにくくなったことや重いものが持てないことがきっかけで受診し、筋萎縮性側索硬化症（ＡＬＳ）と診断された。３年前から休職していたが、今年になって仕事を退職した。

現在、車いすが利用できるバリアフリーのマンションで、妻（５０歳）と息子（２５歳）の３人で生活しており、Ｃさんの日常生活の介護は主に妻と息子が行い、週５回は訪問介護サービスを利用している。Ｃさんの状態は全介助であるが、右手の指先をわずかに動かすことができ、指先を使って電動車いすを操作している。A）最近、声を出したり発音したりすることが難しく、家族は病気のさらなる進行を心配しており、訪問介護員に相談した。

【問１】　筋萎縮性側索硬化症（ＡＬＳ）の病状が進行していく中で、正しいものには〇を間違っているものには×をしなさい。

①　呼吸に関する筋肉が衰えるので、人工呼吸器をつけることを検討する。

②　味覚障がいを患い、食べ物の味がわかりづらくなる。

③　聴覚障がいを患い、聞こえづらくなるので補聴器をつけることを検討する。

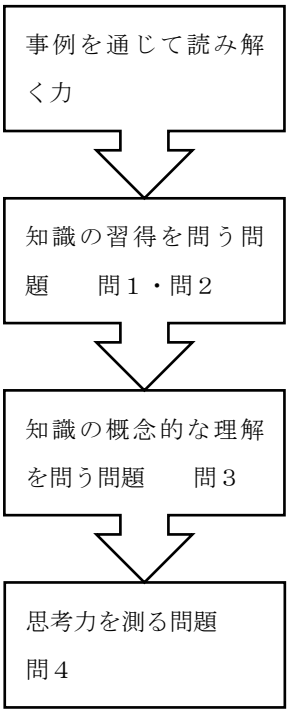
④　嚥下機能が低下すると経口での食事をとることが難しくなるので、胃ろうの造設を検討する。

【問２】　下線部A）について、症状が進行していく中で提案できるコミュニケーション方法を書きなさい。

【問３】　息子は、父親の介護状況から「父親は自立した生活が送れていないのではないか。」と考えている。福祉分野における自立の概念について、息子にわかるように説明しなさい。

【問４】　現在、Ｃさんは「生きがいをみつけたい」という思いから、社会的な繋がりを持ちたいと考えている。福祉専門職として、Ｃさんの情報を活かして社会的な繋がりを持つための方法を提案しなさい。

【Ｃさんの情報】　①退職するまでは、新聞記者として活躍していた。　②こどもが好きな性格である。
③趣味は野球、高校時代にはピッチャーをしていた。　④好きな食べ物は、スイーツである。



イ）　「思考・判断・表現」の評価

この単元（題材）では、社会福祉の理念や意義、尊厳の保持や自立支援などに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観をふまえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決しているかを評価する。

本事例では、第８～９時に授業内でパフォーマンス課題を設定し、「思考・判断・表現」を評価について生徒個人の思考力を評価するとともに、グループワークを通じて「主体的・対話的で深い学び」が実現できるように生徒間の相互評価による一例を紹介する。まず、はじめにデイケアにおける食事や入浴、レクリエーションなどの場面を設定した事例を提示し、生徒が高齢者施設での介護実習やボランティア活動での経験を活かして、利用者の気持ちに立って生活の質（ＱＯＬ）を向上させる工夫点や支援方法について考える。次に、ポスターツアーによる学習および発表方法を用いることで生徒一人ひとりが主体的に発表できる機会を提供し、生徒間による相互評価することで能動的な学習を促すことができる。

【ポスターツアーとは】

・班で課題について考え、模造紙（ポスター）に班の考えをまとめる。各班から一人ずつ選出して新たな班を再編成し、作成した模造紙を各班で回し、自分が検討したポスターに対して他のメンバーに説明する方法である。従来の発表は、班の代表者がクラスメイトに対して発表する形式になるが、ポスターツアーは全員が発表できる形式である。

【学習活動の例（一部抜粋）】

Ⅰ　共通テーマ：利用者の方の生活の質（ＱＯＬ）を向上させる工夫点や支援方法について考える。

班	事　　例
１班	【食事介助の場面】Ａさん（80 歳）は、最近体重が減ってきている。また、義歯（入れ歯）の咬み合わせも悪く、生活全般における意欲低下や依存が強くなり、自発的な行動が見られない。
４班	【歩行介助の場面】Ｂさん（68 歳）は、右足を骨折したことがきっかけで、歩くことに不安を感じている。医者は「骨折は治り、歩行ができる」と診断しているが、生活全般における意欲低下や依存が強く、自ら歩こうとしない。

Ⅱ　生活の質を向上させる工夫点や支援方法（個人の考え）　【食事介助の場面】　名前（　　Ｆ　　）

担当の歯科医師に義歯のかみ合わせについて相談し、Ａさんの口腔内と義歯の診断を受ける。Ａさんや家族に元気がない理由を訊き解決方法を一緒に考える。また、Ａさんが好きな食材や小さく切る、柔らかくするなどの調理方法を工夫し、生活意欲を引き出すために利用者の方が参加できる調理レクリエーションを行う。更に「食材を切る」「まぜる」などの調理工程についてＡさんの得意な工程を担当して頂き、充実感や自信に繋げたい。

＜思考・判断・表現＞
※「十分に満足できる」状況（Ａ）と判断した生徒の具体的な例

【思考・判断・表現　観点別評価規準】

「Ａ」と評価 十分に満足	他職種との連携や利用者理解に努め、できる部分に着目し、意欲を引き出すための工夫や支援方法が書かれている。
「Ｂ」と評価 おおむねに満足	他職種との連携や利用者の状況や気持ちを理解した工夫や支援方法が書かれている。
「Ｃ」と評価 努力を要する	利用者の「からだ」の側面のみに着目した支援方法が書かれている。
【指導の手立て】	他の生徒の発表を参考に、再度考えるように助言を行う。

生徒Ｆは、利用者の「からだ」の側面のみの支援だけではなく、利用者の「こころ」の側面や利用者をよく理解している家族からも多面的に情報を収集し、利用者の主体性を引き出すため、利用者と一緒になって創造的に解決方法を考えようとしている。また、効果的な支援を行うために、他職種との連携を図るとともに、利用者のできる部分や得意な部分に着目した日常生活における役割を持って頂くことで、やりがいや生きる意欲に繋げる提案を記述していることから、「十分に満足できる」状況「Ａ」と判断した。

Ⅲ　ポスターツアー評価表法（生徒間の相互評価）　評価者名　○班（　　）実施日：○月○日

	思　考	表　現	態　度	アドバイス
評価項目 班（発表者名）	多面的な視点から、利用者の意欲やＱＯＬを高める提案である。	言語的、非言語的コミュニケーションを用いたわかりやすい発表である。	利用者や家族の方に説明する専門職としての発表態度である。	発表者に対して、次回に向けてのさらなる工夫点やアドバイスを書くこと。
１班（　　）	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	
４班（　　）	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	

評価規準　Ａ　期待以上である　Ｂ　期待通りである　Ｃ　期待を下回る　Ｄ　次回に期待する

また、生徒間の相互評価を実施することで、発表に対しての洞察力が高まり、「新たな発見や気づき」を促すことができる。学習目標に沿った評価規準を生徒に理解させるためには、評価する機会を重ね、「その評価にしたのはなぜなのか」という理由を言語化させると効果的である。

ウ）　主体的に学習に取り組む態度の評価

福祉科の「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、知識及び技能を習得したり、 思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが重要である。

ここでの評価は、生徒の学習の調整が「適切に行われているか」を必ずしも判断するものではなく、学習の調整が知識及び技能の習得などに結び付いていない場合には、教員が学習の進め方を適切に指導することが求められる。 具体的な評価の方法としては、ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教員による行動観察や生徒による自己評価や相互評価等の状況を、教員が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることなどが考えられる。教科の特質として、①粘り強さ（知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面)、②自らの学習の調整（①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面）に加え、③主体的かつ協働的に取り組む態度を含めることが望ましい。

本事例では、P. 100 で取りあげた単元(第８～９時)での「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法について一例を紹介する。

【学習振り返りシート（一部抜粋)】　　○年○組○番　名前（　　Ｓ　　）　　実施日：○月○日

テーマ　利用者の方の生活の質（ＱＯＬ）を向上させる工夫点や支援方法について考える。

①メンバーからのアドバイスを受けて、次回の発表会に向けて具体的な改善点を書きましょう。	＜主体的に学習に取り組む態度＞ ※「十分に満足できる」状況（Ａ）と判断した生徒の具体的な例
③今回の学びを活かして、次回のせ実習では、利用者の方にどのように接しますか？	５月の実習では、私は介護者主体の介助を行っていたので、利用者の方のよりよい生活を第一に考えた介護を行いたいです。そのためには、利用者の声を傾聴し、好きな物などを理解することで、意欲を引き出す声掛けをしたいです。

【主体的に学習に取り組む態度　観点別評価規準】

「Ａ」と評価 十分に満足	利用者主体の介護の大切さに気づくとともに、具体的に実践方法を書いている。
「Ｂ」と評価 おおむねに満足	前回の実習で出来なかった点について、利用者との接し方が書かれている。
「Ｃ」と評価 努力を要する	前回の実習の振り返りができておらず、次回への実習の意欲が書かれていない。
【指導の手立て】	教員と一緒に自らの実習について振り返り、再度考えるように助言を行う。

生徒Ｓは、前回、初めての高齢者施設での介護実習について自分を中心とした取り組みであったことに気づき、客観的に振り返ることができている。更に授業を通じて学んだことを活かして、次回の実習で改善すべき点や利用者の気持ちに寄り添った介護について具体的に実践したいことについて記述していることから、「十分に満足できる」状況「Ａ」と判断した。

（３）福祉科における観点別学習状況評価の留意事項

今回の学習指導要領の改訂により福祉科の教科の目標は「福祉を通じ、人間の尊厳にもとづく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する」ことである。

福祉科では、生徒や学校、地域を適切に把握し、各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントのもと、①普通科・総合学科等において、一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促すキャリア教育と、②専門学科において、福祉に関連する職業に従事するうえで必要な資質・能力を育む職業教育の大きく２つに分けられる。各学校の特色に応じて教育課程が編成され、福祉科の教科・科目の目標を踏まえて、①キャリア教育における福祉教育または、②職業教育における福祉教育に応じた学習目標を定め、観点別学習状況の評価を行うことが求められる。

ほめる、
笑う、
しかる。

大阪「こころの再生」府民運動
～大阪あったかプロジェクト～

大阪府

大阪府教育庁教育振興室高等学校課　　令和３年１月発行
〒540－8571　大阪市中央区大手前二丁目　　TEL06(6941)0351